



埠頭 66 号



目次

I. 『埠頭 66 号』発刊に寄せて

2024 年度横浜慶友会会长 塚田 光博	8
----------------------	-------	---

II. 横浜慶友会の活動 (1)

▶ 2024 年度・企画イベント紹介	12
▶ 卒業生からのメッセージ	20
▶ 横浜慶友会・一年の活動	22

III. 特別寄稿

▶ 学ぶ関係の価値～ある教員にとっての通信課程 慶應義塾大学名誉教授 岡原 正幸	26
▶ 統計学が示す指標の見方 慶應義塾大学経済学部准教授 秋山 裕	28

IV. 2023 年度卒業生 卒業論文概要

▶ 「まち」の視点から考える「アートのまちづくり」 —黄金町にみるアートの可能性と限界— 文学部第 1 類卒 石黒 滋美	32
▶ 討議・責任・他者 —環境問題の解決の可能性— 文学部第 1 類卒 下山 進	37
▶ 高齢者虐待はいかに防止できるのか 文学部第 1 類卒 平井 衛	44

▶ 地域活動をキャリア形成にする女性の生き方 —複合キャリア形成による生涯発達と地域課題解決—	47
文学部第1類卒 正岡 純代	
▶ 『鉢かづき』と長谷寺の関係について	51
文学部第3類卒 竹田 和子	
▶ 消費者の現在志向バイアスが携帯電話産業の 流動性に与える影響の理論的考察	54
経済学部卒 榊 裕翔	
▶ なぜドイツの生産性は高いのか? —日本人のワーク・ライフ・バランス改善の為の提言—	57
経済学部卒 高橋 存根	
▶ 職務発明における「相当の対価」に関する経済学的考察	60
経済学部卒 田村 泰之	
▶ 土地所有権を手放す方法(「放棄」)に関する一考察	66
法学部甲類卒 油井 公彦	
▶ Life work (人生を懸けてフクイチを見届ける経済産業省官僚の12年)	70
法学部乙類卒 倉持 和佳子	

V. 新入会員の声

▶ 何のために慶應通信に入学したか	
文学部第1類 森永 憲彦	74
▶ 私の慶應通信入学に至る経緯	
経済学部 石塚 正樹	78
▶ 横浜慶友会とともに歩みたい	
法学部乙類 加々美 義友	81

VI. 入学後の勉強法

【履修プラン】

- ▶ 入学したものの、教科書の山が届いた。
落胆せずに勉強するには
 文学部第3類 野見山 洋樹 86
- ▶ 文学部の履修プラン
- 法学部乙類 淺井 貞博 90
- ▶ 活用なき学問は無学に等し
 経済学部 築比地 敬一 93
- ▶ 私の法学部履修計画について
 法学部甲類 竹田 瑛 98

【科目試験・レポート対策】

- ▶ レポート課題と科目試験対策について
 文学部第1類 中村 恩恵 100
- ▶ 勉強の仕方
 経済学部 河合 秀昭 103
- ▶ 私のレポート・試験対策
 法学部乙類 湯浅 裕介 106

VII. 自由寄稿

- ▶ 崖っぷちでも諦めるな！
 文学部第1類卒 石黒 滋美 112
- ▶ 福澤諭吉先生は、なぜ、仕官しなかったか？
 法学部甲類卒 小田 忠夫 116
- ▶ 木漏れ日
 文学部第1類 平山 次男 120

▶ 日本刀が彩る歴史探訪（その4）	
文学部第2類 神谷 喜人 123
▶ コミックマーケットと私	
経済学部 本田 光 129
▶ 学問の継続による効果は知識を増やし、 人生に大なる力となり得る。	
法学部甲類 渡部 外彦 132

VIII. 勉強会活動の振り返り

▶ 総合科目	リーダー 前村 孝子 136
▶ 文学部	リーダー 宮澤 輝明 138
▶ 経済学部	リーダー 安倍 潤子 140
▶ 法学部	リーダー 岸 伸京 142
▶ 卒論サークル	リーダー 渡部 外彦 145
▶ 卒論特別講座	案内役 渡部 外彦 147

IX. 横浜慶友会の活動(2)

▶ PEN 巻頭挨拶集 2024 年度 152
▶ 危機管理における横浜慶友会の基本姿勢 2024 年度横浜慶友会会长 塚田 光博 166
▶ 横浜慶友会規約 168

<編集後記> 172

I. 『埠頭 66 号』発刊に寄せて



三田・東門

『埠頭 66 号』発刊に寄せて

2024 年度横浜慶友会会长 塚田 光博

『埠頭 66 号』の発刊、心よりお祝い申し上げます。2024 年度本会定期総会のご承認により、3 期目となる会長を努めています。スタッフの皆様には日頃の活動にご尽力いただき、会員の皆様には本会活動にご支援いただき、改めて厚く感謝を申し上げます。本号発刊にあたり、2024 年度の本会活動を振り返り、その成果を掲げ、今後の活動の課題や方向性について、述べていきたいと思います。

会全体の活動である講師派遣（特別講演会を含む）は、3 回実施されました。11 月、清水先生の講演会では、時勢的な話題でもある欧州の民族紛争を中心に、ご講義いただき、新たな知見を得る好機となりました。12 月は、社会学名誉教授である岡原先生に 2 部構成として、通信での学び方と社会学について、講演いただき、講演会としては初のハイブリッド開催で行われ、オンライン参加を含め約 75 名の参加でした。直近 6 月の統計学テキストの執筆者である秋山先生からは、経済指標の捉え方など、学部をこえてわかりやすく学ぶ機会を得るという充実感のある学習会になったと感じています。このように講師派遣については、本会学習活動において、最も多くの会員が参加する学習の拠点として、中心的な役割を担っていると考えます。

また各行事等については、2 月ミニ講演会では、卒業生により卒論の取組等を中心に、ご講演いただき、また 12 名の卒業生を輩出した 3 月卒業式の記念撮影会には、多数の学友や家族がお祝いに集い、5 月卒業祝賀会には、10 名の卒業生皆様から、卒業までの道のりについてお話しを頂き

ました。各行事において、多くの学習仲間が参集するなど、貴重な学習交流の場となっているものと考えます。

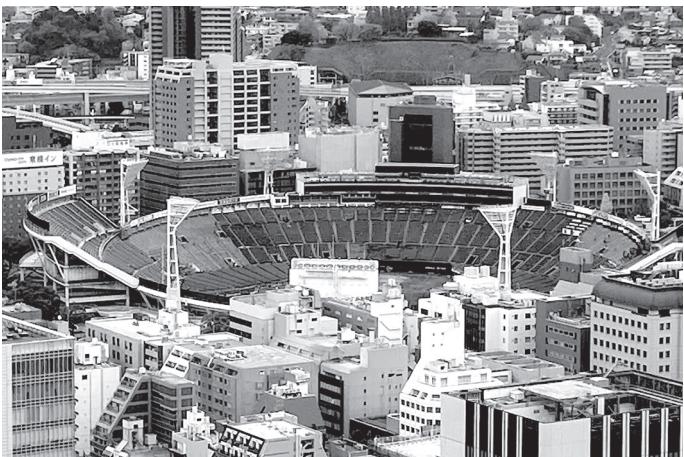
恒例である全卒業生による卒業祝賀会には、学外の中華レストランで総勢約 120 名が参加され、近郊慶友会と共同により準備委員として取り組みました。本会からも 5 名の委員が参加しています。また 6 月には、神奈川通信三田会主催の卒論発表会に、本会から 3 名が発表者として参加するなど、近郊慶友会や三田会等の連携事業も実施され、会員皆様も多数参加されるなど、慶應通信仲間としての幅広い協力関係が維持されているものを感じております。

総じていえば、講師派遣・勉強会、各種行事、各連携事業が、本会の主たる活動として実施され、多くの会員の皆様の参加により、学習の場として有効に活かされていると考えます。そのことは、活動を担っているスタッフ皆様のチームワークの良さや、目標に対して一定の成果を発揮しているという証しでもあります。

つまり、これら全体行事は、夜間例会と運営ミーティングで各行事の提案が行われ、教室や会場の確保、人数集約、広報活動、講師との連絡調整など、各課題の方向性や役割を検討し、スタッフが主体となって活動した日頃の成果として、評価されるべきでしょう。しかし一方では、こうした一連の業務に携わる人員も年々減少傾向にあります。リアル活動が復活した昨今、活動の担い手が次第に少なくなっていくなか、これまでにも実施してきましたが、今後一層、各担当の業務見直しを行い、事務の効率化を進めていくことが、当面の課題といえます。発想力や実行力のある会員の方には、魅力あふれる会づくりに向けて、スタッフとして会に参加することをお勧めいたします。

年間誌「埠頭 66 号」は、こうした年間の学習活動の経緯や、講師による特別寄稿、本期卒業生による卒業論文の概要及び会員皆様からの投稿などにより構成された本会の集大成ともいえる大切な 1 冊です。会員の皆様には、「浜慶を知る」、「学習の一助とする」、「在学時代の記念とする」など、大いに活用いただけることを願う次第です。

II. 横浜慶友会の活動(1)



横浜北仲ノットから望む横浜スタジアム

2024 年度企画 年間行事について

企画 伊澤 真弓

企画では、様々なイベントを通して会員の皆様の交流の場を提供しています。講師派遣では、3 学部が持ち回りで主催し、これまでたくさんのお講師をお招きしました。今年度は文学部の清水明子先生、経済学部の秋山裕先生、岡原正幸名誉教授には今回初めてとなる特別講演を行っていただきました。先生方の熱き講演と温かいお人柄に触れて、講演会は大いに盛り上りました。講師派遣は、通信生にとって数少ない先生との交流の場です。今後ともこのような場を大切にしていきたいと思っています。

2024 年 5 月には、卒業生をお迎えして「卒業生を送る会」が盛大に行われました。今年度は 12 名の方々が卒業され、昨年に引き続きハイブリッド形式によるリアル開催で行われました。卒業生の皆さまの晴れやかな笑顔は、会員にとっても大変喜ばしく卒業に向けてのモチベーションを高めることができました。また、「新入生ガイダンス」が併せて開催され、今年度も新会員の皆さまをお迎えすることができました。

その他、卒業生によるミニ講演会は、卒業論文やご自身の趣味に関する講演を行っていただき、卒業を目指す我々にとって非常に有意義なものとなりました。また、横浜慶友会 OB の方による鎌倉散策は、古都鎌倉の史蹟を巡る毎回好評の企画で、伝統ある横浜慶友会ならではの行事です。

このように今年度も様々な企画を実施できたことを皆さんに感謝いたします。学びを共有する友として、今後ともより多くの会員の皆さまの参加をお待ちしております。

◆ 2024 年度 年間企画イベント◆

2023 年 11 月「文学部主催講師派遣」清水明子教授

演題：ナチスから世界は何を失い、そこから私たちは
何を学び、何を伝えていくのか

2023 年 12 月「特別講演会」岡原正幸名誉教授

演題：通信での学び方について（前半）
社会学について（後半）

2024 年 2 月 「ミニ講演会」

文学部第 3 類卒 竹田和子さん
経済学部卒 只野孝子さんによる講演会を開催

2024 年 3 月 「卒業記念撮影会」

2024 年 5 月 「卒業生をお祝いする会」

2023 年度卒業生 12 名のうち 10 名が出席。
卒業生をお祝いしました。

「鎌倉歴史散策」

2024 年 6 月 「経済学部主催講師派遣」秋山裕准教授

演題：統計学が示す指標の見方
—統計学的な視点に立って、指標をどう見ていくか—

【2023年11月18日(土)講師派遣】

文学部の清水明子教授をお招きして講演会を開催。演題は「ナチスから世界は何を失い、そこから私たちは何を学び、何を伝えていくのか」でした。

文学部では、それに先立つ10月の勉強会において『検証 ナチスは「良いこと」もしたのか?』を手引きに、ナチスやヒトラーの功績について情報を共有したり、参加者同士がそれぞれの印象や意見を発表するなどして、講師派遣当日にのぞみました。

西洋史学専攻の清水明子教授は、日本国大使に随行して外交の最前線に身をおかれた経験があり、現在も度々現地に行かれていることから、体験談を織り交ぜた貴重なお話を聞くことができました。また、参加者からの質問にも、ひとつひとつ丁寧に回答して下さり、時間が足りなかつたように感じましたが、真摯な対応に感謝した次第です。

講演会の参加者は、横浜慶友会外部の参加者も含め51名。その後の懇親会についても29名の参加があり、先生を囲んで和やかに歓談することができました。



【2023年12月16日(土)特別講演会】

社会学の岡原正幸名誉教授をお招きして、初の試みとなる特別講演会を開催。この特別講演会は、先生が立ち上げた岡ゼミ会の協賛で実現しました。申込開始直後から多数の参加希望者が集まり、最終的にはオンラインを含む75名の参加となりました。

講演会は2部形式で、前半は「通信での学び方について」、後半は「社会学について」お話くださいました。前半の部は、在学年数に合った学びの進め方や卒論に向けた学習の進め方など実践的な内容で、みな興味深く聞いていました。後半の部は、「日常を疑う」をキーワードに、常識を鵜呑みにするのではなく、考え方や行為を疑うことの重要性について学ぶことができ、大変有意義な、楽しい学びの時間となりました。



終了後、横浜慶友会からの感謝の気持ちを込めて、クリスマスプレゼントに“グリューワイン”を贈呈し、最後に先生とも肩を組んで「若き血」を歌い、盛況のうちに終了しました。また、講演会後の懇親会にも引き続き多くの会員が参加して、先生との親睦を大いに深めることができました。

【2024年2月17日(土)ミニ講演会】

昨年9月文学部第3類をご卒業の竹田和子さんと、2018年に法学部を、2022年に経済学部を卒業された只野孝子さんをお招きして、Zoomによるミニ講演会を開催。

竹田さんには、卒論のテーマである「鉢かづきと長谷寺の関係について」お話し頂くと同時に、内容の理解に役立つ素晴らしい資料を用意していただきました。

只野さんは、既に卒論についてはあちこちで発表しているということで、今回は「私の（オタクな）音楽旅行記」と題して、ドイツ・イタリア旅行を“音楽にまつわるテーマ”を決めて楽しむという、素敵なお旅の楽しみ方について教えていただきました。

講演時間は、それぞれ30分でしたが、質疑応答の時間も設けられ、会員とともに有意義で楽しい時間を過ごすことができました。

【2024年3月25日(月) 卒業記念撮影会】

3月25日、日吉キャンパスで卒業式が行われました。2023年度は、横浜慶友会から12名の卒業生が輩出されました。今年はお天気にも恵まれ、独立館テラスでの撮影には、卒業生をお祝いするスタッフや関係者が駆け付け、花束やプレゼントが行き交うなど、とても華やかな雰囲気に包まれていました。最後に、お祝いに駆け付けた在校生、スタッフ、関係者らも卒業生とともに素敵な写真を撮ることができました。



【2024年5月18日(土) 卒業生をお祝いする会】

日吉キャンパスにおいて、卒業生12名のうち10名に出席していただき、お祝いに駆け付けた会員の方々と共に「卒業生をお祝いする会」が開催されました。

開会宣言、塾歌齊唱に続いて、文学部、経済学部、法学部の順に、学部リーダーが司会を務める形で、卒業生一人ひとりに、卒論のほか、在学中の思い出や学習方法についてなど、貴重なお話をいただきました。

卒業生を代表して正岡純代さんより祝辞が述べられ、記念品

贈呈、若き血齊唱と続き、閉会の辞では締めくられました。

その後、日吉駅近くのお店に場所を移して懇親会が開催され、お祝いする会では聞けなかったお話などしながら、卒業生の方々と楽しいひと時を過ごすことができました。

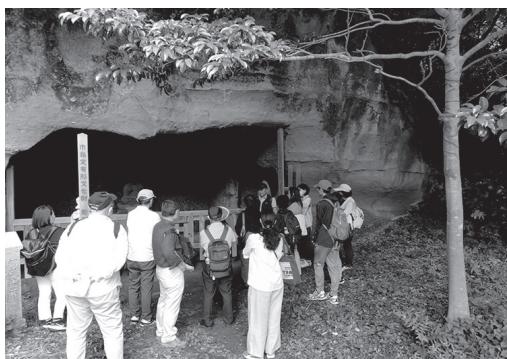


【2024年5月25日(日) 鎌倉歴史散策】

リアル開催3回目となる鎌倉散策。今回のテーマは、新緑の鎌倉で歴史散策を楽しむというだけでなく、「定番のパワースポット+知る人ぞ知るお寺」という興味深いテーマの基、横浜慶友会 OB の中田幹雄さんの案内で、新緑の季節の鎌倉散策となりました。

鎌倉駅に集合後は、①銭洗い弁天(金運を呼ぶパワー・スポット) ⇒②葛原岡神社(鎌倉一の縁結び神社) ⇒③源氏山公園(昼食) ⇒④化粧坂切通(中世鎌倉の要衝) ⇒⑤海蔵寺(十六ノ井・花の寺) ⇒⑥岩船地蔵堂(頼朝の娘・大姫の供養堂) ⇒

⑦淨光明寺(北条氏縁の寺) ⇒⑧英勝寺(水戸家縁の鎌倉唯一の尼寺) というコースで、定番のパワースポットをはじめ、あまり知られてはいない「知る人ぞ知るお寺」を中田さんの解説



で巡りました。

散策後の懇親会では、鎌倉や歴史にまつわる話のみならず、様々な話題で盛り上がり、楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

【2024年6月22日(土)講師派遣】

経済学部の秋山裕准教授をお招きして、講演会を開催。演題は「統計学が示す指標の見方—統計学的な視点に立って、指標をどう見ていくか—」。

今回の講演は、①経済指標は何をとらえようとしているのか、②豊かさはどうのようにとらえることができるのか、③経済の現状をとらえるための指標「失業率」は景気の上昇を表しているのか、との3点から説明がなされました。

経済指標は、一国の経済規模の大きさを捉るために広くはGDPが用いられているが、現在では、さまざまな角度から経済の現状を捉えるための指標も開発されてきているとのこと。景気の動向をいち早くキャッチすることは重要であるが、それは、「先行」「一致」「遅行」という3つの景気動向指数から、将来の景気動向を見通すことができることなども学ぶことができました。

講演会には、オンラインも含めて60名の参加があり、その後の懇親会にも30名程度が参加し、先生を交えての会話も弾み、楽しく有意義なひと時を過ごすことができました。



卒業生からのメッセージ

～卒業祝賀会・アンケートより抜粋～

●卒論は、初志貫徹が何より大事です。周囲の意見に惑わされることなく、書きたいテーマで書くことをお勧めします。「楽しんでいる人には勝てない」と誰かが言っていましたが、本当にその通りです。そして何より、「学習は計画的に！」

文学部第1類卒 石黒滋美

●仕事や家庭などと両立して学習を進めなければならなかったため、残念ですが慶友会にはほとんど参加できませんでした。本来であれば、仲間と学ぶことを希望して入会しましたが、それでも埠頭やホームページなどで共に学んでいる人を知ることで、モチベーションを保つことができたと思います。運営されているスタッフやメンバーに感謝したいと思います。ありがとうございました。

文学部第1類卒 下山進

●2019年の秋にスタッフに誘われたことで多くの人間関係を持つことができました。そのお蔭で、コロナ禍という異常事態を切り抜けることができたと思います。

文学部第1類卒 正岡純代

●慶友会やスクーリングでたくさんの友が出来たことが私の財産になりました。

文学部第3類卒 竹田和子

●慶應通信は孤独との戦いなので、同士を見つけるという意味で横浜慶友会に継続的に参加したら良いと思います。また、私の場合は定期的に大学野球（神宮）を見に行って、モチベーションを保っていました。

経済学部卒 樺裕翔

●卒業生に対して、ここまで祝賀会や懇親会まで計画してくださる慶友会が他にあるだろうかと感謝の気持ちで一杯です。本当に横浜慶友会に所属出来て良かったと思います。今後はOBとして、何らかの形で、現役生を支えて行きたいと思います。引き続き宜しくお願ひ致します。

経済学部卒 高橋存根

●慶友会に参加していると、自分が今卒業までの道程のどの程度の位置にいるのかがわかってモチベーションが保てました。

経済学部卒 田村泰之

●レポート科目については、科目群・難易度・単位数を考慮しながら順調にこなしていく下さい。単位の取得が難しい選択科目はパスすることも大事です。ぜひ、情報交換会で質問してみて下さい。

法学部甲類卒 油井公彦

●社会人をしながら学びを継続することは大変難しいですが、横浜慶友会でお仲間ができ、先輩方からのアドバイスも大変有り難かったです。スタッフの皆さんにも感謝しております。対面で受講できるスクーリングの時間は他地域の方と交流もでき有意義でした。 法学部乙類卒 倉持和佳子

◇◇横浜慶友会・一年の活動◇◇

年月日	活動名	主な内容	会場	特記事項
2023年 9月	8.16日	運営ミーティング 勉強会	Zoom	
	17.18日			
2023年 10月	13.21日	運営ミーティング 勉強会 定期総会	日吉キャンパス Zoom	
	15.21.23日			
	21日			スタッフ選出 会長:塚田さん 副会長:笈川さん
2023年 11月	10.18日	運営ミーティング 勉強会 講師派遣・懇親会	日吉キャンパス Zoom	
	18.19日			
	18日			文学部 清水明子教授 演題:ナチスから世界は何を失い、 そこから私たちは何を学び、 何を伝えていくのか
2023年 12月	8.16日	運営ミーティング 勉強会 特別講演・懇親会	日吉キャンパス Zoom	
	16.17日			
	17日			岡原正幸名誉教授 演題:通信での学び方について(前半) 社会学について(後半)
2024年 1月	15.20日	運営ミーティング 勉強会	Zoom	
	20.21日			
2024年 2月	9.17日	運営ミーティング 勉強会 ミニ講演会	Zoom	
	17.18.19日			
	17日			文学部第2類卒 竹田和子さん 経済学部卒 只野孝子さんによる講演
2024年 3月	8.16日	運営ミーティング 勉強会	Zoom	
	16.17日			
	25日	卒業式	日吉キャンパス	卒業記念撮影会

年月日	活動名	主な内容	会場	特記事項
2024 年 4 月	12.20 日	運営ミーティング 勉強会	Zoom	
	20 日			
2024 年 5 月	10.18 日	運営ミーティング	日吉キャンパス Zoom	
	18.20 日	勉強会		
	18 日	卒業生をお祝いする会		卒業祝賀会・懇親会
	18 日	新入生歓迎会		新入生ガイダンス・懇親会
	25 日	鎌倉散策	鎌倉	定番のパワースポット+知る人ぞ知るお寺
2024 年 6 月	14.22 日	運営ミーティング	日吉キャンパス Zoom	
	22.24 日	勉強会		
	22 日	講師派遣・懇親会		経済学部 秋山裕准教授 演題：統計学が示す指標の見方
2024 年 7 月	12.20 日	運営ミーティング	Zoom	
	20 日	勉強会		
2024 年 8 月	17 日	夏期スクーリング	日吉	総勢 27 名が参加



III. 特別寄稿



日吉・イチョウ並木

学ぶ関係の価値～ある教員にとっての通信課程

慶應義塾大学名誉教授 岡原 正幸

皆さん、お元気でしょうか。昨年度には、退職していたにもかかわらず、おそらく3～4回目になる横浜慶友会講師派遣として皆様の前でお話しできること嬉しく思います。さて今回は、私たち教員にとって通信課程の意義を少し述べさせていただきます。今まで入学式のオリエンテーションや地方学習相談会などで通信教育課程について語るときには次のようなことを言ってきました。(1)義塾の初発形態の三つの学部、つまり、文学部・法学部・経済学部（理財）のままで、文学部でも哲学・史学・文学という三つの類（学科）を維持している「塾の博物館的な価値」、(2)慶友会や講師派遣制度に見る学生側の主体的な学びの場の設置や学生が教員を招聘するという「大学なるものの西洋での誕生」を呼び起こす「学生自主」の魂、(3)コロナ禍を経た現代社会での遠隔通信による標準的な教育制度を先取りしていた先進性、(4)卒業論文の必修化や複数教員による査読審査、(5)地域的な縛りを超えてグローバルに学びを行えること、(6)慶應義塾以外の大学卒業者に唯一開かれた学士入学の機会提供、などでした。

さて、ここでは視点を変えます。僕ら教員にとって通信課程での学び（学び合う）とは何だったのかを、個人史的に語りたいと思います。僕は1989年に助手として文学部の教員になりました。一貫校の普通部出身ですので、この段階でも、慶應には19年間いたことになります。90年に最初のスクーリング（夜）を担当します。西校舎の階段教室は満杯でした（当時は通信の学生数が最大の時期で今の倍でした）。僕が仲間と著し公刊されたばかりの『生の技法』という書物が参考書で、地域で一人で生きる重度障害者へ

の聞き取りをベースにした研究でした。授業は自立生活と呼ばれる社会運動や生の様式に関する紹介でした。障害を持った子供たちとの会に学生時代に関わっていた僕は、具体例としてその時の経験を教室で引き合いに出します。

数回目の授業で、自宅の火災で亡くなったF君の話を出します。一旦家の外に出たのに、お気に入りのぬいぐるみを取りにまた家に入って亡くなった小学校3年生の男子でした。僕はF君のことを見た瞬間に、教壇で、嗚咽してしまいました。言葉が出ません。学生の皆さん驚いたことでしょう。でも、しばらくして「頑張って」との声が教室のいろいろな所から発せられました。

嬉しかったです。教壇で自分一人孤立しているわけではない、と感じたからです。そうだ、授業は教員だけでなく聴講している皆さんのが初めて成立するということ、その当たり前に気づいたのです。僕の性格では、気づかされたアイデアは即応したい、となります。そこで後日、学生の皆さんに「この中で自分について発表したい方はいらっしゃいますか」と聞きました。全体で300人を超える中、100名近くの方が希望。一人3分で300分。授業3回分が皆さん語りです。非常に充実した時間が多くの方に共有されました。その体験は貴重でした。そして、ご存知の通り、その後、通信だけでなく通学においても、僕は教員だけが前で話すという形式を一切やめました（実は講師派遣だけが僕が前に出てもっぱら話すという形式で行っています）。

通信の皆さん学びへの真剣な態度にはいつも励まされてきましたし、退職するまでやってこれたのも通信の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

統計学が示す指標の見方

慶應義塾大学経済学部准教授 秋山 裕

世の中には数多の学問分野があるが、その中には、統計学と結びつくことによって、抽象的な学問から実践的な学問へと変貌するものも多い。経済学はその中の1つとして有名であり、経済の現状をとらえ、政策を立案するにあたって、統計学は不可欠である。

本講演では、経済の現状をとらえる代表的な経済指標として、GDP、幸福度指標、景気指標をとりあげ、それらの特徴について説明する中で、統計分析の一端を解説した。

一国経済の規模の拡大は、その恩恵がすべての人に等しく行きわたるならば、人々の豊かさにつながるため、常に注目され、その経済規模を表す指標として、GDPが広く用いられている。GDPは、商品やサービスなどの販売金額から、原材料などの支払金額を差し引いた金額の合計であり、その中身を組み替えると、人々が経済活動を通じて生み出した付加価値の合計にあたる。しかし、持続可能性の重要性の認識の拡大に伴い、経済活動に伴う環境劣化コストを考慮したグリーンGDPなども生み出されるなど、将来、GDPに代わる指標が定番になるかもしれない。

ある国の人々の平均的な豊かさをとらえる指標として、1人当たり所得が広く用いられている。これは、豊かさは個人が感じるものであるから、1人当たりの尺度のほうが実感しやすいためである。しかし、豊かさは、所得だけで感じるものではないため、様々な豊かさ指標が推計されている。例えば、1人当たり所得に平均寿命や就学率などの指標を加えて集計される人間開発指標は代表的な客観的指標であるが、重視する指標が人々の価

値観によって異なるため、多くの人々が納得する指標の作成は困難である。これとは対極に、調査で回答された人々が感じている幸福度の点数を国別に平均した世界幸福度は代表的な主観的指標であるが、幸福の感じ方は育った環境に影響を受けやすいことから、計算された値の国際比較の妥当性に問題が生じやすい。完璧な幸福度指標は未だ存在していないが、これらの指標と1人当たり所得の間の相関係数はプラスで大きいことから、人々は、1人当たり所得が幸福度指標としては不十分であることは理解しながらも、それを使い続けている。

ある国の景気の動きをとらえる指標として、景気動向指数が広く用いられている。GDPは優れた経済指標であるものの、推計までにある程度の時間を必要とするため、景気動向指数の先行指数に注目が集まる。景気の動きに合わせて反応する指標が一致指数であるのに対して、景気の動きに先行して反応する指標は先行指数と呼ばれる。一致指数と少し月を遅らせた先行指数の間の相関係数はプラスで大きく、先行指数が景気を先行していることが確認できる。

指標を用いるにあたっては、その指標の成り立ちや似た指標との違いなどを確認しながら、知りたいことに合致した指標を選択することによって、まずは基盤をしっかりとから、分析に進むことが重要である。

IV. 2023 年度卒業生 卒業論文概要



「まち」の視点から考える「アートのまちづくり」

—黄金町にみるアートの可能性と限界—

文学部第1類卒 石黒滋美

指導教員 文学部 近森高明教授

要約

横浜市中区の 黄金町（初黄・日ノ出町地区）は、まちの風紀を乱す原因となった違法風俗営業を行う小規模店舗を排除し、子どもから高齢者まで安心して住み続けることのできるまちを目指した。2003年11月に初音町、黄金町、日ノ出町の3つの自治会からなる、「初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会」を発足させた。警察と連携し地域一丸となって環境浄化を進めた。

2005年の神奈川県警による一斉摘発が功を奏し、まちの浄化を果たしたのだが、それと引き換えにまちが空洞化してしまった。横浜市の中心都市部に近く、交通の便のよい好立地にありながら人々の往来がなくなった。その上、空き店舗が増えたことで外部からの侵入者が見られるなど、まちの治安は改善したとは言い難い。

まち全体の経済活性化と活気を取り戻すために行政や、近隣の大学研究機関、地域住民の連携による地域再生とコミュニティの場として、国内外からアーティストをまちに呼び込み、2008年に「黄金町バザール」や学校の夏休みを利用した「子どもバザール」を開催したことで、イベント時には人々の往来が増えた。

現在は、毎年行われる「黄金町バザール」の開催の他、まちの資源ともいえる大岡川や川沿いの桜並木を活かした取り組みや子ども達が集まる場所の提供で近隣住民が創作活動を楽しむ姿も見られるようになり、まちの雰囲気が明るくなった。その一方で、今でも反社会的勢力の働きが時折影を落としているという。

アートの持つ多様性・多面性や将来まちを担う子ども達にも視点を向けながら、アートによるまちの再生と活性化を実現した黄金町が、現在の姿になるまでの問題点や可能性と限界、そして、「初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会」の発足から 20 年が経ち、世代交代の時期を迎えた現在の課題を含めて考察した。



黄金町交番 (2023 年 6 月 13 日 / 筆者撮影)



黄金町の一画 (2023 年 9 月 23 日 / 筆者撮影)

目的

研究の目的は、アートを手段としたまちづくりを目指す横浜市の黄金町に焦点を絞った「まち」と「アート」との関係性を探りつつ、黄金町におけるアートの可能性と限界を社会学の視点から考察することである。

目的を果たすために、以下の三つの課題を掘り下げながら進めた。

①行政としての横浜市のリードのもと、アートを手段として暗い過去から脱却すべくイメージ刷新を図った黄金町の歴史。

②まちの再編にアートを採用することに対して、住民の拒否反応の乗り越え方。

③黄金町に現存するアートの中には、奇抜な絵画もある。それは、公共の建造物などに暴走族などがゲリラ的に描くものを連想させる。まちの美観という観点からも大きな問題となり得る。

方法

上述の③を最大の課題として、それらアートを①見ざるを得ない者（住民）②魅せたい者（アーティスト）、③観る者（観光客を含む外部からの来街者）のそれぞれの立場を現地調査によって整理した。また、アートプロジェクトそのものに対する人々の感情においても、積極派、反対派、無関心層の存在があると想定し、その三者を分類しそれぞれの意見や考え方を左右する要因の布置連関を整理した。

調査中に新たな問題が浮上した。それは、黄金町ではアーティストが「乱用」されているのではないかという懸念である。

第三者の立場として、関係者へのインタビューをくり返し、懸念事項に

についてアーティスト自身に確認した。最後に、まちが持続可能であるための意見を示した。



「アトリエ日ノ出町」 廃材利用でアートを楽しむ子ども達
(2022年8月20日 / 筆者撮影)

註

- 1) ここでいう「黄金町」とは、京浜急行電鉄の黄金町駅から日ノ出町駅までの高架下沿線一帯を呼称している。両駅間は約 800 メートルの距離で、電車で 2 分弱、徒歩でも 10 分程度で辿り着くような小さな界隈を指す。

主な参考文献

- 近森高明. (2019). ソーシャル時代の芸術作品. フォーラム現代社会学.
八木澤高明. (2022). 裏横浜—グレーの世界とその痕跡. ちくま書房.
山野慎吾 + 鈴木伸治. (2021). アートとコミュニティ横浜・黄金町の実践から. 春風社.
横山千晶. (2021). コミュニティと芸術 パンデミック時代に考える創造力.
慶應義塾大学教養研究センター.

- 笹島秀晃 . (2011). アートによる地域再生の今日的様相—横浜市初黄・日ノ出町地区における安全・安心まちづくりと芸術不動産事業に着目して—. ヘスティアとクリオ .
- 田村明 . (2006). 都市プランナー田村明の闇い 横浜〈市民の政府〉をめざして . 学芸出版社 .

「社会学」で卒論テーマを検討している方へ

僭越ながら私は、社会に飛び込んでこそ、「社会学」の意義が存在するものと信じています。インタビューには時間も労力も、そして、部外者として人の輪に飛び込むということで、強くしなやかなメンタルを要します。付近の大学病院に勤務していた頃から、黄金町には強い関心を寄せていました。ただそれだけで、触れてほしくないであろう質問に答えてくれるだろうか?など余計な心配もしていましたが、現地のバー経営者やアーティストや住民たちは、快く応じてくれました。イベントに参加したり、バーではお金も使いましたが、お酒が飲める体質で助かりました。調査には、横浜慶友会の今井様、神谷様が(卒業後にも挨拶を兼ね)何度かご同行してくださいり、異なる視点で観察してくれたことは、本当に励みになりました。

なお、現地調査の際には学生証の提示を!強靭なパスポートになりますよ(笑)

討議・責任・他者 ～環境問題の解決の可能性～

文学部第1類卒 下山進
指導教員 文学部 柏植尚則教授

背景

卒業論文では、討議、責任、他者という題目のもと、その理論と実践の論考を考察し、環境問題の解決の可能性を副題として検討した。テーマは二つある。一つ目は環境問題の解決の可能性を探る実践としてのコミュニケーションのあり方を問うもの、二つ目は環境問題を抱える科学技術文明時代の自然に対する価値観や世界観を再構築することである。これらは別々の問題ではなく両輪とならなければならないものである。このテーマは、あらたな倫理的な見直しでもあり、いわば人間と人間の関係、人間と自然の関係をどのように再構築できるか検討するものである。

一つ目のテーマ

一つ目の検討は、1章においてユルゲン・ハーバーマス（以下ハーバーマス）の『討議倫理』を取り上げた。ハーバーマスの批判的社會理論の主張は、市民全体による討議における合意と理解を基軸として、社會における支配者と従属された市民という支配関係を転倒して、戦略的コミュニケーションから生活世界の合理化という社會へと導こうとするものである。こうした観点から環境問題を捉えることによって、権力の主従関係のみならず人間と自然の主従関係を変更できるのではないかと考えた。

だが、討議倫理は抽象的な手続き論的であると批判されるばかりか、実践の動機付けがないと多くの研究者から批判されている。これは「実践の空白」と呼ばれる。ここに環境問題への実践を定義することで、討議倫理の実践の空白を埋めることができるのでないかと想定した。そこで、この批判に応えるべく、第一段階の比較研究として「科学技術社会論」を取り上げ、社会の実践における科学的な使用の決定がどのようなプロセスによってなされるかを考察し、第二段階として実践の活動の事例として「流域思考」という生態学的な視点から環境問題に取り組み、行政と市民の対話による自然保全を成功させた活動のプロセスを確認した。いずれにせよ環境問題への取り組みは、まずは、いかに自然とのつながりを理念によって構築・醸成することができるかを前提とし、人々との対話や討議倫理の討議による合意形成や理解を深めることで、何らかの進展があるはずであるという論点に絞った。

だが討議倫理に、科学技術社会論や流域思考のような実践を重ね合わせたとしても、討議によって合意、理解されたことがどのようにして実践へと向かうのかという循環的な疑問が湧き上がる。ここに不足するのが、單なる合理性だけでは自然への崇高さや自然が自生して循環を繰り返していくことへの完全には解明できない科学的な不可能性がある。いわば形而上学的な自然への理念である。

前もって言えば、2章で取り上げるハンス・ヨナス(以下ヨナス)によると、倫理は古代ギリシャに成立したもので、それは城壁のなかの小さな世界であったとする。ひるがえって科学技術の時代は、世界の隅々までわれわれは知ることができると考えている。このギャップは、自然の摂理をすべて知り得ないにもかかわらず、それを持続させる義務と責任があると主張す

る。これがヨナスの主張する世代間倫理の裏付けであり、合理的な思考を超えるものであるが、ある意味で形而上学的な未来の人間に対する責任という原理になるとする。これが現在の国際会議などでも認識されている世代間倫理である。

一つ目の論旨から二つ目の論旨への導入として

ここで問題となるのは次のことである。そもそも古代から続く現在でもその原則となっている倫理的な関係とは、行為による責任をどのように取るか、という契約関係であるから（つまり論理的な合理性）、ヨナスのように未来の人間という現実の世界に実体していないもの（つまり形而上学的）とは契約関係にないというジレンマに突き当たる。このことは、1990年ごろに環境倫理学において議論されている環境全体主義につながるとして危惧されているものである。つまり、自然を倫理の対象とするならば、むしろ道具として経済的な使用が制限され、また極端に言えば、人間が自然を生存のために利用することができなくなってしまう。つまりこのことは、自然を倫理の対象に加えることで、倫理によって自らの生存と存続に窮する究極的なペシミズムに陥ることにもつながるからである。論考を進めながら、こうした自然の価値観と世界観を変更するというテーマは形而上学的な問題であると見定め、ハーバーマスの討議倫理で主張される自由を前提とした普遍的な合理的間主觀性（客觀的な合理性）に重きを置く理論付けど矛盾があらためて明らかになった。そこで、2章のヨナスと3章のエマニュエル・レヴィナス（以下レヴィナス）では、形而上学的な要素が基盤となる学者であり、形而上学と合理性という1章のハーバーマスとは対照的な理論をどのように重ね合わせるか検討した。この対立を自然

の価値観や世界観を形而上学と合理性という対立による観点に定義し直して考察し、一つ目のテーマで問題となった実践の空白と、二つ目のテーマで論点とした形而上学的な自然という価値観や世界観を重ね合わせることで、実践による環境問題の解決の可能性を高めることができないかという結論を求めるに至った。

二つ目の論旨

こうした中で2章と3章では、討議倫理において発生した形而上学と合理性のジレンマ、すなわち言い換えれば、合理性とは、相互性であり、形而上学とは、非相互性という言葉に集約して論究することにした。そして、この相互性と非相互性の対立をどのように和らげるかということが鍵となつた。

ヨナスの倫理は、現世代と未来世代という時空を超えた非相互性、そしてレヴィナスは、主体同士が非対称性（倫理的な関係は言語による同一的な相互性だけでは定義づけられないという意味）にありながら、非相互的であるにもかかわらず、その特有な倫理として、絶対的な〈他者〉の責めによる受動的な倫理の関係が成立つと主張している。つまり主体同士の非相互性は、各々の主体が隔絶された世界の中で、絶対的な〈他者〉という存在者から圧倒的な責めを負うことこそが倫理であるといふこれまでの倫理の対称性を脱出しようとする非相互性である。この非相互性の他者を「自然そのもの」に見立てることで、倫理の対象となるか検討した。

しかしながら、こうした検討は、指導の中で特に指摘された。哲学は、古代からの自然とは何かという問題に取り組み続けており、卒業論文の中でそれを解決することなど到底できることを恥ずかしながら知った。そ

ここで指導の内容に従って方針を変え、非相互的な倫理を討議倫理に直接的に付加して拡張するのではなく、どのように自然そのものが実践の理念となるかという形で再検討した。それはフェミニズム論などにみられる近接法というアプローチである。これは経験的なアプローチであり、本来的な実践の形である。それは、実際の日常生活で生起する規範の不具合を、現実の行為の実践から逆説的に規範を再構築させようとするもので、不利な立場にあることや不寛容な暗黙の悪習に抑圧されている状況を打破する理論となるものである。環境問題も言語行為を持たない「自然そのもの」を不利な立場にある存在者と見立てることで、実践の行為による重大な規範の変更を迫られている環境問題を意識づけるために、この手法が効果的であると考えたからである。

結論

結論では、1章のハーバーマスの討議倫理における合理性は欠かすことのできない普遍性であるが、2章ヨナスや3章レヴィナスの提唱する形而上学や存在論は、実践へ導くための「理念的なもの」として近接する仕方で存在することが必要であるという方法を主張した。次の引用は、4章で展開した1章から3章の議論をまとめた一節である。

「言い換えれば、討議倫理の理論による生活世界において、レヴィナスの〈他者〉やヨナスの〈責任〉という概念が、直接的に討議倫理の理論に拡張されるのではなく、生活世界においての日常的で自明な領域と、直観としての理解できる領域によって、共同体における実践の活動のなかに「理念的なもの」として生活世界に組み込まれるという異なる仕方での拡張である。」

最後に、卒業論文では討議倫理を中心した議論になったが、指導の中で、この論文の独自性は、自然を他者というテーマで研究することであるという評価を頂いた。しかし実際には、この独自性を論文の中で思ったように展開するには、古代ギリシャ哲学から振り返る必要を指摘され、学術論文の研究の奥深さを知ることができた。

【章立て】

1章 討議（ユルゲン・ハーバーマス）

1節 環境問題と討議

2節 科学技術社会論と環境問題

3節 討議と流域思考

（討議倫理による環境問題の解決の可能性）

2章 責任（ハンス・ヨナス）

1節 科学技術文明と『生命の哲学』の考察

2節 『責任という原理』の理論と形而上学的なもの

3節 責任による環境問題の解決の可能性

3章 他者（エマニュエル・レヴィナス）

1節 『実存から実存者へ』の考察

2節 『時間と他者』による実存者の時間の考察

3節 〈他者〉による環境問題の解決の可能性

4章 生活・実践・理念（自論の展開とまとめ）

終章 結論と今後の課題

【卒業論文指導期間】

2021年9月 第1回 予備指導及び本指導1回目
(論文構想、草稿の書き始め)

2022年5月 第2回 本指導2回目 (1章までの執筆)
2022年9月 第3回 本指導3回目 (2章までの執筆)

2023 年 5 月 第 4 回 本指導 4 回目

(3 章、序論結論及び追加した 4 章の執筆)

2023 年 6 月 卒論提出

2023 年 9 月 卒論審査・総合面接試問

2023 年 10 月 卒業判定により 2023 年 9 月に卒業

【主要引用資料】

(1 章 討議)

1. ユルゲン・ハーバーマス著、清水多吉 / 朝倉輝一訳、2005 年、『討議倫理』、東京：法政大学出版会
2. 岸由二著、1996 年、『自然へのまなざし』、東京：紀伊国屋書店
3. 藤垣裕子編、2020 年、『科学技術社会論の挑戦 2 科学技術と社会—具体的課題群—』、東京大学出版会

(2 章 責任)

4. ハンス・ヨナス著、加藤尚武監訳、2000 年、『責任という原理』—科学技術文明のための倫理学の試み—、東京：東信堂
5. ハンス・ヨナース著、細見和之・吉本陵訳、2008 年、『生命の哲学』—有機体と自由—、東京：法政大学出版局

(3 章 他者)

6. エマニュエル・レヴィナス著、西谷修訳、2005 年、『実存から実存者へ』、東京：筑摩書房
7. エマニュエル・レヴィナス著、原田佳彦訳、1986 年、『時間と他者』、東京：法政大学出版会
8. エマニュエル・レヴィナス著、合田正人訳、1989 年、『全体性と無限』—外部性についての試論—、東京：国文社
9. エマニュエル・レヴィナス著、合田正人訳、1999 年、『存在の彼方へ』、東京：講談社学術文庫
10. ジャック・デリダ著、川久保輝興訳、1983 年、『エクリチュールと差異』（上）、東京：法政大学出版会

高齢者虐待はいかに防止できるのか

文学部第1類卒 平井 衛

指導教員 文学部 木下 衆 准教授

私が取り上げた卒業論文のテーマは、高齢者の虐待が深刻化するメカニズムを明らかにすることで、虐待防止の手がかりを見つけることを目的としたものでした。

このテーマを選んだ背景としては、すでに皆様もご承知の通り、今の日本は急速に進む高齢化社会をむかえ、それに伴って介護を必要とする高齢者が増加の一途をたどっている状況があります。

内閣府が毎年定期的に出している高齢者白書の2022年度版「高齢者の現状と将来像」及び「健康と福祉」などを見てみても、介護保険制度における要介護者または要支援者の認定を受けた人のうち65歳以上の人について2019年（令和1年）では655.8万人となっており、10年前の2009年（平成21年）の469.6万人から見ると、じつに186.2万人も増加している状況がわかります。

また介護者のなかでも虐待対象の問題となってきた認知症患者は、同じ内閣府発表の高齢者白書の2013年度版をみると、2012年度（平成24年）調査では462万人と推計され、2025年（令和7年）では約700万人と推計されています。これらをみると、介護や療養を必要とされる人々の人数は今後もさらに増加し、それに伴い養護者の介護疲れやストレスも増して行く事が十分考えられます。このような背景のもと、高齢者に対して行うべき世話や介護が放棄・放任されたり、高齢者が身体的ある

いは心理的な攻撃を受けたりするような虐待がさらに深刻化してくる。

虐待は高齢者的人権を侵害し、その人がその人らしく生きる生き方を否定するものであり、喫緊の対応が必要であると強く感じたことがこのテーマに取り組むきっかけでした。

高齢者への虐待は、2006年4月に「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」が施行され、高齢者のみならず養護者（介護者）も視野に入れた支援が展開されたのである。これにより虐待の「防止」を目的とした法的基盤が整備され、虐待に歯止めがかかると思われていました。しかしいまもって高齢者虐待が減る状況には至っていないのです。

指導教員は、この背景をもとに慶應義塾大学内の学部別教員の専門を検索しましたところ、医療社会学の木下衆先生に出会いました。木下衆先生は介護領域すでに何冊もの本を出版されておられ、私のテーマに共通しているところも研究されていることが確認できましたので、卒業論文の指導申込み依頼を提出し、承諾を得て卒業論文の指導を受けるに至りました。

卒業論文を作成するにあたりましては、まず先行研究のレビューを行った上で、高齢者介護の第一線で働く居宅介護支援専門員（ケアマネージャー）にインタビュー調査を実施しております。

高齢者虐待の先行研究のレビューでは、虐待発生のメカニズムは複雑であり、また重層的である。特に要介護者が認知症であること、そしてこの要介護者と養護者が同居していて、常時接触している環境にあることは虐待の深刻度合いも増す条件となる。しかしこれ以外にも虐待が起こりやすい要因は多数存在しており、それらが絡み合って、特定することが難しい事などを分析把握しました。

本稿でインタビューを実施した調査の特徴は、高齢者虐待の実態調査を

進めるために、本来、虐待のあった家庭から直接データを得ることが望ましいが、現実にはそれを実施することは難しい。そこで本稿ではケアマネージャー（介護支援専門員）への聞き取り調査を実施した事です。

事例検討は虐待を受けた高齢者の事例報告のうち、ケアマネージャーから許可を得たケースを取り上げ、検討を行っております。

そしてそれらのケース検討から高齢者虐待の実態と課題を考察し、虐待を予防するために必要な提言を行いました。その中のいくつかをお話ししますと、まず、介護者が認知症である場合には、介護するうえでの認知症の理解と知識を得ておくことが重要である。次いで、養護者と要介護者の接触時間である。養護者と介護者が同居しての介護は接触時間も長くストレスが蓄積することになり、不満が増大することを招いてしまう。これを避けるために、介護者の人数はできるだけ多くして交代で介護にのぞむ方が良い。介護は個人が一人で行うには限界があり、介護協力者や相談相手を持てるような条件作りが必要である。などの提言を行なっております。

今回論文を作成するうえで大変であったことの一番に、インタビューを実施したことが挙げられます。これは先行研究の虐待報告と現状の虐待実態の変化を把握するために避けて通れない作業でありました。

しかしコロナ禍であって、なかなかうまくインタビューのアポイントが取れないことで、予定通り進める事ができずに大変長い期間を要しました。またインタビューにもかなりの時間を要する事が多く、短くても2時間、長い時には5時間を費やしたこともありました。さらにインタビューで得た内容を文字起こしして要約をする作業ではさらに長い時間を要したこと思い出されます。

しかし、辛抱強くこれらをやり終え、書き上げた論文を手にした時の感激はひとしおでした。

地域活動をキャリア形成にする女性の生き方 —複合キャリア形成による生涯発達と地域課題解決—

文学部第 1 類卒 正岡 純代

指導教員 文学部 稲葉 昭英 教授

はじめに —入学から卒論まで—

大学卒業後、2年弱仕事をし、結婚、その後は家事育児の専業主婦になりました。さらに夫の転勤で見ず知らずの東京に移り住み、誰も知る人がいない中で少しづつ人間関係を創り、そのことに助けられて子育て、家庭を築いてきましたが、その生き方に何かもやもやするものを感じていました。それが性別役割分業によるものであると学んだことで目の前の霧が晴れました。年齢を重ねるにつれて、性別役割分業の中で果たしている家事育児というケアに携わる女性の働きを可視化することができないかと考え、卒論という形でまとめてみたいと思いついたことが通信入学の動機でした。未だに女性が性別役割分業の中で苦労している社会であることに変わりはなく、このテーマから離れることはできませんでした。複合キャリア⁽¹⁾という概念を知り、地域で家事育児というケアにつながる活動している女性の生き方をキャリアという切り口を使って可視化できると考え、論文に取り掛かることができました。1年目の週末スクーリングで岡原正幸先生の社会学を受講し、その時にライフストーリー・インタビューという手法があることを知り、私も女性のライフストーリーを集め分析する手法で卒論を書きたいと思いました。指導教員は、三色旗の6月号と12月号に掲載される卒論のテーマとその指導教員の先生のお名前を拾い上げ、そ

の中から稻葉昭英先生にお願いしたいと考えました。運よく先生がお引き受けくださり、初回のご指導を受けました時、先生は男女共同参画に関りがあり、また先生ご自身が子育てをした男性であることがわかりました。先生はご指導の中で、私が書きたいテーマを私以上に深く掘り下げて下さったように思いました。卒論指導は対面で3回受けました。

卒業論文の要約

現代は女性も男性と同等に仕事をすることが求められますが、「男は仕事、女は家庭」の価値観は強く、女性は仕事と家庭の両立に苦慮し、初職の継続が必要な職業キャリアの形成に困難を持っています。一方、地域で活動し地域課題解決に関わる女性たちがいます。地域活動を社会活動キャリアとし、職業キャリアと連鎖して複合キャリアを形成する女性の生き方を考察しました。

事例として、都心にアクセスのよい新興住宅地に住む5人の女性たちにインタビューをし、そのライフストーリーを聞き取りました。この地域は核家族が多く、子育ての課題があり高齢化の問題も起こっています。

学卒後の初職を結婚または出産で辞し専業主婦となった、50代3人、70代2人の女性たちは、子育て中、または子育ての手が離れてから地域でボランティアの活動を始めました。彼女たちの活動は、何もないところから子育て支援の広場や地域の居場所となるコミュニティカフェを創り出した場合と、PTA活動、地域の子育て支援会場、民生委員など既存の地域活動に参加した場合の二つに分かれましたが、どちらも地域課題解決に貢献し、職業経験が活かされました。

現代の独身女性は「非婚就業」のライフコースを予想する者が多いです⁽²⁾。

女性が子育てというケアの側にまわることは、自分自身の基盤を失う不利な立場にみえます。一方地域活動は人の心に寄り添うケアの側にまわる活動です。ボランティアを始めると人との関係性の中に力を構築します。地域活動の無償性は、行政と連携し補助金などを得て有償労働に変換され、活動がわかりやすくなってきました。地域活動が子育て中の母親や高齢者に提供する配慮や気配りというケアは、「ケアの倫理」⁽³⁾という他者との関係性の中で道徳的成熟を進めるものに通じます。

女性たちがケアする側の地域活動に関わることは、結果として、力をつけ、報酬を得、他者との関係性を深めて社会活動キャリアを形成します。それが初職で得た自律した個として形成される職業キャリアと連鎖して複合キャリアを形成することが可能になります。二つのキャリアが連鎖することは人としての成熟を強固にするものです。男性も同様に地域活動に関り、社会活動キャリアを形成し、職業キャリアと連鎖させて複合キャリアを形成するようになれば、男女共にケアする側になり、両者が成熟した生き方をしつつ社会の支え手になります。

終わりに

卒論のテーマを持って入学し、それを実際に卒論として書き、卒業できることは、私には無上の喜びであり、長年のもやもやの解を得て、自己肯定感を強くするものになりました。卒論完成には、横浜慶友会に大きな力をいただいたこと、稲葉先生が常に先を見越すご指導をしてくださったこと、夫や子どもの応援、そしてインタビューに快く応じて下さった5人の女性の存在があります。無我夢中の5年半は幸せな時でした。今老いの入り口に立ち、地域を見ますと私より年上の女性や男性たちが元気に活躍し

心配りのある活動をしています。その活動の意味するところを卒論で裏付けることができました。高齢化が問題となっている社会で、自分自身が高齢者として生きていくための力を慶應通信で学ぶことで得たのだと気づかれます。現代では学び直しが求められていますが、地域で生きていくためにも学び直しは求められるものであると考えます。皆さんにとりまして通信はかけがえのないものとなっていることでしょう。今の幸せを味わい、力を尽くし、目標達成されますことを心よりお祈りしています。

【文献】

- (1) 『NWEC 実践研究 第2号 〈複合キャリア〉』(2012) 国立女性教育会館
- (2) 第16回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）(2021)
国立社会保障・人口問題研究所
- (3) 『もうひとつの声』(1986) キャロル・ギリガン、岩男寿美子監訳、
川島書店

『鉢かづき』と長谷寺の関係について

文学部第3類卒 竹田 和子
指導教員 文学部 石川透教授

私はもう一度学びたいという夢が叶い 2014 年秋入学し、喜寿を迎えた 2023 年秋に卒業できました。卒業までに九年かかりましたが、卒業できたことがなにより素晴らしいことです。入学許可されてから始めて沢山の教科書が送られてきて、私には到底無理と考えて居ましたが慶友会に参加し皆様のご指導を頂き、単位を無事取得出来ました。それは諦めないことが卒業につながりました。

今ではそれが力となり何事にも自信をもって参加しています。在校生の皆さまは、諦めないことが大切ですので最後まで頑張ってください。

私は 2018 年の夏のスクーリングを受け、卒業された方から石川先生の主催されている「奈良絵本・絵巻の会」にお誘いがあり、今でも毎月一度参加して身近では見られない貴重な絵巻や史料をみせて頂き解説を頂いています。そこで見せて頂いた「居初つな」の書いた可愛い「鉢かづき」の御伽草子を卒論にしようと石川先生にお願いし快くお引き受けいただきました。

第一回卒論指導 2020 年 10 月 13 日 本指導

舞台は奈良県にある長谷寺で、昔から我が先祖との繋がりもあり沢山の御利益を頂いたときいていましたので、是非卒論で取り組んでみようと考えました。

先ず長谷寺に行きお寺の学芸員にお会いして『長谷寺縁起絵巻』の展示の説明を頂き、『長谷寺験記』を買い求めてきました。先生から先ず資料を出来るだけ集めることと言われ、先ず長谷寺へ行きましたが「鉢かづき」の関連資料はありませんでした。しかし平安時代では『源氏物語』『枕草子』『更科日記』『蜻蛉日記』などでは長谷寺へお参りしご利益をお願いする場面が描かれています。私のテーマである長谷寺での父親との再会場面を中心 「出会い」に注目し父親との再会場面を民衆がそれぞれの時代にどのように感じ、変化したのかまた民衆の支持を永年続けてきた長谷寺信仰との関連を少しでも解明できればと考えました。

ネット検索や慶應義塾大学の所有する貴重書の和装本なども見せて頂き、沢山の図書館・美術館をまわり、資料をコピーして沢山集まりました。

第二回卒論指導 2021年5月20日 資料を製作時代順、類似グループ別に並べ分かり易いようにする。

第三回卒論指導 2021年10月21日 御伽草子・奈良絵本は前半に赤本・黄表紙本などは後半に入れ、明治から、昭和、現代の絵本を時代別に並べ、はっきり時代順で解らないものは同じにまとめるようした。

第四回卒論指導 2022年10月31日 前回に続き資料を順番に並べそれぞれの章の終りにまとめを書きいれる。

第五回卒論指導 2023年5月31日 卒論は奇麗なのが大切でこれは良く出来ていますと褒められ製本して提出し、合格をいただきました。

絵本・絵巻ですので出来るだけ描かれた絵を集め時代別に分類し、中世5説話・近世前半28説話・後半23説話・近代から現代24説話 合計78説話を一覧表にしました。文末に書かれている「南無大慈大悲の觀世

音菩薩 たのみてもなをかひありや觀世音 二世あんらくのちかひきくに
も」の有無についてもグループ別 A-H グループに一覧表にしました。

先生から奇麗な卒論が出来ましたねと褒めて頂きました。この物語『鉢
かづき』が子供の成長にふさわしい物語として受け継がれていくことが私
の願いです。現代の人も神様・仏様のご利益にあやかりたいと事あるごと
にお参りし心のよりどころとしている人もいます。私も觀音様を心の支え
としていきます。そして子や孫たちも心の支えとなって幸せに暮らしてい
けることを願っています。大変でしたが、楽しい思い出でした。

消費者の現在志向バイアスが携帯電話産業の 流動性に与える影響の理論的考察

経済学部卒 横 裕翔

指導教員 経済学部 玉田 康成 教授

本論文は行動経済学のトピックの1つである現在志向バイアスと過信を用いて、日本における携帯電話産業の流動性を妨げている要因について理論的な考察を行ったものである。

わが国の携帯電話産業は大手携帯電話キャリアによる寡占状態が続いている。消費者は、キャリアと安価に契約できるものの、他のキャリアに乗り換える時には違約金を請求されるなど、高いスイッチングコストを支払う必要があり、これが流動性の向上を妨げていた。政府はこのような課題を認識しており、ナンバーポータビリティ制度の導入など、スイッチングコストを下げる競争政策を実行してきた。そのほかにも、近年ではMVNO（仮想移動体通信事業者）による参入や新規MNO（移動体通信事業者）としての楽天モバイルの参入など、企業同士の競争が行われる環境が整いつつある。しかし、依然として大手携帯電話キャリアのシェアは高水準のままであることに鑑みると、流動性が高まらないことへの対策には供給（企業）の増加だけでは不十分である。

本論文では、需要側（消費者）に焦点を当てて携帯電話産業の流動性が高まらない要因について理論的な考察を行った。具体的には、現在志向バイアスと過信の2つのキーワードをもとに、現在志向バイアスを正確に自覚していない消費者（ナイーブなユーザ）の存在が流動性の向上を妨げる

ことを $\beta - \delta$ モデルを使って数学的に示した。数理的に考察を行った結果、「現在志向バイアス」と「過信」を有するユーザの存在によって、市場の流動性が高まらないことが明らかとなった。自らの持つ現在志向バイアスを過小に評価するナイーブなユーザは、キャリアの乗り換えを検討する際のスイッチングコストを過小に見積もってしまう。しかし、実際にはキャリアの乗り換えで生じるスイッチングコストが高いので、キャリアの乗り換えを躊躇してしまう。ナイーブの程度が大きなユーザほど、キャリアの乗り換えを面倒くさいと感じてしまい、その分だけスイッチングコストが高くなる。結果として、キャリアの乗り換えを面倒くさいと捉えたユーザがいる限り、容易に携帯電話市場の流動性は高まらないと言える。また、キャリアはナイーブなユーザの存在によって、現在志向バイアスのないユーザよりも高い料金を設定できる可能性があることも併せて示した。

本論文によって明らかとなった事項は上記の通りであるものの、残された課題も多くある。例えば、キャリアによる料金設定である。本論文は $k_2 > (\beta - \alpha) / \alpha (1 - \beta)$ k_1 が成立しているのであれば(k_1, k_2 : スイッチングコスト、 α : 市場におけるナイーブな人の割合、 β : ナイーブの割合)、現在志向バイアスの無いユーザを失ったとしても、レガシーキャリアはナイーブなユーザをターゲットとして料金をつり上げた方が利潤を増やす観点から望ましく、 $k_2 \leq (\beta - \alpha) / \alpha (1 - \beta)$ k_1 が成立しているのであれば、全てのユーザを獲得するように料金を設定することが望ましいと主張してきた。ところが、実際にキャリアが全てのユーザの現在志向バイアスを把握することが難しい。全てのユーザを確保する料金設定やナイーブなユーザのみを獲得する料金設定だけではなく、第 3 種価格差別のようにユーザをグルーピングし、そのグループ毎に料金プランを設定して、キャリアの

利潤を高める方法もあると考えられるが、本論文ではこれらの料金プランについては言及することができなかった。今後の課題となり得るだろう。

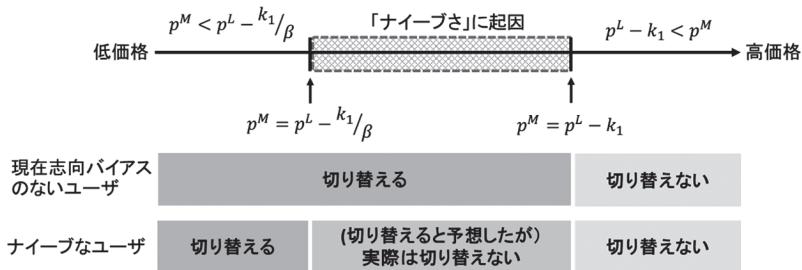


図 1 現在志向バイアスの有無の違いによる各ユーザの予想と実際の乗り換え条件(影)

なぜドイツの生産性は高いのか？ —日本人のワーク・ライフ・バランス改善の為の提言—

経済学部卒 高橋 存根

指導教員 経済学部 山本 黙 教授

卒業論文にこのテーマを選んだ理由は、ドイツへ駐在員として赴任した当初、「ドイツ人は、なぜ長期で休暇をとり、残業もしないのに経済が回るのか？世界第 4 位の GDP を維持できるのか？」といった疑問を持ったことに始まる。この疑問は、その後の 25 年に及ぶドイツでの駐在員経験を通して、ドイツ人の同僚の仕事の仕方やドイツ経済の仕組みなどを学ぶ内に徐々に解け、なるほどと得心するに至った。

日本は、少子高齢化に伴う、労働力不足、国内需要の減少による経済規模の縮小など様々な社会的・経済的課題の深刻化が懸念されている。また、一方で、働く人のニーズも多様化しており、こうした課題を解決する為に、政府は、長時間労働のは正や、多様で柔軟な働き方の実現などを柱とした「働き方改革関連法」を成立させ、様々な施策を打ち出している。

しかし、殆どの施策の実行が企業任せとなっている上に、長時間労働のは正により、表向きの労働時間が削減されても、一方でサービス残業や持ち帰り残業の増加に転嫁され、また、休暇の取得やフレックスタイム制度も、制度運用の前提条件となる、労働環境の整備が進んでいない為、一向に普及せず、結果として、今日まで労働生産性の向上は達成出来ていない。

こうした現状に鑑み、日本の労働生産性を向上させ、日本人のワーク・ライフ・バランスを改善する為には、先進国の中でも高い労働生産性を維

持している、ドイツの施策やドイツ人の仕方を学び、それらを取り入れることが出来るのではないかと考えた。

ドイツが採用している施策については、まず第一に、ドイツでは、法律で残業が禁止されているという点に着目し、日本でも、36協定と特別条項の段階的廃止と法律による残業の禁止を提案した。第二は、ドイツでは、事業所監督局による頻度の高い監督及び厳格な罰則規定が存在することから、日本でも労働基準監督署の人員の拡充と厳密な罰則規定の法制化を提案した。第三は、ドイツでは、年間30日の有給休暇の取得が義務付けられていること。また、未消化有給休暇については、引当金の計上が義務付けられており、退職時の休暇の買取も義務付けられていることから、日本でも有給休暇の100%取得と、引当金の計上及び退職時の買取の義務付けを提案した。第四は、ドイツでは年間30日の傷病休暇がある為、日本でも傷病休暇制度を法制化し、段階的に年間20日の休暇が取得できるよう提案した。

また、ドイツ人及びドイツ企業が日々の業務効率化の為に行っている施策の内、①ムダな会議を減らし、会議の短時間化を図る、②メール内容の簡素化とCCの削減、③社内プレゼンや会議資料の簡素化、④報・連・相は口頭で済ます。⑤業務の優先順位付けて先送り、⑥権限委譲の促進については、日本人及び日本企業も、導入すべき施策として提案した。

更に、これに加え、ドイツ企業が採用している、①フレックスタイム制度、②労働時間貯蓄制度、③テレワークといった柔軟な勤務制度についても、日本企業が取り入れるべき施策として提案した。

以上で述べた、施策が機能する上で、①ジョブ型の雇用形態の導入、②労働契約書の締結、③成果主義による人事評価、④誰かがサポートできる

業務体制の構築、⑤管理職がマネジメントに専念できる環境といった、職場の労働環境の整備が不可欠である点にも言及した。

最後に、日本の労働生産性を上げ、日本人のワーク・ライフ・バランスを改善する為には、これまで述べた、施策を実施することも重要であるが、我々日本人が集団主義的なビジネス慣行から脱却し、一度しかない人生はどうあるべきかを考え、自らの意識を改革していくことも重要であると付け加えた。



2024 年 7 月 20 年ぶりの新札発行

職務発明における「相当の対価」に関する経済学的考察

経済学部卒 田村 泰之

指導教員 経済学部 穂刈 享 教授

〈はじめに〉

私は企業で研究開発に従事していた経験があることから特許に関心があり、卒論のテーマは特許制度に関係するものとした。

従業員が発明をして企業が特許を出願すると、給与とは別に発明者に対する報酬を支払うべきことが特許法 35 条に定められている。対価の額は一般的には低額だが、裁判では極めて高額の判決となる場合がある。卒論のテーマは、対価の額がどの程度が望ましいのかを経済学の立場で考えてみようというものである。

〈卒論指導の経緯〉

2021 年秋から卒論に取り組む計画だったが、病気入院のため卒論の初回指導申込ができず、2022 年の春に初回指導を受けた。初回指導までの間は指導教員も決まらないまま先行文献や判例の調査をし、従来の判例の問題点などを一部書き始めた。検討にはミクロ経済学とゲーム理論を用いたと考えて、穂刈教授に指導をお願いした。

初回指導の時、穂刈教授から、卒論の意義は学習したことをまとめるのではなく新たに学習することにある、とのお話をいただいた。また、関係ありそうな論文^{注1}を見つけたのだが英語が苦手なこともあって難しい、と話したところ、英語が難しいのはネイティブではないのだから仕方がない、

良い論文を見つけた、ぜひ読みなさい、と言われた。

この論文については、第 2 回論文指導の後、2 回にわたって特別に指導をしていただこととなった。その後、協力ゲームとして検討することを示唆していただき、新たに勉強した。第 3 回論文指導の後にさらに検討して書き加えてメールで見ていただき、2023 年 6 月に提出した。

〈卒論の概要〉

特許対価には二つの意義がある。第一には、企業と従業員が研究開発に注力し、価値ある特許の取得に努めるように促すインセンティブである。第二には、取得した特許の価値を企業と発明者に公平に配分するものである。特許制度は、特許法 1 条に記されているように、発明を奨励して産業の発展に寄与するための制度であるから前者が重要である。一方で訴訟になれば後者を重視せざるを得ず、無益な争いを避け、紛争を解決するためには公平な配分のあり方を示すことも重要である。

判例では特許の価値を算出し、それに発明者の寄与率を掛けて対価の額を算出する。特許の価値の算出にはいくつかの方法があるが、一つの方法はその特許が第 3 者のものであると仮定した場合のライセンス料相当額で、売上高にその業界の相場と思われるライセンス料率を掛けて求める。したがって実施されていない特許の価値はゼロとなる。発明者の寄与率は極めてあいまいで、判例では 5% が多く、10% のものもかなりある。寄与率の定量的根拠を示した判例は見当たらぬ。有名な青色ダイオードの中村修二氏の例では、1 審の裁判所が認定した妥当な対価の額は 604 億円、判決は 200 億円で発明者の貢献度は 50%、2 審の和解勧告は中村氏のその他の特許等を含めて 6 億円で発明者の貢献度は 5%、中村氏が訴訟以前に受

け取った額は2万円と様々で、それぞれの算出根拠はあいまいである。

研究開発の主要な成果物としては、製品の設計（設計図など）と発明がある。製品の設計は当然、企業のものだが、発明を特許として出願する権利は特許法35条に従って原則として発明者に帰属する。企業が出願するためには特許を出願する権利の譲渡を受ける必要があり、それにより対価が発生する。この制度の妥当性についてAghion and Tirole(1994)^{注1}のモデルを用いて検討した。仕事の成果はすべての項目について実現するとは限らず、成功して実現する項目もあれば失敗する項目もある。このモデルでは、それぞれの項目について成功への寄与率が高い者に所有権を与えることにより利益が得られるとされる。そこで製品の設計と特許を出願する権利についてこのモデルを適用して検討した結果、インセンティブの観点で現在の制度は妥当であるとの結果を得た。

研究開発の成果を有効な特許出願に結び付けるには、企業と従業員の両方に努力を促すインセンティブが必要である。そこでいくつかの仮定のもとに、特許の価値の両者への妥当な配分比率を検討した。その結果、発明者への配分比率を100%としない限りホールドアップ問題（契約などのせいで最大限の能力が発揮されなくなること）が生じることを示した。また、仮定した条件の下では企業と発明者の両方にインセンティブを与える妥当な配分比率は4～19%程度で判例と大差なく、さほど高いものではないことを示した。

インセンティブと紛争解決の両方を満たす方法として、特許法35条5項に定められた企業と従業員の協議によって対価支払いの規則を定めることが有効と考えられ、多くの企業で行われていると考えられる。そこでこの協議を協力ゲームと捉えてナッシュ交渉解^{注2}を検討した。結果は発明者

の取り分が 50% 以上となり実態と整合しない。このことから企業と従業員の協議が対等な関係で行われていないであろうこと等が窺える。

無駄な争いを避け、紛争を解決するためには、公平で納得性のある配分比率で特許の価値を対価として分配する必要があるが、価値ある特許は企業による研究開発費等の投入と研究開発チームのメンバーや知財担当者など多くの関係者の協力によって生まれる。そこで特許出願を複数のプレイヤーによる協力ゲームと捉えて、シャープレイ値^{注3}によって公平な配分比率を求めることを試みた。しかし、関係者の貢献度によって配分比率を求めようとすると、通常業務として給与の範囲内で行う行為と特許出願に関する行為を区別することが困難である。また、プレイヤーを個人単位とするのか専門分野別のグループとするのかなどによって結果が大きく変わることがある。したがってシャープレイ値を用いて配分比率を求めようとすると、パラメーターの決定方法が課題である。

紛争解決の観点では紛争を予防することが最も有効であるが、そのためには企業が発明者との友好的な関係を保つことが重要であることを、利得行列を用いて示した。

この論文では特許の価値の算出については殆ど検討ができなかった。判例では実施されない特許には価値が無いとされているが、企業は多数の実施しない特許を出願し、費用をかけて維持している。そこで、防衛目的の特許と呼ばれる実施する予定の無い特許にも価値があることを、シャープレイ値を用いて示し、判例における算出方法には問題があることを指摘した。

特許の対価について様々な検討を行ったが、考え方を示すだけにとどまり、妥当な額についての具体的な結論を示すことはできなかった。妥当な

対価の額の決定には、この他にも、画期的な発明に対する対価には大きな外部効果があることなど、さらに多くの観点での検討が必要である。さらには、特許の価値の算出が困難であることなどを考慮して、特許の価値と発明者の貢献度を独立に算出して掛け合わせるという従来の算出方法が妥当であるのかも含めて検討する必要がある。

添付資料として、平成 15 年 4 月 22 日最高裁判決のオリンパス事件〔最高裁 H13(受) 1256^{注4}〕以降のほとんどの判例について、訴訟以前に発明者が受け取った対価の額、裁判所が判決で示した発明者の寄与率、認定した対価の額、対価がゼロの場合はその理由、を公開されている判決文に基づいて掲載した。

〈むすび〉

テーマを選んだときにはすでに学んだ経済学の知識を用いて論じることができると考えていたが、漠然と考えていたモデルは破綻していた。実際に書くにあたっては、初回論文指導の際の穂刈教授のお言葉の通り、学んだことの無い事柄を勉強しながら書くことになった。でき上った論文は、ゲーム理論等の様々な手法を用いてあれこれ考えた、という内容で、つまりのないものになってしまったがなんとか提出にこぎつけた。

穂刈教授には格別に丁寧な指導をしていただき、大変お世話になりました。また、多くの関係する書籍を紹介していただき、それらはミクロ経済学やゲーム理論がどのように世の中に役立つかということを知る上でも大いに役立ち、経済学を学ぶことの意義をあらためて理解することができました。心より感謝申し上げます。

注 1 : Aghion and Tirole(1994)“The Management of Innovation”

Quarterly Journal of Economics, Vol.109, Issue 4, pp.1185-1209.

注 2 : ナッシュ交渉解とは、2 者の交渉による妥結点で、パレート最適、対称性などの望ましい要件を満たすものである。ジョン・ナッシュ(1928-2015)により提案された。

注 3 : シャープレイ値とは、複数のプレイヤーの協力によって得られた利益を各プレイヤーへ公正に分配する方法の一案である。

注 4 : オリンパス事件〔最高裁 H13(受)1256〕の判決は、たとえ勤務規則等に定められたとおりであっても対価の額が妥当でない場合は不足分を請求できることを明確にしたもので、その後の訴訟などに大きな影響を与えた。



土地所有権を手放す方法（「放棄」）に関する一考察

法学部甲類卒 油井 公彦

指導教員 法学部 田高 寛貴 教授

(卒論指導第1回～4回は、法学部 水津 太郎 教授)

【1】卒業論文概要

昨今、所有者不明土地問題が深刻化する中、本問題の解決に寄与する一つの制度として、土地所有権を国庫に帰属させる土地所有権の放棄がクローズアップされた。土地所有権の放棄は、土地神話が長く続いたこともあり、近年まで深い検討が行われておらず、土地所有権の放棄の可否は判例、学説上、明らかではない。

土地所有権の放棄は、所有者不明土地問題を解決するための法制審議会の中で議論の対象になったが、結局、放棄ではなく移転の形式で国庫に帰属する制度内容の相続土地国庫帰属法が成立した。しかし、相続土地国庫帰属法が所有者不明土地問題の解決に大きく寄与するという評価は少なく、むしろ筆者から見ると、問題のある内容となっている。その証拠に2023年4月27日から本制度が開始するも、申請件数も伸びず、申請が承認されたケースはわずかである。

土地所有権の放棄を厳しく制限しても、土地所有者は放棄以外の手段を使って土地に係る負担を免れようとするため、土地所有者も国にもメリットが薄くなる結果となる。よって、土地所有権の放棄は広く認められるべきであり、移転の形式により土地所有権を国庫に帰属させる相続土地国庫帰属法に係る要件も同様に解すべきと考える。

本論考では、この土地所有権の放棄は広く認め、相続土地国庫帰属法に

係る要件も同様に解すべきであるという観点から相続土地国庫帰属法の問題点を明らかにし、立証した上で、相続土地国庫帰属法の問題点をどのように変えるべきかを提言する。

法律学上、放棄は単独行為に分類され、一般的に他の当事者の同意等は要しないが、土地所有権の放棄は民法の規定により無主状態を経て国庫に帰属するので、国の利害に影響する。そのため、土地の所有権の放棄は自由にすることができないということになる。本論考では、土地所有者の側から見て、自らの意思で土地所有権を移転させる（土地所有者から見ると法律上の放棄と同じ効果を持つ。）ことを「放棄」と位置づけ、考察を進める。

第1章では、所有者不明土地問題の深刻化の背景について検討した上で、これを解決するために相続土地国庫帰属法が成立したが、評判が悪く、あまり利用されていない状況を述べた。よって、相続土地国庫帰属法の具体的な問題点をどのように変えるべきかを提言することが本論考の目的であること、そのためのプロセスについて説明を行った。

第2章では、土地所有権の放棄について法学的な取扱いを検証した上で、先例、判例からも土地所有権の可否が明らかでないために立法が必要になったことを述べた。

次に、学説の対立を検証した上で、土地所有権の放棄を有効に成立させる土地所有権の「放棄」とは、所有者に代わり国が税金で土地の管理をするというのは虫が良すぎる土地以外であるという要件を具備した土地所有権の放棄を指し、土地所有権の放棄は広く認められるべきであるとも述べた。

しかし、実際の相続土地国庫帰属法の制度は、従来の土地所有権の理論とは離れた内容で、土地所有者に厳しくなり、問題となるものとなってしまったことも述べた。

第3章では、なぜ相続土地国庫帰属法の制度が問題のあるものとなってしまったのかについて検証した。放棄でなく移転の方式を採用した上で、別個の法律により国庫への帰属を認めたことで、土地所有権放棄の「放棄」に係る見解から離れた内容の法制度ができてしまったことを考察した。

次に、筆者が具体的な問題点として提示した相続土地国庫帰属法の内容は、土地所有権放棄の「放棄」に係る見解から離れた内容となっており、また費用負担が苛酷になる場合もあり、合理的でないことも考察した。

第4章では、筆者が具体的な問題点として提示した相続土地国庫帰属法の内容を、他の法制度、事例との比較を通して検証し、これが合理的でないことを立証した。

第5章では、上記の検討、考察を踏まえた筆者の提言を述べた。具体的には、筆者が具体的な問題点として提示した「相続等を原因として移転した土地への限定」、「相続土地国庫帰属法の定める要件」、「負担金の内容」を以下のように変更すべきとするものである。

- ・建物のある土地は制度対象として認めないとする要件から固定資産税評価額が一定の金額（建物の取壊費用以上の額）以上の建物のある土地については、制度対象として認めるという要件に変更する。
- ・土地の所有者（相続等によりその土地の所有権の全部又は一部を取得した者に限る。）という要件から全ての権利主体が所有する土地を制度対象として認めるという要件に変更する。
- ・負担金については、建物を建て壊して本制度を申請した場合には、負担金から取壊費用を控除できるようにする（通常0円、もちろんマイナスでも国が支出することはない。）。

次に、その提言が及ぼす効果は、土地が利用しやすくなり、土地の価値の向上につながること。それが、土地所有者の当該土地に係る適切な行動

を促すことに繋がること。これにより、現行の相続土地国庫帰属法が持つ「国庫に帰属させて管理不全土地を防ぐ」という意義に加えて、「土地の価値の向上を通じて土地所有者の当該土地に係る適切な行動を促すことにより、管理不全土地を防ぐ」という意義も筆者の想定する新しい相続土地国庫帰属法は持つことを述べた。

最後に、本論考で検討することが出来なかった問題点である要件の緩和及び負担金の減額に伴う土地の管理に係る国庫の負担の増加の問題及び相続土地国庫帰属法以外の土地の価値を上げる方策の検討については将来的な考察に譲ることを述べた。そして、本論考で検討したものとベースに、実際の制度の申請状況や国庫に帰属した土地の件数等の現実的な情報を注視しつつ、今後も検討を続ける所存であることも述べ、本論考に区切りを付けた。

【2】感謝

横浜慶友会には1年目の9月より入会させて頂きました。大変お世話になりました。横浜慶友会の皆様のご厚情にお礼申し上げます。

今回、無事、卒業出来ましたこと、盛大に卒業をお祝いして下さったこと、本当に感謝申し上げます。

慶應通信で過ごした日々は大変なことも多かったですが、素晴らしい体験を何度もすることが出来ました。

在校生の皆様も、これから入学される皆様も、ぜひ慶應通信にて様々な事にチャレンジしてみてください。

Life work（人生を懸けてフクイチを見届ける経済産業省官僚の12年）

法学部乙類卒 倉持 和佳子

指導教員 法学部 烏谷 昌幸 教授

本論文は、2011年に起きた東日本大震災によって生じた東京電力福島第一原発事故を機に、原子力行政に関わった一人の官僚として、震災直後から12年間、「廃炉こそがライフワーク」として福島に残って働き続ける経済産業省の取材対象者（K氏）の生き方に着目し、官僚の責任について問題意識としている。

過去の官僚研究の知見や官僚を取り巻く最近の動向などを踏まえながら、ライフワークの原動力となっている「責任の果たし方」について考察し、将来の長きにわたって日本が直面する「廃炉」推進へのアプローチの手法を提案するものである。

論文の構成としては、①官僚研究、②取材対象者（K氏）の「オーラル・ヒストリー^{注1}」、③地元ステークホルダーへのインタビューという3つに大別される構成をとっており、最終章では取材対象者（K氏）が「ライフワーク」と位置づける責任の果たし方が、今後の廃炉に向けたフレームワークのヒントになる可能性を指摘した。

マックス・ウェーバーやロバート・マートンなどの伝統的手法から、薬害エイズ事件判決で指摘された「行政の不作為」などを踏まえながら官僚としての責任について考え、権力者への忖度が批判されるようになった官僚の世界で取材対象者（K氏）が模索しながらも責任を果たそうとする意

義を考察した。

オーラル・ヒストリーでは原子力を志す動機から震災後に至る取材対象者（K 氏）の生き方をトレースしつつ、原子力行政における監督体制の在り方も考えながら、内示を断り、現地に残るという形で責任を取る決心をした動機に迫った。

最後のインタビューではその思いが福島の地元に届いているのかどうかを確認した。

また、地元の反応として、福島の今を担う現役世代として、処理水問題などで、今なお風評被害に直面する水産業者と、未来を背負う世代として廃炉の研究をしたいと東北大学大学院で学ぶ福島県大熊町出身の大学生の 2 人にインタビューし、福島に残る取材対象者（K 氏）をどのように見て、何を期待しているのかなどを聞いた。官僚と責任についていくつかの考察を踏まえながら、公文書改ざん問題などで官僚が権力にすり寄る姿勢が顕著になってきた中で、2 人へのインタビューを通じて官僚の生き方が廃炉や復興に地域にどのように影響を与えていたのかどうかについて検証し、改めて原発事故からの復興と廃炉への課題を考察した。

廃炉には期間 100 ~ 300 年と政府見通しの何倍にもなる試算もあり、多くの将来世代に影響を与える難事業だけに、東京電力という民間企業に任せっきりにすることなく、取材対象者（K 氏）が自らの責任として独自で構築してきたフレームワークを、地元も含めた強いリーダーシップを持つ組織に昇華させ、サステナブルな仕組みを構築することの意義と必要性を訴えた。

チェリノービリ（ウクライナ）原発と同じ、レベル 7 の重大事故から 12 年あまり。東日本壊滅という惨事が福島第一原発の吉田昌郎所長の脳裏を

よぎったほどの事故だったが、3.11 がセレモニー化しつつある。そのなかで一貫した取材対象者（K 氏）の行動は、官邸主導のテクノクラシーとは対極にあると考え、廃炉にかける個人の責任の果たし方を組織として取り込める仕組みを構築できるかどうかが、信頼が揺らいでいる官僚組織の懇侍としても問われているのではないかという問題意識をむすびとした。

※個人情報保護のため取材対象者名は控えています。

※注：オーラル・ヒストリーとは、何らかの証言者が、聞き手の問い合わせに答えて話したことを記録した口実記録である。

引用文献：御厨 貴 編『オーラル・ヒストリーに何ができるか』岩崎書店、
2019、11 頁



V. 新入会員の声



三田・メディアセンター

何のために慶應通信に入学したか

文学部第1類 森永憲彦

大学入試で慶應は選択外だった。私は九州佐賀の片田舎の高校から進学したが、慶應ボーイなんて軟弱だという変な先入観があった。当時、同級生と日本地図を広げて進学後に泊まり歩けるようにお互いの進学先を選んだ。お前は東北大、俺は京大とか、入れるかどうかは別にして適当に進学先を選んでいた。結局、故郷の佐賀から一番遠い学校として北海道大学を選んだ。実際、帰省の度に友達の家を泊まり歩き一ヶ月かけて帰省を楽しんだ。大学在学中、映画製作に熱中し PFF という映画監督の登竜門に長谷川和彦、寺山修二の推薦を受けて入賞した。その後、知り合いの映画監督の助監督に呼ばれて東京に行き、そのまま大学を中退した。

ただ、映画監督への道のりは遠かった。知り合いの監督の AV の助監や NHK の海外ドキュメンタリ映画の編集等をやったが食べていける程の収入はなくバイトに追われる日々だった。バイトの代わりにいつ辞めてもかまわないと IT 系の会社に就職し、いつのまにかサラリーマン生活を送ることになった。

ところが、バブル崩壊で会社が倒産し社員代表として未払い給与の回収を行う羽目に陥った。会社の金庫を開けてみるとジャンプ手形だらけで現金はなかった。役員は資金繰りのため街金からも金を借りていた。友達の助言で代表印と金になりそうな物品をまず押さえた。労働基準監督官のアドバイスで客先を回り売掛金の債権譲渡をお願いした。他の債権者に資産を抑えられる前に回収しなければならず不眠不休で対応した。いろいろな

人達のおかげで無事売掛債権（3千万円程度）を全額回収し、なんとか最後まで残った30名程度の社員の未払い給与を支払うことができた。この経験から倒産したって命までとられるわけではないと大概のことはやれる気がした。その後、私は自分の身の振り方として倒産した会社の社員数名と有限会社を起業して代表になった。

実際に経営をやってみると自分には向いてないなと思った。家族より会社が大事だとはどうしても思えなかった。株式会社に組織変更する時、今後の会社のテーマについて役員と話した。「幸せのある会社」にしたいと言った役員に代表になってもらった。現在、社員140名、経常利益2億くらいの会社になったのは彼の功績だ。ITバブル崩壊で好調だった事業が行き詰まり株を全額譲渡し一般社員になった。別にシステム開発が好きで就職したわけでも、事業を起こしたかった訳でもなかった。私に向いている職種はなんだろうか何をやりたいのかを改めて考えた。会社の舵取りを人にまかせ空いた時間に社労士の資格や産業カウンセラーの資格をとった。労働法規や心理学を勉強してみると面白かった。社労士として独立も考えたが家のローンと子供の学費の関係で会社を辞められなかつた。

50代でアイドルにはまりPerfume、そもそも口に熱をあげた。60代でストリップにはまった。ストリップというと風俗のなれの果てのイメージがある。40年前、劇場内での生板本番、海外からのジャバパユキさんを使った個室での売春行為が横行した時代があった。風営法の改正でそうした行為が規制され全国に360軒以上あった劇場が現在18軒に激減し、ストリップもいまや存亡の危機に瀕している。

今のストリップは絵画や映像の美しい裸婦像がスポットライトに照らされ音楽に合わせて動きだす女性によるエンターティメントの極致と言え

る。女性の裸体というものがこれほど美しく、潑刺として、哀しくも切実に訴える表現だとは思ってもいなかった。その舞台を見て感動しストリップにはまる女性客も多い。現在2割ぐらいが女性客だ。未見であれば浅草ロック座に足を運んでほしい。

アイドルとストリップに共通したテーマとして「年齢による壁」の存在がある。若くしてセカンドキャリアの選択に迫られる職種と言えるだろう。一般に年収も20代でピークを迎え年齢と共に下がっていく。肉体の衰えの実感が他の職種より早いのだ。セカンドキャリア選択を前に孤立し自滅していく人も多い。需要が無くなったキャリアへの世間の目は冷たい。成功するものはごく一部だ。

私も定年退職し年金と株の配当でなんとか生活していくが、さて何をやるか考えた時、セカンドキャリアの社会学というテーマを研究してみたいと思った。日吉に30年前から住んでいるため、いつのまにか慶應にも愛着を覚えるようになっていた。慶應高校の甲子園優勝は地元の高校でもあり興奮した。また、学費の安さもあり慶應通信から初めてみようと思った。10年以内に博士号まで取得し研究成果を世に問うのが私自身のセカンドキャリアだと思いを定めた。

アイドルや踊り子に限らず、なんとなく就職してキャリアを積んだとしても、このままでいいのかという壁に直面し、思い悩む人は多いのではないだろうか。思い切ってセカンドキャリアに踏み込んでも、失敗し路頭に迷う人もいるだろう。そのための社会的救済の在り方を含め研究したいと思っている。

慶友会については昨年慶應通信受験を決めた時から入会を決めていた。通信教育という孤立しがちな学生生活に情報収集という面でも役に立つ筈

だと思ったからだ。実際、教えてもらった慶應通信 Wiki は非常に役にたつた。皆さんの体験談等参考になったものは枚挙いとまない。

慶應通信をやると決め入学した人には多様な思いがあると思う。ただ、人は社会的な動物である以上、他者を必要とし必要とされる関係を持たざるをえない。慶友会は大学側にも通信生にも通信教育で学ぶために必要だという認識があるから公認団体として存続していると思う。

最後にカート・ボネガット・ジュニアの「タイタンの妖女」という SF 小説から、運命に翻弄された主人公が死ぬ間際に発した言葉を皆さんに贈りたい。

「だれにとってもいちばん不幸なことがあるとしたら
それはだれにもなにごとにも利用されないことである
私を利用してくれてありがとう
たとえ、わたしが利用されたがらなかったにしても」

私の慶應通信入学に至る経緯

経済学部 石塚 正樹

「僕も行きたかったんですよね・・」そう寂しそうにつぶやく A 君の一言からすべては始まりました。

私は消火器やスプリンクラーなど消火設備を扱うメーカーの東京支店で営業部門の長をしています。昨秋、日本で唯一火災科学を研究する東京理科大学の大学院に、私の部下の B さんが企業派遣の形で進学することになりました。

冒頭で寂しそうにつぶやいた A 君も私の部下で営業成績良好、昨年から私の営業成績を凌ぐ活躍を見せる今や我がグループのエースです。彼は高校時代にサッカーの県代表で、卒業時には J リーグのクラブの練習参加にまで呼ばれたものの結局入団できず、専門学校でサッカーをした後に社会人になった経歴の持ち主でした。つまり A 君も東京理科大の大学院に行きたかったけれど、大卒の受験要件を満たせなかったのです。もう 30 を過ぎた歳になったところで学歴が自分の未来に壁となって立ちはだかった彼の気分はどんなものだったのでしょうか。何となく受験勉強して大学に入り、何となく卒業して怠惰な社会人生活を送る私も胸を張れたものではありませんが、それでも彼の寂しそうな表情が私をも切なくさせます。

「諦めるな。大卒の資格くらい今から取ればいいじゃないか！」そう言って、その晩私は彼が大学の卒業資格を得る手段を考えました。働きながらだと夜間の大学？費用を考えたら通信という手もあるか・・。そして通信制大学の中から、頭の中でもサッカーボールが転がり続けている A 君が好

きそうなスポーツビジネスが専攻できて専門学校卒の資格で3年次に編入できる大学を見つけ出して彼に紹介しました。通信制大学を紹介するインターネットのウェブサイトから見つけ出したのですが、同じウェブサイトから「慶應義塾大学通信教育課程」の文字が私の目に飛び込んできたのは正にその時です。

ふーん、あの慶應でも通信で勉強できるのか・・へえ、ちゃんと卒業資格も与えられて・・あ、三田での夜間スクーリングなら俺も出席できるぞ。などとウェブサイトを眺めているうちに、自分も通信制大学に入学して、仕事で課題と思っていることを勉強してみるのも良いかもしないと思うようになりました。

それまでも仕事で難問にぶつかった時にはビジネス本を読んで実践するなどしてそれはそれなりに役に立っていましたが、あくまでもイイとこ取りで自分に都合よく知識を無秩序に蓄積していただけなので、いつかは経済やビジネスを「学問」として体系立てて勉強したいという漠然とした思いがありました。予備校のCMではないですがこのタイミングで勉強をするかしないか、「今でしょ！（古い）」と心の中の天使（悪魔か？）が囁いたのです。

そうして私は翌年春の慶應義塾大学通信教育課程の入学式に出席しました。しかし私は入学式を終えても自分が慶應の勉強についていけるのか、仕事と勉強を両立できずに挫折しまうのではないか、と不安を拭えません。卒業式の看板と共に自分が写真に納まる未来が想像できなくて、入学式の看板と共に誇らしげに写真を撮っている人たちを遠くから眺めているだけでした。

そんな私なので独りでは絶対に卒業までたどり着かないと思い、入学式の時に知った慶友会という組織に入ろうと決意。恐る恐る横浜慶友会のメールアドレスに「新入生ガイダンスに参加させてください」とメール。恐る恐る恐る日吉のガイダンスに出向き、そのまま恐る恐る恐る経済学部の勉強会に飛び入り参加。自己紹介をした際には緊張して声が裏返っていたと思います。ところがその場で慶友会の先輩方が私に優しく声をかけてくださいり、LINE 交換をしました。リーダーの方にはその後も催し物の案内や、もう申し込みましたか？などと連絡をいただきました。横浜慶友会の懐の広さに感激するばかりです。おかげで6月の講演会・懇親会も有意義でとても楽しませていただきました。楽しみ過ぎて景品を競うじゃんけん大会で優勝してしまって、場の空気の読めなさは会社にいる時と変わらないなと反省しきりです。

いつの間にか入学式の時に不安に押しつぶされそうだった私はいなくなっていました。横浜慶友会の皆さんと一緒に勉強できることを喜び、集える日を励みに日々勉強しています。

どうぞこれからご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

なお私が通信制大学を紹介したA君ですが、私の慶應義塾への入学が決定した頃に「東京都社会人サッカーリーグのチームに誘われました」と相談を受けました。その後そのチームと正式に契約して試合ごとに出場給を貰えるセミプロになり、そのうえ弊社の事業部長に掛け合ってチームスポーツになってもらうという優秀なビジネスパーソンぶりをここでも発揮しています。そして今では帰ってきた不合格のレポートに落ち込んでいる私の面前で、大学のダの字も出さずに充実した生活を満喫しています。

横浜慶友会とともに歩みたい

法学部乙類 加々美 義友

1. はじめに

1979年（昭和54年）春に大学を出てから、44年間企業に勤務し2023年春に引退しました。長期にわたる企業人生活では仕事に追われ、飲みにケーションも多く、趣味は仕事と言い張ってきました。

しかしある日突然行く場所がなくなるという現実が目の前に迫ると、やや焦り気味に2023年1月でも慶應通信の願書ならまだ間に合うということで急遽準備し、2023年4月入学しました。どの学部を選ぼうかという時に、人生を振り返ってみると、これまで様々な社会事象は常識レベルでは理解していたつもりでしたが、物事の本質は意外と理解していないのではないか、との思いが強くなり、法学部乙類を選択しました。

ただ入学動機がやや不純だったこともあり、入学後面接授業は夏期、秋の夜間と少し取りましたが、通信の基本であるテキスト学習はほとんど進まず課題や試験は全く手つかずで、あっという間に1年が過ぎてしまいました。このままでは卒業どころか何もせずに時間だけが過ぎていくという思いが強くなり、気持ちの切り替えが絶対に必要と思い、慶友会への参加を真剣に考えるようになりました。いくつか慶友会の説明をお聞きする中で横浜慶友会がその雰囲気や方向性が自分に合うかもしれないと思い、入会させていただきました。

2. 参加して感じたこと

まだ数回しか当会に参加する機会はありませんが、当会は全員卒業を標榜しているだけあって、運営体制もしっかりしていて、運営のリーダーの方たちのコーディネート力にも感心しました。会長の重要なお役目は勿論ですが、いろいろなイベントに卒業生の方々が参加されていて驚きました。やはり卒業まで行かれる方は当会への思いも強いのだと感じた次第です。

さて学習面ですが、これまで2回配本があったわけですが、相当古い執筆時期のテキストもあったり、本当にこれ自分で読み通すの？といった気持ちでしたが、先日の卒業祝賀会での諸先輩方の、子育て、仕事、介護、通信の3本立て4本立ての厳しい環境を乗り越えて卒業されたお話や、どうしても時間が取れないなら夜中に起きてしまえばいいという先輩もいらっしゃって、通学生よりすごすぎないかという想いでした。

私自身は子育て、介護もなく、時間はたっぷりあるにもかかわらず、この状況は情けないな、という気持ちが強くなってきている現状です。

3. 今後の取り組み

学ぶ目的は色々あっても良いと思いますが、当会で卒業までに至った先輩方のお話を聞いていると、この通信課程を損得で捉えるのではなく、まさに学びそのものが好きであるという方が多く、その学ぶ姿勢をひしひしと感じています。

私自身学窓にいた約半世紀前にそこまでの思いを持っていたかというと、そこまでの思いはなかったと言わざるを得ません。当会から受ける刺激は相当なものでその熱量を自分のものとし、学習計画を改めてきちんと作成して、計画ができるだけ先送りしない日々を送れるようになりたいと

思っています。

今後諸先輩方には色々教えていただくことが多いと思いますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

< NHK HP (www3.nhk.or.jp) より >

The screenshot shows the NHK News Web homepage. At the top, there are links for NHK About, News, NHK Plus, and Message Box. Below that is a navigation bar with NEWS WEB, New Arrivals, Weather, Videos, and a dropdown menu for News Genres. A live video feed titled "LIVE 台風10号 各地のライブ映像" is displayed. Below the video, there is a large graphic for the Nikkei 225 stock index. The graphic shows the current value of 42224.02, a change of +392.03, and historical values: Open (42343.72), High (42426.77), and Low (42102.46). The background of the graphic features a stylized "7" and "10". Below the graphic, a headline reads "株価 終値として初の4万2000円台 史上最高値を更新" (Stock price reaches a record high of over 42,000 yen for the first time). At the bottom of the graphic, it says "2024年7月11日 19時16分". At the very bottom of the page, there is a footer note: "7月11日 日経平均株価4万2千円越え 1ドル161円台の円安".



VII. 入学後の勉強法



三田・南校舎 4 階カフェテリア

入学したものの、教科書の山が届いた。

落胆せずに勉強するには

文学部第3類 普通課程 野見山 洋樹

■効果的な学習の進め方について

本稿に目を落としていただいている方の中には、入学されたばかりの方もいらっしゃるでしょうから、私なりの学習方法のセオリーを、お伝えしていければと思います。もちろん、すでに入学されていて、学習に困った際の奥の手も用意しています。ぜひ最後まで読み進めてください。

■教科書が届いた日の落胆

慶應義塾大学の通信教育課程に入学すると、しばらくして、小さな引っ越し便なみの教科書が届きます。おそらく、あなたは小さく落胆することでしょう。

この文言を見て、すでに学習を進めておられている方の中には、苦笑されている方もいることでしょうね。同時に、新しく学習を進める方への同情を禁じえない方もいるでしょう。

結論からいいますが、届いたテキストすべてを学習する必要はありません。

もちろん、履修が必須となっている科目もあります。（総合科目は、ほぼそうです）それについては、是が非でも単位をとらなければなりません。ですが、その指定がないものについては、基本的に自分が得意な物から、どんどん進めていくってかまいません。

■総合科目と専門科目

慶應義塾大学に限らず、全ての大学は文部科学省の指導で、基本的に124単位を取得しなければ卒業することはできません。詳しくは毎年発行されている「学習ガイド」をご覧いただきたいのですが、総合科目の理科のように、実験スクーリングを含めて単位が認定されるものもあります。また、体育スクリーニング・第二外国語を受講しなければ、総合科目の中で代替科目を取得しなければなりません。不明な点があれば、大学当局にKCCチャンネル経由で問い合わせてもわかりますから、遠慮なく尋ねてみてください。

(いくら勉強しても、無駄にはなりませんが、やみくもにレポートを出して試験を受けても、卒業所要単位に算定されないことがあります。)

■効果的な学習とは？

効果的な学習の方法となると、横浜慶友会の会員の皆様によっても、意見が分かれると思います。しかし、単位を効率よく取得していくのは、卒業に欠かせないことなので、そのことにフォーカスに絞っていきましょう。ほとんどの皆さんは、総合科目から勉強していかれると思います。それはとても大事なことなのですが、総合科目・専門科目を通じて私たち通信課程の学生には、大きな壁が立ちはだかっています。それは、教授の指導を直接受けられないということです。いわば、通信教育課程は、慶應義塾大学 独学部といつてもいいようなものです。しかし、この問題には、簡単な打開策があります。ある程度レポートができたら、まずは提出すればいいのです。そうすれば、教授の講評が必ずついて返送されてきますから、それを見てもう一度勉強して提出すればよいのです。

■どんなに稚拙なレポートでも、科目試験の受験資格が得られる

前述の方法で、多少難ありのレポートでも構わないので、科目試験エントリーまでに、6科目のレポートを出してみてください。科目によりますが、レポートは厳しいが、科目試験は、意外なくらい簡単な教科もあります。なぜ、この方法をお勧めするかというと、レポート+科目試験合格でようやく初めて単位が取れるからです。年に4回しかチャンスがない科目試験は、フルに活用すべきです。科目試験だけ受かって、レポートは落ちるということもあるかと思います。そうなると人間は不思議な力が働くもので、「せっかく受かった科目試験合格を落としてたまるか！」というモチベーションで、レポートを書きなおすのに、学習意欲にブーストがかかるようになります。

ここで、ちょっとした計算をしてみましょう。年4回の試験を毎回6教科受けて、そのうち3科目受かったとします。そうすると 6×4 なので24単位。スクーリングを受けたら、だいたい30単位が一年で取得できます。2科目ずつ合格してスクーリングを受けると、20単位ですから、6年で卒業が目前になってきます。どうです？　これならいけそうな気がしませんか？

■レポートを書く前に教科書ではなく、課題集の問い合わせを読み

これは、筆者の自論ですが、教科書を丁寧に勉強するのは大いに結構だと思います。しかしながら、あまりにも時間がかかるので、まずはレポート課題集の問題文をよく読んでみることを強くお勧めします。課題集に書かれている問題文、つまりレポートのテーマは、教授が、よく理解しておいてほしいと考えていることのはずです。そのことを、教科書から探し出

してそこから勉強すると、おのずと課題集で出題されたテーマを熟知するには何が必要か理解できるはずです。その上でレポートを書けば、まとまりがついたレポートになるはずです。

さて紙幅となりました。レポートの書き方や、資料の探し方をお伝えしたいところですが、これは慶友会の勉強会などで。

文学部の履修プラン

文学部第1類卒（現法学部乙類） 学士入学 浅井 貞博

私の考える履修プランについてお話しします。私は、2023年春文学部一類を卒業し、2024年秋に法学部乙類に入学しました。慶應通信に入学されてまだ日が浅い方に対して少しでも参考になれば幸いです。最初に2018年文学部に入学した時の履修プランを紹介し、その後、履修プランを考える前に慶應義塾で学ぶ合理的姿勢についても触れてみたいと思います。

文学部一類は、哲学・倫理について学ぶコースですが、二類の歴史、三類の文学からも興味深い科目を選択することができます。現在在籍している法学部と比べ、自由度、おおらかさを感じます。

さて、私の履修プランについて、第一に、言い古されていることですが、英語、必須科目は何も考えず、即取り掛かりことです。私の場合、英語の5科目は一年以内にと決めて、1月の初試験で英語II、4月の試験で英語I、英語VIIを、夏スクでRとWの単位を取得することができました。英語が苦手科目な上に、持久力の乏しい私にとって欠かせないものは、モチベーションの高い間に勢いで乗り切ってしまうことでした。最初は、英語VIIの学習ペースも遅く、和訳が合っているのかどうかも分からぬ手探り状態だったので、横浜慶友会の英語勉強会のおかげで一気に乗り切ることができました。情報収集は英語の単位取得のポイントです。

第二に、一類の専門である哲学・倫理系の科目については、倫理学、現

代倫理学の諸問題、西洋哲学史Ⅰ、Ⅱ、科学哲学と夏スクや夜間スクの哲学、倫理学を並行して履修することで、哲学の概念や思想史について理解が深まり、個別の哲学者の思想のみならず古代ギリシア哲学からの連續性の視点も獲得できたように思います。つまり、スクーリングとレポート科目を関連付けることです。結果として、卒論テーマのネタをいくつか見つけることにも繋がりました。

第三に、自身の興味のある科目の周辺の科目を系統的に履修する方法です。関連する科目について理解を深めながら複数単位取得することができます。私の場合、地理学Ⅰ、Ⅱや社会学Ⅰ、Ⅱなど。特にフランス文学概説、フランス文学Ⅰ、Ⅱ、ロシア文学などは楽しみながら単位取得ができました。余談ですが、夏スクの西洋美術史は、ボッティチエリについての講義でしたが、作品の鑑賞の仕方、その背景を学ぶことができ、美術館通いの契機となりました。西洋美術との素晴らしい出会いでした。

以上が私の履修経験です。その後の卒論でもかなり苦労することになるのですが、やはり、必須科目や気の重い科目については早々に片づけること。次に、自ら真に学びたいと思う専門科目や、興味のある科目については、レポートや試験の結果に一喜一憂せずに、不合格によって深く知ることができたり、気付いたことに喜びを感じることが大切なことだと改めて思います。一方で、単位所得し易い持込可などの科目を要領よく合わせて取得することをお勧めします。

次に、慶應通信で学ぶ合理的姿勢についてです。目的と言い換えてもいいと思いますが、いくつか考えてみました。1、「慶應卒(三田会)」を武器にしたい。2、「慶應ブランド(大卒資格や権威)」が欲しい。3、「知りたい」「学びたい」という欲求。他にもあるかもしれません、このように分けてみ

ました。当然、どれかが全てという訳ではなく、割合が違うだけで、何が主かということです。但し、この割合は年齢や、その人の置かれた環境によって異なりますし、刻々と変化するものです。

そこで、自分自身に当て嵌めて振り返ってみます。当然、法学部に在籍している現在と、2018年秋に文学部に入学した時とは異なっています。2018年秋当時の私の目的は、1、2、3の割合が、1：3：6くらいでした。現在は3がほぼ100%で、知的興味さらにはその実践が私の合理的目的です。

私の慶應通信に学ぶ合理的目的から何を言いたいかと申しますと、3は、本来の目的であり、自分自身を裏切りません。1、2は高々手段に過ぎないということです。しかし、私たちには現実の社会生活や経済活動があります。1、2の手段は大切ですので、要領よくテクニックを磨いたり、仲間の情報を上手く活用しましょう。但し、3に対しては誠実に向き合いたいと思います。文学部一類で学び「方法的懷疑」を知ってしまった私は次のようなスタンスで臨んでいます。慶應ブランドを求めながら一方でその権威を否定する。慶應を誇りに思いながらそれを嗤う。欲という動物種の本能と共に理性を求めて生きる。慶應の外套を欲しつつ、知ることへの探究を大切に考える。どれも大事ではありますが、3の目的は普遍的なもの、1、2の手段は特殊（時と場合によって様々に変化する）なものというスタンスで考え、必修科目、単位取得し易い科目、そして、学びたい（自分にとって学ぶ必要のある）科目に分けて、要領よくかつ真面目に合理的な履修プランを考えると面白いかもしれません。

万が一卒業に至らない場合にも、3が合理的目的ならば慶應通信で学んだことは何にも無駄にならないし、そこから得た知識や、気づきは人生の宝物となるはずです。

活用なき学問は無学に等し

経済学部 普通課程 築比地 敬一

2023 年の 10 月に入学し、同月の総会時に横浜慶友会に入会しました。今年の 9 月で丸 1 年となりました。皆さん、どうぞよろしくお願ひします。

【はじめに】

私は慶應義塾が大好きです。

【入学の目的】

『慶應大生が学んでいるスタートアップの講義』（日本経済新聞出版）を読んだことが契機となりました。3 年後、私が 66 歳になるまでに起業したい。その先に大きな夢を描いています。スタートアップは若者だけのものではありません。福澤先生は「学問の要は活用にあるのみ。活用なき学問は無学に等し」と『学問のすゝめ』で説いています。“わが義塾”で学んだことを夢の実現、つまり実践で活かすのが目的です。

【学習計画】

総合教育科目 48 単位、専門教育科目 68 単位、勉強する科目を全て決めています。そして 1 年ごとに、どのように単位を積み重ねるかをデザインしました。『塾生ガイド』を繰り返し読むことで、自分に合った履修計画のデザインパターンが見えてきます。例えば、年に 4 回のレポート締め切り日と、科目試験日を頭に入れます。夏スク、秋期週末スクや、夜スク、

春と秋のEメディア授業は、開講科目や申し込み日も全て頭に入れます。

そして全て必ず初日に申し込みます。

すると、自ずと1年後、半年後、1ヶ月後、今週末までに何をやるべきかが明確になります。長期、中期、短期で「やった方が良いことではなく、今やるべき”一つのこと“を決めることが、私が考える履修計画のデザインです。それさえ決まれば、実際に単位を取得する度に、勉強のリスクを常に考えて、レポート提出や科目試験の受験の順番を変えるなどリターンを微調整するだけです。

【私のモチベーション】

卒業は目的ではなく、あくまで手段。起業するために学んでいると肝に銘じています。レポートと科目試験に合格することは勉強「術」であり、学問ではない。本質は、何か一つのことを考え続ける、考え方抜くためのヒントを学ぶことにあります。通学課程の学生と交流すること、通学生が学んでいるレベルを知ることが、モチベーションの維持に繋がっています。

例えばですが、「統計学」は通学課程の第1学年の設置科目であり、通信課程では第4年度で学ぶ「計量経済学」は、通学課程の第2学年の設置科目です。これは知れば、選択する行動は自明の理の法則に従います（笑）

【私の勉強法】

早朝と夜に1.5時間ずつ。週末のいずれか一日は終日勉強します。平日の仕事上の夜の会食は原則週に1回と決め、酒量も減らし、趣味のゴルフの回数も月に2回に減らしました。早朝の勉強を始める前には必ず塾歌と若き血を聴きます。必修科目の単位取得を最優先し、自分が勉強する

科目の系統を俯瞰して体系的に勉強することを第一義に考えています。

目下は英語の残り 3 単位と、統計学の単位取得を目指しています。そして、いよいよ本丸の経済原論ミクロ・マクロに取り掛かります。『別冊三田学会雑誌 スタディガイド』(慶應義塾経済学会) が私の心の友です。経済学部の人には手元に常に置いておくことをオススメします。

【レポート提出】

締切日に合わせ必ず毎回 1 科目から最多で 3 科目を提出するが、その内 1 科目の試験はその 1 ヶ月後ではなく 4 ヶ月後に受験する。(例えば、5 月末にレポートを提出しても、科目試験は 7 月ではなく 10 月に受験する)

【科目試験】

必ず毎回 1 科目から最多で 4 科目受験する。受験する以上、絶対に合格する! と心に決めます。過去問題も研究し出題の傾向をつかみます。『テキスト科目履修要領』を繰り返し熟読することをオススメします。総合教育科目は「講義要綱」と「学び方」、専門教育科目は「講義要項」と「テキストの読み方」に科目ごとに“学ぶ本質”が書かれていますが、その内容こそが勉強「術」のキモです。

【面接授業（スクーリング）】

夏期は 2 科目、秋期週末は仕組み上 1 科目の選択となりますが、夜間も 2 科目を選択します。計画では、最低年間 5 科目 10 単位の取得を目指しています。

【メディア授業（E-スクーリング）】

授業はオンラインで定期的に配信されるので、自己心とスケジュール管理能力を問われます。経済学部生には、秋山 裕先生の「統計学」をオススメします。懇切丁寧な授業で、レポート課題や小テスト、科目試験が三位一体となって統計学の基礎が体系的に身に付くよう練られています。

【単位取得と今後の計画】

入学して9ヶ月ですが、12単位を取得（2024年7月15日時点）できました。計画どおりにいけば、第2年度になる10月時点で21単位、2025年の5月末時点で48単位の取得となります。さらに専門教育科目を7単位以上取得した上で、2025年7月に「卒業論文指導申込」をする予定です。とは言え、人生はそれほど甘くないので、6ヶ月ずれ込むことも想定して、修正プランA,Bを用意しています。

【私の卒業計画】

卒論とは：もっと上のレベル、もっと深いレベルの勉強をするための「きっかけ」だと思っています。通学課程の経済学部の学生が入るゼミナル（研究会）の「優秀卒業論文」を入手し、自分が到達すべきレベルをまず知ること。卒論はレポートとは異なり、自分で仮説を設定し、実験検証をすることで、自問自答しながら結論を導くものと思っています。経済学部の人には『三田学会雑誌』（慶應義塾経済学会）がオススメです。この雑誌に掲載されている論文をたくさん読み、ひたすら学ぶことが大切ではないでしょうか。

卒論のテーマ：「行動経済学」に決めています。統計学及び計量経済学

を極め、その知識をもって、“人間の「非合理な意思決定のメカニズム」を解明する”学問を学びたいという想いがあります。

指導教員：卒論を指導していただきたい先生を勝手に（笑）決めています。私の想いをお伝えし、卒論指導申込の6ヶ月前までにお願いしようと思っています。

【終わりに】

私は今63歳です。YouTubeでゴルフを配信する会社の代表取締役をしております。その前はゴルフ雑誌社の代表取締役でした。10歳の時から「いつかは〇〇」と想い続けた車を40年後に購入しました。「大好き」が私の原動力です。「圧倒的な熱量が想像もできない未来を創造する」と思っています。

2024年4月29日の入学式で自分に誓ったことは、アダム・スミスが『国富論』の中で主張した「市場経済において、各個人が自己の利益を追求すれば、結果として社会全体において適切な資源配分が達成される」ということについて考え続けること。そして、『大凡世間の事物、進まざる者は必ず退き、退かざる者は必ず進む。進まず退かずして瀦滯する者はあるべからざるの理なり』という心から敬愛する福澤先生の言葉を日々心に刻み、励むことです。

横浜慶友会の皆さんにお会いするのをいつも楽しみにしています。そして皆さんの心身の健康を心からお祈りしております。ご一読いただき、ありがとうございました。

私の法学部履修計画について

法学部甲類 学士入学 竹田瑛

履修計画を出してくださいとのご依頼があり、当初、何度もお断りをしていたのですが、仕方なく筆をとっている次第です。そういうのも、私はそもそも履修計画なんぞ持っていないません。76歳で文学部Ⅱ類を卒業、2020年秋78歳で、法学部甲類に入学しました。“生涯一学生”をモットーとしている私ですので、90歳まで在籍可能な環境は居心地がとてもいいものです。早く、卒業するなんて願望は少しもありません。

Kcc channel で、履修表を見てみると、卒業単位の 116 単位（卒論を除く）は、2022/07/23 で達しています。後は、のらりくらりとしていて、好きな教科のみを履修している状況です。でも、そうはいいながら、現在は卒論作成に取り掛かっています。90歳卒業はどうなるのか分かりませんが、まあ、もう何時心臓が止まるのか分からない歳ですので、なるようにするしかないと思っている今日この頃です。

少しだけ、履修のことを申しあげます。個人差はあるでしょうが、法学部甲類の科目はかなり難しいと思います。私は、文学部の経験がありますが、自分の感性でレポートを書く、テストを受けるというのは文学部では通用していたと思います。法学甲類では、曖昧であるようなことは認められません。あくまで、条文・判例に忠実でなければなりません。たとえば、参照・引用などは、自分の解釈で意訳して書くのは不合格です。忠実に「」で、原文に正確に、書かねばなりません。その点、乙類の科目は、比較的

史学に似ているので、私は書きやすく、不合格は少なかったように思います。個人差もあるでしょうが。

一番苦労したのは、刑法各論です。この科目は、六法の持ち込み禁止、ペン書き必須、過去問から出ないなどなど、私には、ハードルが高く未だ未達成な科目です。ただ、法学部にいながら、刑法各論の単位がとれないなんて、恥ずかしいことですので、卒業までには、何とかしようと思っています。

甲類の必須科目である、憲法・民法総論・刑法総論の3科目は、単位数も大きく、それほど難しいことはなかった記憶があります。特に、憲法はある程度の基礎的な知識は持ち合わせているので、取り組みやすいと思います。甲類に入学されたら、やはり、まず憲法4単位を目指し、次に、理解しやすい刑法総論に取り組み、必須3科目のなかでは一番大変な民法総論をやるのがいいように思います。これも私の個人的な感想であてにはならないでしょう。適当に聞いていてください。

以上、とりとめない、私の勝手な思い入れを書きましたが、ご入学された方、慶應通信は楽しいですよ。それには、勉強会（MTG）、浜慶ミーティング、イベントに顔を出すことが必要ですね。また、アシスタントスタッフになるのも、充実感を満喫するのに役に立ちますよ。

どこかでお会いしたら、この老人に是非お声かけ下さい。お友達になりますよう。

レポート課題と科目試験対策について

文学部第1類 普通課程 中村 恩恵

2017年4月に文学部第1類に普通課程で入学しました。以来、カタツムリの速度ですが、コツコツと勉強を続けています。立ち止まりつつのゆっくりとした学びですが、これまでの独学で知り得た様々な個別の事柄が段々と繋がって、物事の全体像が見えてくるような感覚を体験しています。それは、まるで点と点が繋がって線が生まれ、面となり、奥行きを伴って立体となっていく過程のようで、楽しい発見に満ちた体験です。

通勤の電車の中で、キーセンテンスにアンダーラインを引きながらテキストを読み、家に戻ったらその日に読んだ分をノートにまとめる。レポート課題の為の参考文献は気になった部分に付箋を貼りながら、これもやはり通勤中に読む。それから週末にはキーワードを書いた小さなカードを用意し、頭の中を整理しながらカードを床一面に並べてレポートの構成をシミレーションしてみる。カード同士の間に適切な接続詞を配置して全体像を掴んだら、さっとレポートを書いてみる。プリントアウトして通勤時間に読み返してから提出する。テキストとまとめのノートを読み返して科目試験の準備をする。予育てと仕事に追われる毎日でしたが、コロナが始まるまではこういう段取りで順調に学びを積み上げていました。

しかしコロナ禍で仕事がオンラインに切り替わると、幸いなことにスクーリングを受ける機会は増えたものの、テキストや参考文献を読む時間を確保するのが難しくなってしまいました。仕事や家事が終わってからベッドの上でまどろみながらテキストを読むのが精一杯で、テキストが睡眠導入剤の役

割を果たすようになってしまいました。なんとかテキストを読み終わっても一向にレポート作成に結びつかない事態に陥ってしまい、その状況が現在に至るまで長引いています。

今年の春、子育てが一段落したことを機に大学教員としてフルタイムで働き始めることになりました。私の学歴は高卒なので、就職に際して自分の専門分野の論文を書くことが必要となりました。論文を書くのは初めてでしたが、慶應通信のレポート課題に取り組む中で読んだ河野哲也先生の「レポート・論文の書き方入門」、佐藤望先生編著の「アカデミック・スキルズ」が大変為になりました。私の人生では慶應通信での学びが本当に役立っています。もしも通信でレポート課題に取り組んでいなかつたら決して論文を書くことはできなかつたと思います。

査読も無事通り論文が投稿され、就職することもでき、今はなんとレポートを添削する側になってしまいました。学生のレポートを読むと、レポートには書き手の真剣度や誠意が表れるものだと思い知らされます。そして自分自身の学びの姿勢を問い合わせ正されるような気持ちになります。

しっかり学びを進めて卒業まで漕ぎ着けたいと願いながらも、忙しさにかまけて頓挫しがちな状態が続いています。慶友会の集まりにも参加できない状況が続いていましたが、今年は念願の鎌倉散策に参加することができました。楽しい散策の後の懇親会では横浜慶友会 OB の皆さんから卒業に向けての温かい励ましの言葉を沢山もらいました。今回も、この文章を書くことをきっかけにレポートを仕上げて試験を受ける流れを取り戻せるのではと考えています。

新しい職場までは少し距離がありますが、そのおかげで通勤中に2時間ほど本が読めるようになりました。テキストを読むだけで終わらせない為に、

これからはマーカーと付箋をポケットにしのばせて通勤しようと思います。

一念発起して明日からカタツムリなりの前進を再開しようと思います。電車やバスの中で一心不乱に本を読みながらアンダーラインを引いたり付箋を貼ったりしている白髪混じりの女性を見たら、私だと思って声を掛けてください。そして是非、皆さまの学びの実践方法を教えてください。

<宮内庁インスタグラムより>



私達は KEIO 卒業を目指そう！
オックスフォードはそれからだ！

2024年6月
天皇皇后両陛下イギリス公式訪問



勉強の仕方

経済学部 特別課程 河合 秀昭

勉強の仕方に普通課程も特別課程も学士入学も関係ないが、細かなところで違いがある。基本的にこの記述は普通課程向けのものである。

テキスト科目において、勉強の仕方やレポートの書き方で注意していることは、テキストの読み方である。テキストは最低でも三回は読むようにしているが、このときにそれぞれで読み方を変えている。一回目は、わからないところがあってもとにかく読み通すことを目的とする。そして、できれば一日、かけて三日で読み通すようにしている。二回目は細かいところまで細を穿つように読む。わからない所があれば、インターネットや他のテキストを用いて、調べながら理解するように読む。調べたことは、ノートなどにまとめておく。このときは、最低でも一週間かけて読むようにする。最後の三回目は、自分の理解の確認のために読む。これは、前後の関係を把握するために読むので、三日から一週間かけて読む。これで、テキストを理解してレポート課題に取り組むわけだが、レポート課題は先に読んでおいたほうが良い。テキストの重要なポイントがどこなのかと言うことがわかるからだ。

科目試験に向けては、レポート課題を提出してから、もう一度テキストを三回読むようにしている。このときも、レポート課題に取り組むときのようにテキストを読む。もしかしたら、自分の理解が不十分なところが出てくるかもしれないで、二回目のテキスト読解はこのときも最低でも一週間かけて読むようにするべきである。

科目試験で持ち込み可の場合でも、持ち込み不可の場合でも、自分の理解をノートにまとめることは重要である。重要語句などの意味と定義をノートにまとめて、試験一週間前にノートとテキストを照らし合わせて、どこまで理解できているか確認することができる。また、ノートに書くことによって、重要事項について整理ができる。一週間前を切ってからは、ノートの一ページに重要事項をまとめて記述する練習をするとよい。そうすることによって、記述力が上がっていく。まとめた答えは試験前の見直しにも使える。過去問があるなら、過去問を解いてみるのは有効な手である。過去問は持ち込み可でも持ち込み不可でも、テキストを見ずに自分の力で答えを出してから、テキストを参照して答え合わせをする方が良い。あとは、制限時間は四十分で受験する方が良い。なぜなら、自宅においては会場で受験するよりもリラックスした状態で受けることができるからである。私は、受験のときも会場で受験するときは普段の三倍以上緊張するだろうと予想して、会場で受験するとき以外は制限時間を厳しめにして受験するようにしていた。そうすることで、会場で予想外の出来事に遭遇しても平常心で受験することができるようになるためである。過去問がない場合は、先に述べたノートを完璧に仕上げることが重要である。

最後に、テキスト科目の理解において助けになるのが、科目履修要項である。ここには、理解の手助けになる背景の記述や、参考文献の記述がある。特にテキスト二回目の読解において、どのような参考文献を調べたら良いか書いてあるので、やみくもに探すよりも遙かに効率よく勉強ができる。また、背景知識として何を知っておいたらよいかが書いてあるので、テキスト科目同士の関連を調べることもできる。例えば、ミクロ経済学を学んだら情報とインセンティブの経済学、ゲーム理論やマクロ経済学を理

解しやすくなる、マクロ経済学を学べば、金融論、経済政策学、計量経済学、国民所得論や国際貿易論などが学びやすくなるといった具合である。更に、科目履修要項は、勉強の順番を理解するうえで重要な要素になってくる。I年目で取得すべき科目、Ⅲ年次まで取得を避けたほうがいい科目がわかりやすく載っている。普通課程においては、基礎科目がどれで、応用科目がどれであるかの区別は非常に重要である。特別課程においては、基礎の基礎は習得できているはずなので、Ⅱ年目から取得する科目をきちんと履修していくことが重要である。学士入学においては、いきなり応用に入つても構わないと言うことであるから、自分の卒業計画に合わせて科目を取得していくとよいだろう。例えば、統計学は経済学の基本科目であるとか、経済原論を取得しないと先に挙げた科目の履修は難しいとか、経済史や法律系の学科は経済原論から独立しているとかがわかるので、自分の学習計画に沿って学習していく。

科目履修要項の利用方法が普通課程と特別課程と学士入学で若干異なる。それ以外の点においては、勉強の仕方は同じである。テキスト科目の合格やレポート合格のために必要な武器は慶應義塾が提供しているテキストや科目履修要項に載っている。なので、それらを十全に活用することこそが科目試験合格・レポート課題合格に必要なことである。

私のレポート・試験対策

法学部乙類 学士入学 湯浅 裕介

はじめに

2018年4月に学士入学し今年で6年目になります。途中、コロナ禍で生活環境が一変した時期もありましたが、多くの横浜慶友会の仲間に支えられ現在に至っています。今般の埠頭66号への寄稿に際し、私のレポート・試験対策についてご紹介させていただきます。参考になるかどうかわかりませんが、ご一読いただければと思います。

レポート対策

まず、第一段階として数多くの科目の中からどの科目に取り組むかを決める必要がありましたが、私の場合は法学部乙類なので政治学と憲法のみが必須科目です。それ以外はテキスト科目履修要領で内容を確認し、卒業に必要な単位の条件に合わせ受講する科目を決めました。まず、自分自身が興味を持って取り組めるのか、また、多少なりとも予備知識があるのか、を科目選択の条件にしたのです。そして受講を決めた科目についてレポートの作成に取り掛かるのですが、そこで参考にしたのがレポート課題集です。自分は何についてレポートを作成すべきなのか、を整理してからテキストに取り組み始めたのです。その科目の単位を取得するにはテキストの通読と理解が絶対必要です。全体像を把握することが最も重要だとは思うのですが、そこは時間との兼ね合いもあります。テキストや参考文献の中からレポート課題に関する部分を抜粋して読み込むなどの時短学習もあり

かな?と感じています。もちろん、わからない単語や用語などが出てきた場合には、ネットでの検索は必須ですし、C i N i iによる文献検索とダウンロードや関連する団体や省庁のH Pの閲覧はかなり有効なツールだと思います。

私はこの時にエクセルを活用し、関連事項の一表を作成しています。例をあげると、日本政治史のレポート課題は、「日中戦争開戦から敗戦までの日本政治の変容について論じる」といったものでした。そこで、1920年代から終戦までの歴代首相を就任期間や政党名とともに列記し、各年代に起こった出来事や日本の政策や主張、そしてアメリカや中国の対応などをまとめています。そうすることで全体像を時系列に把握することができます。こうして全体を俯瞰したうえで、アウトラインを整えレポートの作成に取り掛かるようにしました。加えて、レポート課題の対象とした年代が同じだった日本外交史Ⅰも受講しました。レポート課題は「満州事変の前後での日本外交を比較検討したうえで、満州事変がどのように日本外交の転換点となったのかを考察する」といったもので、年代がほぼ同じです。前述したエクセル資料を有効に使うことができ、違和感なく取り組むことができました。これも一種の時短学習だと思います。

また、スクーリングを活用した科目もあります。単位取得は必須科目からと目論み、入学後すぐに政治学と憲法からレポートに取り組んだのですが、憲法のレポートは酷評とともに返送されてきて、見るも無残な結果となりました。これは独学ではムリと感じましたので、一旦、夏期スクーリングで憲法を受講して最低限の知識を身につけてから、レポートに取りかかるといった対策も行いました。少し時間はかかりましたが、有効だったと感じています。

ここまで手を尽くして作成したレポートですが、すべてが一発合格とはいきません。残念ながら不合格で帰ってきたレポートについては、不合格に対するコメントを十分にかみ碎いての再挑戦となります。

試験対策

高校までのマークシート式問題や穴埋め問題といった知識を問われる定期試験とは違い、大学の科目試験は論述問題であり、問題に対して論理的に答えを展開しなければなりません。また、高校時代に、テスト前に担当の先生からテスト範囲を教えてもらった経験がある方もいるかと思いますが、基本的には慶應通信の科目試験ではそのような情報はありません。スクーリングで最終日のテストについて事前に案内がある場合もありますが、これもすべての科目での話ではないと思います。(私の経験では、国際法Ⅰで葉袋先生がスクーリングの初日に最終日のテストの案内をしてくださいました。) ですから、先輩方から過去の問題について情報を得るなどして、ヤマを張るというのも一案でしょうが、やはり自分が作成したレポートとそれに関連したノートやメモ、データなどを確認するのが一番堅実な方法だと感じています。過去問を整理して問題を予想し、ヤマを張る時間があるのならばテキストの見直しがおすすめだと思います。私も憲法の科目試験に対して過去の出題傾向について体験談を聞くなどしてイメージを膨らませましたが、実際の出題は、「同性婚に対するあなたの私見を述べなさい」といったまったく想定外のものでした。関連する具体的な条文としては、憲法24条の婚姻の自由、同14条の法の下の平等、同13条での幸福追求権の保障などが連想されますが、これらの条文についての理解がなければ何の論述もできません。ヤマが外れたのでほとんど何も記述

できず、30分で試験会場を退席することの虚しさを想像すると、科目試験の前日には自宅でテキストやノートに向き合う時間を取りることが、結局は単位取得への近道ではないかと思います。

まとめ

みなさん、それぞれ思うところがあり慶應通信の門をくぐってこられたと思います。仕事をしながら、家族のお世話をしながらと置かれている立場はまったく異なりますので、勉強に割ける時間も千差万別とは思います。なかなか計画通りに学習が進まず落ち込むこともあるでしょう。私もモチベーションの維持にはたいへん苦労していますが、浜慶に集う全員の目標は卒業です。「浜慶は全員卒業！」を胸に、レポートが不合格で心が折れたときは、昨年の塾高の甲子園優勝を YouTube で見てやる気を振り絞っています。月に一度の例会でのコミュニケーションもやる気スイッチになっています。諦めることなく、みんなで卒業を目指して頑張りましょう。



三田・南校舎 ザ・カフェテリアランチ



VII. 自由寄稿



三田演説館

崖っぷちでも諦めるな！

文学部第1類卒 石黒滋美

卒業生として、今このような文章を書いていることが、数年前の私には想像もできませんでした。いや、想像してはおこがましいと思っていたかも知れません。横浜慶友会のみなさんに会うことも心苦しい時期さえありました。そもそも心理学の論文を書きたいという理由で入学し、卒業が目的ではなかったので、何度も放り投げようと思いました。横浜慶友会の仲間が次々と卒業していく姿を遠目で眺め、私も卒業を目指してみようと思い始めたのが、学籍期限切れの12年目を迎える数か月前のことです。事務局に問い合わせたところ、学籍延長可能な条件は満たされていたので、手続きを済ませ2024年3月まで学籍を伸ばすことができました。2021年7月時点で3分野科目6単位、専門科目が28単位残っているという崖っぷち状況でした。しかし、その後、卒業要件には専門科目がさらに4単位、つまり32単位不足していることがわかり、ものすごいプレッシャーを感じました。先輩方に相談した際の、「やりがいがあるなー」、「何がおこるか分からないから何事も前倒しで行動するよう」との前向きなアドバイスが大きな力になりました。そして、潰されそうな時、いつも思い出していたのが、2010年の夜間スクーリングで共に哲学を学んだ哲友Iさんの、「横浜慶友会のモットーは「全員卒業」なの。だから一緒に卒業しよう。」という温かい言葉でした。彼女はほどなく経済学部をご卒業されました。今となってみれば、先輩方から頂いた言葉の数々が耳から離れなかったお陰様で苦節15年、無事卒業することができました。

卒業までの道程を詳細に書くと 15 年の歳月が必要ですので(笑)、私の親族とお世話になった友人、勤務先の社長などを招き、総勢 35 名の私の卒業祝賀会を催した後に、子ども達へ宛てた手紙に注釈をつけたものを以下に載せます。

なお、文中に個人を特定する箇所がありますが、ご本人様のご承諾を得ております。

尊敬するわが子へ

3月30日は、家族全員で参加してくれてありがとう。もしかしたら、重要なお仕事が入っていたのかも知れないね。ごめんね。でも本当に嬉しかったよ。ありがとう。

構想から3年かけて、ママが作成した卒業論文のコピーをもらってください。ざっくり読んだらメモ用紙に使って(笑)。この論文を書くために、500冊程度の書籍や論文を読みました。ふつうは、11月ごろには卒業が決まっている中、ママは単位不足のため、卒論作成の最中でも定期試験の勉強と同時進行だったの。毎日毎日、なんでこんなことしているんだろう?こんな文献なんかじゃなく、好きな小説とか自己啓発本とか読みたいよ(ー;ω;`;)ウツ…映画が観たい、遊びに行きたい、眠い……そんなことを考えた日も何日もあったし、原因不明の心臓発作も2回も起こったよ

¹⁾。

2009年から15年間、転職、毎週末は二人の孫の子守り、スピーチ全国大会出場、白い巨塔の教授選に巻き込まれたり、会社設立してまた転職し

たり、義母の介護があったり、舌腫瘍摘出後にオンラインサロンの運営。マレーシア一人旅や沖縄旅行²⁾なんかもしたけど、何より Chacha³⁾を失い悲しみに暮れた日々があつて本当に目まぐるしかった。

大学での勉強は誰かに頼まれたことではなく、自分で決めたこと。やめても誰にも迷惑はかかるない。じゃあやめるか？いや、ここまで来て逃げるのか？どうしよう・・・・・そんな時、マジックショーの今井さんと当日は来られなかった神谷さんをはじめ、周囲の仲間や先輩が、黄金町のフィールドワークに付いてきてくれて、黄金町のバーの経営者やアーティストたちも応援してくれたんだ。その人たちと過ごした素敵な時間がママの気まぐれで無駄になってしまふことがもったいなくて、やれるところまでやってみよう！と決めたの。

慶應通信は、全国の通信制大学のなかでも、難関中の難関で、卒業できる人は数パーセントといわれているから、その数パーセントに入れたことは、ママの誇りです。他の大学じゃ、ママには意味がなかったの。ママにとって【学問】は最高の贅沢。だからもし、途中であきらめいたら学ぶことが大嫌いになっただろうし、憧れの慶應を恨むだろうと。何より、自信を失つていただろうなって思う。

人生は一度きりだけど、長いねぇ～。ママなんかよりずっと賢い子だから十分に分かっていると思うけど、自分の好きなこと、やりたいことを貫いてほしい。ママは、転んでも怪我しても、その失敗が経験として役立つときが来ると信じて、ピン！ときたら動いてきたから、失敗の数も多すぎ(-_-;)でも、反省はするけど、後悔はしていない。これからも「成長」の機会を逃さずに行こうと思います。

最後に、素敵な贈り物と愛をありがとう。

みんなの前でいった言葉、【崖っぷちでも諦めるな！】をママから贈ります。

今まで以上に夫婦・家族仲良く、お互いに感謝して生きてね。

※慶應チョコレートは、一粒 120 円。味わってね (^^♪

2024 年 4 月 1 日

石黒滋美

- 1) 医療機関においてストレス性と診断された。
- 2) 還暦祝いとして夫から贈られた旅行。
- 3) 元捨て猫。23 年近く傍にいてくれた愛猫。2021 年 12 月に虹の橋を渡った。



福澤諭吉先生は、なぜ、仕官しなかったか？

法学部甲類卒 小田 忠夫

伊藤公平塾長は、通信教育部開設 75 年を記念して開催された特別講演会「学問のすゝめ」で、福澤諭吉（敬称略）と大熊重信は、当時「国家の主権者は国民でなければならない」と考えていたと述べられた。

基本的には、このような考えがあつてのことであろう、福澤諭吉は、その見識と能力によりしばしば政府への仕官（官職について役人になること）の道が用意されたが、頑として応じなかつた⁽¹⁾。

福澤諭吉は、『福翁自伝』に、私の本心において、何としても仕官ができないその真面目（しんめんもく）を丸出しに申したい⁽²⁾、として四つの理由をあげている。慶應義塾大学で学ぶ者あるいは学んだ者として心得ておくべきことだと思うので、その要約を示したい。

第一 肝威張りの群れに入るべからず⁽³⁾

政府がその方針を開国文明と決定して、大いに国事を改革すると同時に、役人たちが国民に対してむやみにいばる。そのいばるのも行政上の威嚇といえば、おのずから理由もあるが、実際はそうではない。ただ肝威張をして喜んでいる。たとえば、位記（国家や社会のために功績のあった者に与える栄典の文書、ここではそこに記されている位や階級の意）などは王政維新、文明の政治とともに止めてよさそうなものを止めずに、人間の身に妙な金箔を着けるようなことをして、日本国中いらざるところに上下貴賤の区別を立てて、役人と人民と人種

の違うような細工をしている。

いまの日本の風潮で、役人の仲間になれば、たとい最上の位置にいたとしても、とにかく殻威張と名づくる醜態を犯さねばならぬ。これがわたしの性質においてできない。

第二 身の不品行は人種を異にするがごとし⁽⁴⁾

役人全体の風儀を見るに気品が高くない。その平生、美衣美食、大きな邸宅に住居して散財の法もきれいで、万事万端思いきりがよくて、世に廻政を料理するには卑劣でない。至極おもしろい気風であるが、なにぶんにもシナ流の磊落（さっぱりしていること）を気取って一身の私を慎むことに気がつかぬ。ややもすれば酒を飲んで婦人に戯れ肉欲をもって無上の快楽事としているように見える。

この人種の仲間になって、ひとつ竈の飯を食いほんとうに親しく近くなろうというには、汚れたように思われてツイいやになる。

第三 忠臣義士の浮薄（行動が軽々しいこと）を厭う⁽⁵⁾

幕末に、勤王佐幕の二派が東西に立ち分かれていた。私はただ古来の門閥制度がきらい、鎖国攘夷がきらいばかりで、もとより幕府に感服せぬ。さればとて勤王連のさまを見れば、鎖攘論は幕府に比べて一段も二段も激しいから、コンナ連中に心を寄せるはずはない。

維新の騒動になって徳川将軍が逃げて帰ってきた。スルト幕府の人はもちろん諸方の佐幕連がなかなかやかましくなって、議論百出した。薩長何者ぞ、ただこれ関ヶ原の降参武士のみ。いかにもエライ有様で、忠臣義士の共進会であった。しかし、幕府がいよいよ解散となる。すると、忠臣義士は軍艦に乗って函

館に居る者もあれば、陸兵を指揮して東北地方に戦う者あり、または、プリプリ立腹して静岡に行く者もある。

ところが、1年たち2年たつうちに、忠臣義士であった者が賊地の方にノッソリ首を出すのみか、体を丸出しにして新政府に出身、ねこもしやくしも政府の辺りに群れ集まって、以前の賊徒いまの官員衆（役人）に謁見、かねてご存じの日本臣民でござるというような調子、君子は既往を語らず、前言前行はただ戯れのみと、双方うち解けて波風なく治まる。

私には、少し説がある。そもそも王政維新の争いが、政治主義の異同から起つて、たとえば勤王家は鎖国攘夷を主張し、佐幕家は開国改進を唱えて、ついに幕府の敗北となり、その後に至りて勤王家も大いに悟りて開国主義に変じ、あたかも佐幕家の宿論に投するがゆえに、これとともに爾後の方針をともにするといえば至極もっともに聞こえる。けれども当時の争いに開鎖などいう主義の沙汰は少しもない。

論争の発起人で忠義論を唱えて世の中を騒がせた人たちの気が知れない。寺の坊主にでもなって生涯を送れば宜しいとおもえども、坊主どころか、しゃあしゃあと高い役人になってうれしがっているのが私の気にくわぬ。

コンナ薄っぺらな人間と伍をなすよりも、ひとりでいる方が心持がよい。政治のことは一切人に任せて、自分は自分だけのことを努めるように身構えをしました。

第四 独立の手本を示さんとす⁽⁶⁾

維新政府の基礎が定まると、日本国中の士族はむろん、百姓の子も町人の弟も、少しばかり文字でもわかるやつは、皆役人になりたいという。全国の人民、政府によらねば身を立てる所のないように思うて、一身独立という考えは少しも

ない。

全国の人がただ政府の一方を目的にして、ほかに立身の道なしと思い込んでいるのは、漢学教育の余弊で、いわゆる青雲の志ということが先祖以来の遺伝に存している一種の迷いである。いまこの迷いをさまで文明独立の本義を知らせようとするには、天下一人でもその真実をみせたい。

自分がその見本になってみようと思いつき、人間万事無頓着と覚悟を決めて、
ただ独立独歩と安心決定したから、政府に寄りすがる気もなく、役人たちに頼む気もない。いっさい万事、人にも物にもぶらさがらずに、いわば捨て身になって世の中を渡るとチャント説を定めているから、なんとしても政府に仕官などはできない。

まさに、「独立自尊」の実践である。

【参考個所】

- (1)『福翁自伝』福澤諭吉著／校注解説富田正文 慶應義塾大学入学記念
2007（2007年4月1日発行）323頁
- (2) 同上 294頁
- (3) 同上 294頁
- (4) 同上 294～295頁
- (5) 同上 295～297頁
- (6) 同上 297～298頁

木漏れ日

文学部第1類 平山 次男

映画が何より好きな〔映画少年〕は、小学生のころ洋画3本立ての映画館に頻繁に通っていた。

〔映画少年〕は歳を重ね老人になってしまったが、映画が好きなことに変わりなく、本年に入り映画館で4本の映画を観ました。

1本目は、『哀れなるものたち』⁽¹⁾、2本目は、『PERFECT DAYS』⁽²⁾、3本目は、『ボブ・マーリー :ONE LOVE』⁽³⁾、4本目は、『オッペンハイマー』⁽⁴⁾です。

今回紹介する作品は、ヴェム・ヴエンダース監督による映画『PERFECT DAYS』です。

この作品は、初老の独身男性の日常を描いた作品で、住んでいるのは「TOKYO SKYTREE」⁽⁵⁾が近くに見える場所に設定されています。

この初老の男性の目覚めは、近所を掃除する竹箒き（今では珍しい）の音によって目を覚します。顔を洗い、歯を磨き、そして、植物に水をやり（苗木を育てている）、仕事着に着替え、タオルを首にかけ、家をでて、自動販売機の缶コーヒーを飲み、通勤は自動車に乗り、勤務先である渋谷へと向かう（朝食を摂る場面は出てこない）。

高速道路を俯瞰した映像に、The Animals の演奏する『The House of the Rising Sun (朝日のあたる家)』⁽⁶⁾が画面を覆い被さる様に響き渡ります。

ここからようやく映画は動き出します。

仕事は公共トイレの清掃である（掃除ではなく清掃）。

寡黙に清掃を行うその姿勢は、あたかも〈清掃道〉というものがあるならば、修行を行っているのではないかと思うほどの熱の入れ様といってよいでしょう。

昼食は、コンビニのサンドウイッチを食べます。

仕事を終え帰宅すると、近所の銭湯に自転車に乗って行き、身体を清めます。その後、居酒屋（浅草地下商店街）で肴を摘まみながら一杯戴きます。

夜は、好きな小説⁽⁷⁾を読んで、眠くなったら寝るという日常生活です。

仕事をし、風呂に入り、一杯やり、好きな本を読み、そして眠に入るという生活、穏やかなおよそ変化のない日常の世界を描くことによって、生活とは何かを問うているのではないでしようか。

そして、翌日も昨日と同様な日々を過ごすことが彼の日課となっています。

この間の出来事として、姪が家出をして尋ねて来た時の伯父としての役割、妹との邂逅、小料理屋の女将との成り行きなどが描かれています。

彼は、太陽と樹木に关心があり、映画の最後では「木漏れ日」についての解説が写されて終了します。

彼の生活の特徴は、現代生活に欠かせない、炊飯器・冷蔵庫・クーラー・洗濯機・掃除機などの電化製品は所有していないこと。

驚いたのが、畳の掃除をする場面。

濡らした新聞紙を散らし、箒で掃いて掃除するシーンは、昔は日常的に行われていた掃除方法でしたが、いまはほとんど見かけない風景かと思います。一瞬、何をしているのかと思いましたが、そういえば子どものころよく母親がやっていたのを思い出しました。掃除機が家庭に普及していない時代、はたきをかけ、箒でゴミをあつめていたのを思い出しました。

この映画『PERFECT DAYS』は、初老の独身男性の日常を描いた作品ですが、細やかな気配りや内的志向を光と樹々が織りなす「木漏れ日」に象徴したある意味での日本の自然とともに生きてきた共同体を描いた映画ともいえます。

ほぼ変わりのない孤高の主人公の日常の世界を描いたこの作品は、淡々たる平凡な日常生活を描くことによって、生活とは何かを問うているのでしょうか。

最先端の技術を駆使し造り上げた象徴としての「TOKYO SKYTREE」と家電製品を所有しない生活との対比、トイレ清掃というモノを造り出さないが日常生活を円滑に廻してゆく社会的再生産を描くことによって、金科玉条のごとく生産性向上を高らかに謳う世界とは真逆な世界を提示することで、社会の規範とはないかを炙り出しているのではないかでしょうか。

- (1) ヨルゴス・ランティモス監督、主な出演者エマ・ストーン、マーク・ラファロ、
- (2) ヴェム・ヴェンダース監督、主な出演者役所広司、アオイ・ヤマダ
- (3) レイナルド・マーカス・グリーン監督、主な出演者キングズリー・ベン=アディル、ラシャーナ・リンチ
- (4) クリストファー・ノーラン監督、主な出演者キリアン・マーフィー、エミリー・プラント
- (5) 高さ 634m の電波塔として、2012 年 5 月開業
- (6) 1964 年に全英 1 位、全米 1 位を獲得
- (7) ウィリアム・フォークナー『八月の光』、パトリシア・ハイスマス『太陽がいっぱい』、幸田文『木』など

日本刀が彩る歴史探訪（その4）

文学部第2類 神谷 喜人

<はじめに>

皆様こんにちは。コロナが完全解除になりました。これまでと同じような日常に。インフレも本格化。この埠頭が届く頃には株価は5万円を突破している。はたまた、大暴落かも。アメリカ大統領選、日本の総理も半年後は？ 時の流れは、行き先の見えないものなれど、こんなにも先行き不透明な時代も珍しいですかね。まあ、それでも日本が滅びるとこまでは行かない。多分。

個人的には夫婦揃って還暦を超えた、娘夫婦が横浜でお泊まり＆お祝いパーティをしてくれました。感謝、感謝、とめどなく。私は、元来、仕事が趣味の何も取り柄が無い父親でしたが、日本刀を手始めに、趣味の世界が拡がり、楽しみがどんどん増えました。そんな私を、”いいね”評価する家族は、実にありがたき存在。望むらくは、この埠頭66号が手元に届く時、世の中が穏やかで、優しい世界でありますように。平和な世界が広がりますように。

さて、日本刀談義4回目は、承久の乱が終わり武士の治世が確立した鎌倉幕府中期から話を進めます。お隣の朝鮮（高麗）では元の侵略が約40年（1231-1273）にわたって行われていました。有史以来、対馬海峡を挟み何かと戦いが続くこの地域はお互いに、次の戦いに備える事を常としていたように思います。

少し、この間の年表を抜粋すると

1225 年 高麗がモンゴル使節を殺害

1231 年 オゴティ・カアンによる高麗侵攻、開京陥落、高麗降伏

1232 年 高麗、開京駐在のモンゴルのダルガチ（統治官）72 人全員を殺害、江華島に遷都

1235-1273 年 純余曲折の混乱、騒乱、戦乱、反乱を経て最終的には、三別抄 濟州島にてモンゴル・高麗軍により鎮圧され、朝鮮半島はモンゴル支配下に

(以上、大陸側。以下、本邦側)

1268 年 北条時宗 八代執権に就任、高麗の使節団が大宰府に到来。大宰府の鎮西奉行・少弌資能に大蒙古国皇帝奉書を渡す

1270 年 惟康王を戦時体制に組み込む（4代将軍 源惟康）

1271 年 『立正安國論』を唱える日蓮を佐渡に流罪

1272 年 二月騒動、日本使節 12 人が高麗を経由し元の首都・大都を訪問、異国警固番役を設置。鎮西奉行・少弌資能、大友頼泰の二名を中心に、筑前・肥前の要害警護および博多津の沿岸警固

1274 年 元寇（文永の役）

1281 年 元寇（弘安の役）

<蒙古襲来直前事情、太田文>

ところで、皆さんは対馬の住人、塔次郎と弥次郎をご存知ですか。対馬は釜山から 50km ほどの場所にあり、博多までの 140km よりも遙かに朝鮮半島に近い。元寇前の 1269 年に、この 2 人朝鮮に拉致され、あろうこ

とか皇帝クビライに謁見、歓待され帰国したそうな¹⁺²。「モンゴル国書」にも記載されているので嘘ではないでしょう。浦島太郎はこれがモデルとも。さて、ここで言いたいのは、多くの歴史書が鎌倉幕府や朝廷は世界情勢を知らずに、日本は混乱したような事を書いていますが、これは違うのでは無いかと。塔次郎と弥次郎はじめ、朝鮮半島経由で多くの情報が伝わったならば、次は日本が危ないと思うのは当然で、その対応として第一に考えられるのは武器を作れ！という事になります。当時の武器は、すなわち刀や弓・矢です。

同時に、太田文で地籍調査を行い、どの程度の戦力が使えるかなどを計画し、その日に備えたと考えます（秦の戸籍と同じ）。太田文作成を命じたのは北条義時で 1224 年没であるので、もしかするとモンゴルが朝鮮侵攻を始める前から、その勢いを警戒していたのかも。これ、すごい諜報活動があった事に。無学祖元が南宋から鎌倉に来たのも、元の情報が手に入るから、とも思えます。

<後鳥羽上皇と刀剣>

承久の乱にて、隠岐流罪の後鳥羽上皇は、かの地にあっても月当番と呼ばれる刀鍛冶を交互に呼び寄せ、より良い刀の制作に没頭していました。以前から不思議だったのが、なぜ幕府が上皇のこのような行動を黙認するばかりか、費用まで出して、これを続けたのかです。ここで、モンゴルの脅威が日本に及ぶ事を感じていたのなら、刀剣研究でより良い武器を作る事は大いに幕府の利害と一致します。また、上皇は刀にめっぽう詳しい。隠岐での退屈な生活へのなぐさみにもなるでしょう。名誉ある刀鍛冶に選ばれたのは、栗田口（京都）と備前（東岡山）の人達でした。彼らの、隠

岐に向かう心情はどのようなものであったかが偲ばれます。彼らの公的活動は、刀剣生産に勢いを与え、後に多くの素晴らしい刀を生み出す事になります。

<日本刀研究と成果>

これらの日本刀研究は、元寇前から、南北朝の頃まで盛んに続けられ、この成果として日本歴史上最高と称される正宗を代表とする名工が数多く出現した。と考えたいです。今では、正宗作の刀剣をはじめこの時代の作品は国宝・重要文化財級の価値ですが、当時は実践用途に生産され、蒙古の革製鎧に対応する武器として期待されました。刀名、元寇に備える刀鍛冶への付託はいくばかりか。他の事を我慢して、国を護るこの一振りを仕上げる情熱、今では考えられない精神力を、彼らが打ち鍛えたからこそ、後世まで残る名品が数多くできたのではないでしょうか。

<文永、弘安の役での刀評価>

元寇の記録として、クビライに仕えた官吏・王惲は、伝え聞いた元寇における武士の様子を「兵杖には弓刀甲あり、しかして戈矛無し。騎兵は結束す。殊に精甲は往往黄金を以って之を為り、珠琲をめぐらした者甚々多し、刀は長くて極めて犀なるものを製り、洞物に銃し、過。但だ、弓は木を以って之を為り、矢は長しと雖えども、遠くあたわず。人は則ち勇敢にして、死をみることを畏れず」³と残しています。“極めて犀なる”とは、“めっちゃ鋭い”との表現で、鎧も通してしまう。との、なかなか良い評価を残しています。槍があればなお、いいとも思いますが（前述の指摘にもあり不思議）、この時代はあまり出てきません。戦国時代では刀よりもむしろ

盛んに使われ、鉄砲が来るまでは最も効果的な武器でした。

<少弐氏の奮闘と鎌倉幕府衰退>

元の大群に直接対峙し、当主自らも戦死してしまう奮闘を以て、日本を護った人々の事を最後に書いておきたいと思います。少弐資能は太宰府の長として前代未聞の国難に対応します。何十年も前から警戒され、いつ来るかわからない蒙古襲来の報を受けた時の気持ちはいくばかりであったか。自身の刀を抜いて、必勝を誓ったと思うのは私だけでしょうか。刀鍛冶がこの時の為に鍛えに鍛えた刀に命を賭けた人々があり、日本は日本たりえた。

何ヶ月も戦っているので、神風もあったでしょう。しかし、日本人として外敵と戦う決意と行動があったからこそ、運も味方についてくれたものと思えます。元の報告でも彼らの勇敢さは、文字としてしっかりと残っています。石垣や動員手段、武器の確保と諜報活動。全てを動員、死力を尽くして、ギリギリ勝ったのが、本当のトコではないかと思います。

なので、元寇以降はエネルギーが無くなり、その後の襲来にも備える中で、霜月騒動が起り、幕府も、あれほど団結した九州武士団も互いに争う状態に陥りました。もし3回目があつたら確実に、今の日本は無かった。そんなことを思いながら、日本刀の清冽な姿を見る時、彼らは、何を今の私たちに伝えようとしているのでしょうか。皆様、是非お近くの美術館に行って鎌倉時代の刀と、そんな事を語りあってもらえればなと思います。

(次号に続く)



刀 無銘正宗（名物觀世正宗） 64.6cm 東京国立博物館蔵

*1 : <https://ameblo.jp/kmkrllog/entry-12630375518.html>



*2 : <https://note.com/kiyosada/n/neef74f5bef9d>



*3 : 孫衛国, 「朝鮮王朝が編纂した高麗史書にみえる元の日本侵攻に関する叙述」

https://www.aisf.or.jp/sgra/wp-content/uploads/2017/03/%EF%BC%BBJ%EF%BC%BDKokushi2_Fullpaper_SunWeiguo%EF%BC%88%E5%A0%AB%E8%A1%9B%E5%9B%BD%EF%BC%89ed2-cleaned.pdf



コミックマーケットと私

経済学部 本田 光

コミックマーケット（以下コミケ）の話をさせて頂きます。ここ最近、お盆と年末のニュースで取り上げられることが多くなったので知っている人も多いかもしれません。ビックサイトにやたら人がいてコスプレをしている人が映っている画、あれがそうです。コミケにはコロナ前から何度か参加して楽しんでおり、この度は、こういう世界もあるんですよとお伝えできればと思います。

そもそも、コミケとは何ぞやという話から致します。一言で説明すると世界最大のオールジャンル系同人誌即売会のことです。では、同人誌即売会とは何か。同人誌を販売（頒布と呼びます）するイベントのことで、ここで言う同人誌は自費出版の本というイメージで問題ありません。

そして、オールジャンル系とは全てのジャンルが出店できるという意味です。オールジャンル系の対としてオンリージャンル系があるのですが、オンリージャンル系とはイベントのテーマが決まっていてそのテーマに関する本しか出せないという制約があります（「ポケモン」オンリーならポケモンに関する同人誌だけ出せるということです）。オールジャンル系はその制約がないイベントであると説明したほうが理解しやすいかもしれません。ちなみに、オールジャンル系といえどもジャンルがごっちゃになるわけではなく、ジャンルごとに固まって場所や日程が配置されることになります。つまり、コミケとはあらゆる分野の自費出版本が集まる年2回行われるイベントのことです。

コミケというと、アニメやゲームの二次創作・コスプレという印象を強く持つ方が多いかと思われますが、それ以外にも面白いジャンル（テーマ）は色々とあります。私が目当てに行くジャンルの一つに「評論・情報」ジャンルがあります。実質その他ジャンルなのですが、具体的に述べると手引書・調査報告・体験記などなどマニアックな題材の同人誌が多いジャンルです。私が購入したことのある同人誌のタイトルを挙げると「食べ方図説 崎陽軒シウマイ弁当編」「薄い本でわかる！ イラク日報」「メロンブックス構文の研究」「ハニー・ポットで遊ぼう」などなど。ニッチな本ばかりだというのが分かって頂けたかと思います。ニッチすぎて告知や通販をしていない人が多いので、毎回掘り出し物を見逃さないように会場を周遊しています。その他にも色々なジャンルがあり、イヤリングなどのアクセサリー や自作キーボードを売っているジャンルも存在します。

私はコロナ前からコミケに参加しております。では何故、コミケに行くのかを自問自答すると、その答えは新しい出会いがあるからになります。前述したように同人誌はかなりニッチなものが多いです。自分一人では辿り着けない・得られないような発想・知識・視点が書かれた同人誌に出会い・発掘する楽しみ。これが一番の理由だと思います。

そして、もう一点、コミケがオールジャンル系のイベントであることが挙げられます。つまり、30歩も歩かないうちに別のジャンルを見る事ができるのです。普段、関わり合いのない別のジャンルを、少し歩くだけで見て回ることができるのです。普段とは異なるジャンルを覗くと、こういう世界があったのかと驚かされるばかりです。

さて、色々とコミケについて語らせて頂きましたが、次のイベントではどんな同人誌と出会えるのだろうかと楽しみになって参りました。以下で

はコミケに興味をもたれた方がコミケを訪れる時の参考になるような話をさせて頂きたいと思います。

そもそもコミケがいつ行われているのかというと、お盆と大晦日になります。具体的に 2023 年度の開催日を挙げると 8/12~13 と 12/30~31 になります。二日間の開催で日ごとに開催されているジャンルが異なりますので、目当てのジャンルがある日付を確認しておくのがいいかと思います。場所は国際展示場（ビックサイト）で最近は西・東・南すべての会場を使用しています。

一番注意すべきなのが水分補給です。500ml ペットボトル 2 本は最低でも持った方が安全です。会場の空調があまり役に立っておらず、冬はいいのですが、夏は非常に蒸し暑いです。また、とにかく人が多くコンビニで何を買うにも一苦労するため、持ち込めるのならば持ち込むのがいいです。

現在、コミケのチケットは 4 種類あるのですが、ちょっと雰囲気を見たいなという方は一番入場が遅い午後入場チケットがオススメです。一番安い（事前：440 円、当日 1000 円）ですし、12:30~ 入場ですが SNS を見る限りではそんなに入場まで並ばないそうです。ちなみに、閉会は 16:00 のですが、15:00 の時点で撤収するサークルが多いため、それより前に目当てのモノを見ておいた方がいいでしょう。

今回の寄稿文でコミケのニュースを見た時に「おお、やってるなあ」と思いをはせて頂ければ幸いです。

学問の継続による効果は知識を増やし、 人生に大なる力となり得る。

法学部甲類 渡部 外彦

私の通信教育への入学は 2001 年 4 月であった。いま 2024 年であるから 23 年間勉学を続けている。持続性ではこれほど長く続けている人は少ないと自分で勝手に考えている。それでは長い期間在籍の効果がどれほどあるのか、半面で失ったもの、損失とするとどれほどなのかを比較してみる。ここでは感覚的な評価で考えてみる。

まず、長期継続の効果である。10 年間学び経済学部を卒業したので経済性が身に付いたように感じるが実際はどうだろうか。個人や家族では経済的独立がなされているかを考える。高齢では収入が限られてくるので支出がそれを上回ると蓄えを取り崩し厳しい生活が余儀なくされる人が多い。このような認識は誰でも漠然と持っているのだが、それを具体的に学び、現実に経済問題を読みとく力はできたと考える。どんな立場でもまず経済力が基本である。公的年金で生活する高齢者でもその額は少ないと考えればそれを補うために個人での年金を準備しておけばいいだろうがなかなかできない。しかし知識を持ちやるべきこととして事前準備は早めに進めておくことにより安定した生活や学問などに活用できるのだ。現役時代に資金を蓄えそれを運用することができるような準備することを提案する。学費は個人の年金で貯えるし、旅行も趣味の範囲で行きたい場所に行けるものだ。

次には体力を維持するにはある程度身体づくりをする必要がある。健康保険は皆保険であるも、それ以外に入院等の医療保険は助けになる。高齢

ともなれば身体のあちこちが痛みだす。高血圧、高脂血症から気管支炎や目では網膜剥離などあらゆるものが襲ってくる。この先に介護保険の利用も起こるのであろう。健康である自分が自慢であったのに何と多くのこと、すなわち身体にまつわる阻害要因が降りかかってくるのであろう！高齢化を理由に切り捨てられそうなので、そうならないためには、自立できる体力を維持して自立生活者として社会につながっていきたいものだ。ここで、学んだ力は役立つ、病気に対する知識や経験につながり、経験を生かした素早い行動が専門医師などの情報を得て病魔を追い払うのに役立つ。自発的に学びはじめていつしか高齢になっても長く続けることによる学識が積み重ねられているのであろう。

多くの仲間は終活というが、私はまだ20年の先を考えている。この学問で知り合う多くの学友を得られたし、まだ趣味を生かせられればこれに勝るものはないと考える。これからはまだ日本文化に興味があり文化の素晴らしさを表現できればいいと考えている。それが私を生み育てていただいた社会への恩返しとして記録し残しておきたいものであると考える。

他方、損失要因は何だろう。学費は先に述べたが家計の負担になる額でなければ続けられる。時間はどうだろう。それぞれの能力によるので卒業に至るのが早ければその後はさらに学問を深くまた広く応用すればいいであろう。私の場合は知識の少なかった分を補うのに長期の期間が必要であったと解釈している。幸い退職後の自由な時間が使えるからのんびりしていられるのだと思う。

それぞれの方が生まれや学習記録により積み重ねられたので一概に言えないが、あえて私の場合は勉学により生活を豊かにし、これからも道を開いていきたいと考える。

以上



VIII. 勉強会活動の振り返り



日吉・食堂棟

総合科目

リーダー 前村 孝子

総合科目はリーダー・前村、サブリーダー・北河、スタッフ・鈴木で情報交換会を実施しております。

各専門科目の勉強会とはちがい、質問形式でたわいのないおしゃべりの中で先輩方の経験談からヒントが得られます。総合は3分野を満遍なく履修する必要があり、どのような科目を選択するか?など先輩方のアドバイスが得られます。

1時間足らずの短い時間ですが他学部の方と交流できる機会です。

統計学は経済学部の必修、文学部も心理教育統計を取得したい方がおり、学士入学の方でも参加可能です。テキストだけでは取得が難しい場合はスクーリング受講をお勧めしています。

また今年度は経済学部にて「レポートの書き方」の勉強会がありましたので、普通入学の方にはそちらの参加もご案内いたしました。

リアル例会の際は、別日の平日夜に情報交換会を設けています。例会オンライン開催日に経済・法学部の勉強会と重複してしまうことが課題です。

大学での学習形態や申請・提出方式も大幅に変化しています。総合科目の履修が終わった方も参加して頂き、後輩に経験を引き継いでいただける会になればと思っています。

■ 2023年9月～2024年7月 総合科目情報交換会 実績

月日	内容	参加者	会場
2023 09/16(土)	夏期スクーリング報告 10月科目試験について	数名	Zoom にて開催
10/23(月)	週末・夜間スーリングと重なるため スクーリングについて	数名	Zoom にて開催
11月お休み	講師派遣・夜間スーリングと重なるため		
12/16(土)	文学部と共同開催 東洋史・西洋史の予定でしたが 講師役欠席のため情報交換会のみ	多数参加	日吉キャンパス Zoom ハイブリッド 開催
2024 01/20(土)	メディア授業・スクーリング受講による 単位取得について 文献収取方法など	10名	Zoom にて開催
02/19(月) 夜	論理学へのアドバイス (単位取得が難しい事について)	7名	Zoom にて開催
03/16(土)	論理学など 4月科目試験に向けて	8名	Zoom にて開催
04/20(土)	統計学が取得できた方の報告 他、質問事項のアドバイス	10名	Zoom にて開催
05/20(月) 夜	夏期スクーリングに何を選択するか、他、 質問事項のアドバイス	9名	Zoom にて開催 トラブルにより 参加出来ない方あり
06/24(月) 夜	論理学レポート、受からないレポートは 頑張るか、諦めるか? 夏スク受講するものの情報交換	8名	Zoom にて開催

文学部

リーダー 宮澤 輝明

今年度の文学部の運営は、リーダー1名、スタッフ3名（伊藤さん、高品さん、山根さん）でスタートし、途中スタッフが入れ替わり、7月時点では3名（高品さん、出水田さん、安河内さん）で運営しています。このメンバーで無事講師派遣も終えることができました。今年度も運営スタッフ、文学部スタッフ、そして勉強会参加者の皆さん、ありがとうございました。

今期はまず、運営体制を徐々に分散化していきました。各メンバーには快く作業を引き受けていただきありがとうございます。今後もスタッフの募集・作業の分担を図り、軽快な文学部を目指していきたいと思います。

勉強会は昨年度と同様に交流を中心とし、各回では10～20名ほどの参加者となりました。途中には講義を行っていただくこともでき、分野が広い文学部の学びに刺激をいただきました。特に5月には、「卒業祝賀会では卒業生の方と交流する時間が短くなってしまう」というご意見から、「文学部卒業生交流会」を実施し、非常によい会となったと思います。来年度も開催したいと思います。講義をしていただいた赤松さん、野見山さん、石黒さん、正岡さんに御礼申し上げます。ありがとうございました。

更に勉強会メンバーには文学部MLを上手に使っていただき、昨年より活発な交流ができたと思います。今後は勉強会での話題作り・資料の共有方法の検討をしていきたいと思います。

新しい方が多く勉強会にいらっしゃっています。運営やコン

テンツについてまだ改善の余地はありますので、一緒によくしていきましょう。

■ 2023年09月～2024年07月 勉強会・情報交換会実績

月日	勉強会科目	類	担当講師役	会場
2023 09/16	国文学	III	赤松さん	Zoom
10/21	11月度講師派遣 に向けた事前勉強会	—	宮澤	日吉キャンパス / Zoom
11/18	講師派遣	II	清水明子教授	日吉キャンパス
12/16	情報交換会	—	参加者	日吉キャンパス / Zoom
	特別講演会	I	岡原正幸名誉教授	
2024 01/20	情報交換会	—	参加者	Zoom
02/17	西洋史	II	野見山さん	Zoom
03/16	情報交換会	—	参加者	Zoom
04/20	情報交換会	—	参加者	日吉キャンパス / Zoom
05/18	文学部卒業生交流会	—	石黒さん、正岡さん	日吉キャンパス / Zoom
06/22	情報交換会	—	参加者	日吉キャンパス / Zoom
07/20	情報交換会	—	参加者	日吉キャンパス / Zoom

経済学部

リーダー 安倍潤子

昨年10月に経済学部リーダーをお引き受けしてから、1年が経過しようとしています。

塙田会長、竹原元会長、福里さん、河本さん、田村さん、佐藤さん等の諸先輩方に度々運営方法についてご助言賜り、次第に勉強会の形ができたように思います。慶應義塾大学ならではの半学半教の精神を継承され、後輩たちにご教授して下さる卒業生の皆様の姿には頭が下がります。そして、卒業後、先輩たちから受けし恩を忘れず、後輩たちに勉強会で恩返しすることが私たちの使命かと思います。

リアル開催を継続することで、参加者同士に連帯感が生まれ、円滑なコミュニケーションが成立してきたように思います。今、日進月歩で急速に変化するICTを活用することは不可欠な時代になっています。活用が苦手な世代の私にとって、若いメンバーの活躍は、目を見張るものがあり、多くの場面で助け舟を出してもらいました。これからも、世代間の交流や生涯学習の学びを通して、お互い切磋琢磨しながら人格を向上していくことができればと思います。

今後、勉強会の活動内容を更新し続けながら、より効用の高い会にしていくことをを目指したいと思います。一人でも多くの会員の皆様が卒業というゴールに到達できますように、勉強会を充実させてまいりたいと思いますので、皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。

実績報告

月日	勉強会 / 科目	担当 (敬称略)	会場
2023 10月 21 日	・経済学部今後の活動方針 ・経済原論 ミクロ	安倍 佐藤	日吉キャンパス ハイブリッド
12月 16 日	・ミクロ・マクロ課題等発表担当の話し合い ・ミクロ経済 勉強の仕方と練習問題 ・講師派遣と今後の勉強会となんでも相談会	福里 佐藤 安倍	日吉キャンパス ハイブリッド
2024 1月 20 日	・単位の取り方 ・レポートの書き方 ・マクロ経済	田村 佐藤 河本	日吉地区センター ハイブリッド
2月 17 日	・パレート効率 ・ナッシュ均衡 ・経済史 ・レポートの書き方	本田 小池 伊澤 佐藤	日吉地区センター ハイブリッド
3月 16 日	・経営学 財務諸表 原価計算等 ・マクロ経済 ・講師派遣の役割分担・発表分担	野本 河本 安倍	日吉地区センター ハイブリッド
4月 20 日	・予算制約線 ・比較優位の原則 ・5月新入生向け勉強会と7月、9月の発表分担確認 & 6月講師派遣スケジュールと役割分担と懇親会会場決定	安倍 鈴木 安倍	日吉地区センター ハイブリッド
5月 18 日	・新入生向け『経済学部勉強会のすゝめ』 ・先輩からメッセージ（小池／河合／本田） ・単位の取得の仕方	安倍 田村	日吉キャンパス ハイブリッド
6月 22 日	・講師派遣「統計学が示す指標の見方 —統計学的な視点に立って、指標をどう見ていくか—」秋山裕先生		日吉キャンパス ハイブリッド
7月 20 日	・進捗状況 ・経済史 ・三面等価 ・レポート書き方 ・今後の「勉強会の在り方」	築比地 伊澤 小池 佐藤 安倍	綱島地区センター ハイブリッド

法学部

リーダー 岸伸京

2023年5月、新型コロナウイルス感染症法上の位置づけが「5類」に引き下げられ、それを機に法学部 MTG は日吉校舎で開催することになりました。以降大学の教室の使用が認められない等の諸事情がある月を除いて対面型のリアル開催（日吉校舎）と zoom を用いたオンライン開催を併せて実施するハイブリット開催を基本としてこの1年間 MTG を開催してきました。

法学部 MTG の内容については勉強会と情報交換会を基本として活動しています。まず勉強会は対象とする科目を履修した、または履修中の学生が講師役となり、資料を作成しそれをベースに出席者に講義を行います。講師役は OB をお招きして行った実績もあります。情報交換会は勉強方法やわからないことや困っていることの相談があれば、誰かがアドバイスや参考になる情報提供をする場になっています。また、情報提供はその季節、時期の「旬」を捉えるように努めています。例えば入学式前後は基本事項を押さえるような場とし、科目試験前は喋れる範囲で過去の傾向、夏スク前は夏スクでの立ち回り、注意事項を中心にという具合で情報交換を行っています。

● 2023年8月 - 24年7月 法学部 MTG の状況について（報告）

1. 運営スタッフ

岸伸京（リーダー）、鈴木佳寿子（2024.7～リーダー代行）、渡部外彥、

鳴戸千鶴、佐藤修、湯浅裕介、淺井貞博

運営に関わる業務・役割はスタッフで分担し、意見交換をしながら無理せず助け合って活動の継続を図っています。

2023年10月から岸を中心としてこの1年活動してきました。5月から新たに湯浅さん、淺井さんをスタッフに迎え入れ、心機一転新しいメンバーで盛り上りました。しかし、2024年7月から岸が仕事の関係により当面リーダー業務を務めることできなくなり、リーダー代行を立てて運営に支障が無いように努めています。

2. 法学部 MTG 実施状況 2023年9月～2024年7月

実施月	テーマ (特記がない場合、併せて情報交換会を実施)	進行	担当講師
2023年9月	「政治学」～政治制度を中心に～	岸	新沼（OB）
10月	現代の中国政治	岸	岸
11月	文学部講師派遣のため時間短縮で情報交換会のみ	岸	
12月	情報交換会のみ	岸	
2024年1月	経済学部共通勉強会のため情報交換会のみ	岸	
2月	ロシア政治	岸	岸
3月	人文地理の予定であったが講師に仕事が入ったため情報交換会のみ	鈴木	
4月	刑法	岸	鈴木
5月	憲法 情報交換会＆新入生・在学生懇談会	岸	渡部
6月	情報交換会のみ	岸	
7月	情報交換会のみ	鈴木	

3. 分析・反省点

昨年の実施状況と比較すると、勉強会に関しては回数が減り情報交換会のみの開催となってしまう月がありました。また、LINE グループ等で事前に法学部 MTG の案内は実施していますが、参加人数はコロナ禍中よりも減少傾向にあります。

勉強会の減少について、コロナ禍開けで再び仕事や生活が活発になり、勉学に割く時間が減ったことにより科目の理解に自信がなくなり、講師役を断る傾向にあるためと思います。現に現役学生による講師を確保するのに苦労した 1 年でもありました。また、OB とのつながりはコロナ禍により連続性を絶たれてしまったことと、新体制移行により OB との連絡が粗になってしまったことがあると思います。

法学部 MTG の前後のイベントの状況にもよりますが、勉強会と情報交換会は両方実施した方が多くの人に参加していただきやすいと思いますので、これらの分析を基にできる限り勉強会と情報交換会は両方実施する方向で今後も続けていきたいと思います。

卒論サークル

リーダー 渡部 外彦

卒論サークルでの情報交換会は例会日の午前中に開催している。

卒論への関心が始まるある程度勉強が進み卒論を考え始める段階で参加される方が多い。学部はあえて分けないので文学から経済学、法学で幅が広く、またそれぞれの卒論での段階が違うので、初期に卒論はどんなものだろうと考えて参加される方、卒論に入るために申請書を書きたくて参加される方など様々だ。いつも 15 名ほどの多くの方が参加される。卒論はどのように進めるのか後述のような質問が多く寄せられる。参加の方には卒業生もおり経験を生かしたアドバイスもあるので心強い。 参加されている方の経験で解決できた話なども多く聞かれ、論文作成における問題解決事項として次につながるようだ。

塾生は日々忙しく時間の捻出が大変であるので、少しでも多くの方に参加いただけるようにとして、開催時間だけでなく開催方法も Zoom による遠距離参加を可能にして、教室が借りられるときはハイブリット方式も併用している。参加者の発言情報が卒論情報として共有性があり、その情報がやがて卒業論文の完成に至ることを目指している。

卒論は通信生にとっては避けて通れない重要な事項であり、学問が進んだ段階で関心事項に集中して、その領域から自主テーマを見出して深く検討することが求められオリジナルな成果に結びつく。検討や研究では、周辺論文の収集から分析、それに加えて知識を生かした論理展開による学問領域を広げることになるが、初めての方は勿論のこと、論文作成に経験を

持った方でも研究領域探求には困難なことが多いとの意見が聞かれる。そこで、論文に関する情報交換会で集まる方々の情報を話しながら、未経験者から卒業生までの集まったメンバーの情報により、問題解決につなげ、共有して体験情報を得ることで自身の卒論を進める力になればよいと考えて進めている。

「卒論はどんなテーマを選択するのですか」、「卒論指導の教授はどのように決めるのですか」、「卒業指導をどのように受けるのですか」など、基本的質問から専門領域での教授とのやり取りと自分での研究がまとまりをもつときの話など、これらは個別な事項であるもののその情報が自分に広がりを持たせられればサークルの意味があると考える。

卒論サークルのスタッフは樋口さん福田さんの3名で進めてきたが、OB樋口さんの応援もなくなるので、スタッフの卒業による変化を補うメンバー募集して継続していきたいと考えます。スタッフの応援のほどよろしくお願いします。

卒業生を多く輩出する横浜慶友会のその基本にある卒論サークルがよい効果を生むことができるよう、これからも皆様の意見を聞きながら進めます。

特別講座「3分間省エネ卒論」の紹介

講座案内役 渡部 外彦

この講座は 2021 年 11 月より 2024 年 3 月で 26 回まで開催し、約 2 年半の継続講座であった。講師の鹿嶋さんは現在体調を崩され休講中である。講座のはじめは卒業論文の難しさからきた。それを少しでもやさしく理解して書く方法がないだろうかと考え、「ロジレポ講座」を開催していた鹿嶋さんに声を掛けたところ快く引き受けいただき実施したものである。開催日は勉強会と重ならない日曜日昼過ぎの 2 時間半を当て、Zoom 方式でいつでもだれでも参加可能なように設定した。対象となる方は初めて学ぶ方から卒業された方まで広く募り、資料は継続性を持たせながら、鹿嶋さんのオリジナルに作成されたものを毎回配布している。講座内容は資料の説明を前半にし、後半は参加されている方との意見交換が中心で参加人数は毎回 10 ~ 15 名ほどである。

最近の講義資料のタイトルを記載する。

- 27回：『レジメ記述力訓練1段』の説明（3月17日）

卒論攻略を説明しながら、アウフヘーベン論述の訓練も兼ねてできる
凄ワザを披露している。

- 26回：『学習態度のコツ 第2弾』（2月18日）

分節構造について論じ、格調高く思考の深い論文を書く要領について
検討して行く。

● 25回：『学習態度のコツ 第1弾』（1月21日）

10名ほどの参加であるも議論の内容は深みのあるものであった。

● 24回：『分節記載テクニック第5段』（12月17日）

社会学の展開を参考にしてアウフヘーベン理論を組み合わせてはどうか。

人類の他の動物との違い抽象的創造概念

人類の歴史流れの理論から過去から現在から未来

現在を定義し背景を書き内容を書き影響を書く

論文のフレームワークを説明。

● 23回：『記述力訓練6段』（11月19日）

「レポートや卒論を我流で多くのページ数書いたが、中々合格しない」

という話を良く聞く。全体のアプローチを我流でまとめていても合格相場のレベルに入っていないのである。

● 22回：『教授の指導について』（2023年10月17日）

本稿全体は長いので、複数段（第1段から第4段）に分けている。人類の流れ理論に基づいてレポートにつきフレームという概念について説明してきた。レポートを作成するコツは教授の指摘（深く考える、自分の言葉で書く）を満たすことが必要であり、そのためにレポートのフレームを提唱している。

● 21回：『分節思考 - 第6段』（2023年9月17日）

意見交換を中心に実施「レポートや卒論を我流で一杯書いたが受からない」という話を良く聞く。我流でなく、受かるコツがあるので、それを説明する。それは論述力や展開力、論点整理と思う。

(案内者感想)

講座内容はその回ごとに内容の濃いものでした。講座を受講された方で「卒論の難問に解決策が見つかった」という感想も聞かれた。

講師鹿嶋さんの復帰を心より望むものです。



がんばれ北陸！ 復興支援



IX. 横浜慶友会の活動 (2)



横浜・K アリーナ

◇ PEN 卷頭挨拶集 2024 年度◇

以前は紙媒体で発行されていた横浜慶友会の機関誌『PEN』は、現在では8月を除く毎月、ホームページ上に発行されています。各学部勉強会の案内をはじめ、講師派遣、ミニ講演会などのイベント情報も掲載されています。

そのなかにある「巻頭言」には、勉強法にはじまり、日々の気づきや卒業を目指すノウハウなど、筆者の熱い想いがこめられています。勉強に行き詰ったとき、なんとなくやる気が出ないときなど、ぜひ読み返してみてください。きっと共感できる、励まされる一編に出会えるはずです。

2023 年 9 月

本との出会い

経済学部 野本 一昭

私は小さい頃からあまり本を読むことが好きな子供ではありませんでしたが、何故か小学生の頃に読んだ一冊の本が今でも記憶に残っています。それは、イギリス出身の女流作家フランシス・ホジソン・バーネットの「秘密の花園」という小説です。両親が他界し孤児となったメアリという少女が叔父の屋敷に引き取られ、そこである日「秘密の庭」を見つけ惹きつけられる。不器量でわがままな性格のメアリが、動物と話せる少年ディコン、いとこのコリンとともに「秘密の庭」を再生させることに夢中になり、明るく変わっていくという物語です。

今振り返ってみても何故この本を読んだのか、そのあたりは全く記憶にあり

ませんが、その後、高校生になってからは司馬遼太郎とか山岡荘八の歴史小説を読み漁りました。今までいろいろな作家の本を読んできましたが、好きな作家を敢えて挙げるとすると三島由紀夫になります。友人から「豊饒の海」を借りて読んでから、その情景描写の素晴らしさに驚き、日本語の美しさも気付きました。ただ、その情景描写についてはちょっとくど過ぎるところがあるよううに思いその友人に問うたところ、友人曰く、それは三島が法律を勉強したからだとのことでした。確かに三島は法学部を卒業しているのでそうなのかと納得しましたが、別の友人の三島評は、彼の作品には中味がないというものでした。最近、三島の作品の情景描写がどのように英訳されているかにも興味があって、ヤフオクで「仮面の告白」の英訳本入手することができたので、これから辞書を片手にゆっくりと読んでみたいと思っています。その他に、最近に読んだ本は「歎異抄」ですが、「方丈記」や「徒然草」、「平家物語」などもこれから読んでみたいと思っています。

こうして経済に関係ない本ばかり読んでいるので、肝心の経済の勉強が遅々として進まないわけですが、どうしても誘惑に勝てずといったところです。せっかく横浜慶友会に入っていますので、勉強の分野にとらわれず、私はこの小説家については一家言持っているとか、私のお薦めの作家、本など、様々な情報交換できる機会がもしありましたら幸いです。

2023年10月
傘寿を迎えて
—楽しい慶應通信—

法学部甲類 竹田瑛

私は、1943年生まれで、今年満80歳になります。仕事終了後の72歳より始めた慶應通信での勉強は、最初に文学部Ⅱ類（史学）に入学し76歳で卒業しました。次に77歳で、法学部甲類に入学し現在に至っています。この慶應通信の在学中（今も在学中ですが）は楽しく、特に文Ⅱの卒論の古墳研究は指導教諭にも恵まれいい思い出になっています。

私の慶應通信の生活がどうして楽しかったかということの理由を考えてみると、なんといっても、入学して以来、ずっと、私は浜慶のスタッフの仕事をさせていただいていたことが大きいでしょう。会長などの、重責のある要職はしていませんが、端役で、使いぱっしりでも、何らかの役をいただきました。それは、何かと一緒にするという友達ができたということでしょう。

それは浜慶の運営の一端に少しでも関わることによって、たくさんの役得をいただけます。スタッフ同士は顔を会わす機会も多いので、勉強会の席ではわからない情報—勉強の仕方・単位取得法などを、個人的にいただけることも結構あります。また、このスタッフ同士は、文学部卒業後も、交流があり、旅行にいったり、定期的に会ったりして、通学生と同じような学園ライフになりました。これって、やはりスタッフをして、同じ釜の飯を食ったという意識があるのでしょう。

法学部でも、特別の仕事をしたわけではありませんが、一応スタッフの一人

としてここまでやってきました。やはり、すばらしい法学部仲間ができました。

でも、もう80歳になり、そろそろ引退しないと、皆に嫌われそうですね。引き際を考えないとね。

若い方も、それほど若くない方も、私より年下の方は、ぜひ、慶應通信の生活を楽しく充実させたものにするために、一度は運営スタッフに参加されることをおすすめします。

2023年11月

3期目を迎えて

会長 塚田 光博

10月の定期総会で、会長に選出された文1の塚田です。皆様のご承認いただき、誠にありがとうございました。本期で3期目となりますが、引き続き本会活動を盛り上げていく決意です。また本期については、同時に後任にバトンを渡す時期であるとも考えています。

慶友会は、主に現役学生により構成されていますので、慶應通信で学び卒業していくことが、本来の姿であり、規約にもあるとおり、2年程度で会長を交代していくのが、順当かと思われます。一方、コロナの影響もあって、対面で会う機会が少なく、スタッフ同士の意思疎通も少ないことが、単純に任期どおりには、いかないという面もありました。しかし今春からは、大学の各種行事や本会活動もリアルに復活し、組織は回復傾向にあるものを感じています。また最近では、各運営を担う新たなリーダーやスタッフが登場するなど、喜ばしい傾向がみられ、今後一層、浜慶活動が活性化し、新スタッフの活躍に期

待するところです。

慶應通信で学ぶ動機やスタンスは、様々です。しかし思うところ、実際にスタッフとして参加される皆様は、とても勉強熱心で向上心のある方が多くいらっしゃいます。私も大いに影響を受け、勉強になっています。そのような皆様は、共に学び合うという姿勢を肌感覚で実践し、教養を身につけると同時に、仲間を大事にしながら、慶應義塾の「気品の源泉、智徳の模範」に相応しい行動を自然に身につけていくのではないでしょうか。こうした本会の成果を継承し、学生生活を有意義に過ごし、また楽しみ、学友を得る場として、本会を未来に向けて末永く繋げていくことを切に願っております。

私自身も、卒業までの道のりは、まだまだありますので、今後とも浜慶を盛り上げ、支えていくつもりです。今期もどうぞよろしくお願ひいたします。

2023年12月

今年の振り返りと来年の抱負

副会長 筬川 悅子

2023年も残すところ1か月。年末のこの時期に巻頭言を書くことは、副会長を務めていることへのご褒美である。というのも慌ただしく過ぎた1年を振りかえり、新しい1年をどのようにしていきたいかと考える機会を与えてもらえるからである。今回の巻頭言は、今年の振り返りと来年への抱負を記してみたい。

2023年は、あらゆる場でのリアルのつながりに感謝する1年であった。横浜慶友会の活動においては、日吉キャンパスでの勉強会や講師派遣の再開が

それにあたる。勉強会では、学友や先輩と直接話することで高いモチベーションを保つことができた。講師派遣では、太田教授、清水教授の講義や懇親会を楽しむことで新たな学びの意欲となった。レポートがうまく書けなくとも科目試験が不合格でもくじけずに頑張ることができたのは、リアルなつながりのおかげであることに間違いない。関わってくれた方々にこの場を借りて感謝を伝えたい

2024年は、困難な状況でも楽しむ心をもって取り組む1年にしていきたい。なぜなら楽しむ心を持つことで、どんな状況も乗り越えて目標を達成できるからである。それを証明してくれたのが甲子園で優勝した慶應義塾高校野球部だった。全国の強いチームが集まる甲子園で優勝できたのは、高いレベルの試合を成長ととらえて楽しむ心が他校より勝っていたこと、楽しむ心を持つことでやるべきことに集中することができたことだったと思う。楽しむ心はチャレンジを促し、集中を可能にし、頑張る気持ちを支える効果を生む。目標を達成するためには、楽しむ心を持つことが大事なのである。

2023年は、横浜慶友会のつながりに支えられ、学びを継続することができた。そのつながりに感謝する1年であった。2024年は楽しむ心を持ち、横浜慶友会の皆さんとともに半学半教を実践しながら、少しづつでも卒業に近づけるように頑張っていこうと思う。

2024年が皆様にとって幸多い年になりますように。

2024年1月

大切なこと

文学部第1類 出水田 有紀

私にとって入学3年目となる2023年は、思うように学習が進められず単位取得がままならない1年でした。「10年かけてじっくり学ぶ」という思いを「のんびりやればいいんだ。」とテキストに向き合うことから逃げていたようにも思います。

そんな中、10月になってようやく夜間スクーリングで、入学以来初めての対面授業を経験し、横浜慶友会の総会・勉強会・講演会・懇親会にもリアルで参加させていただきました。

コロナ禍で、様々なことがリモートやWEBで出来るようになり、初めの頃こそ不自由を感じていたものの、今では「リモートで出来るならそれでいいじゃない」という風潮になってきたように思います。

確かに、私自身も楽で効率の良いこの感覚に慣れてしまった感はあります。しかし、リアルの授業は楽しく、時間が経つのを忘れる程で、慶友会の仲間と同じ空間で過ごす感覚はとても心地よいものでした。パソコン画面越しでは話せなかったことも共有することが出来て、「悩んでいるのは自分だけではないんだな。」と勇気をもらえた気がします。改めて、近くで仲間の存在を感じ、言葉を交わすことが大切なことだと身に沁みて感じています。

学びの進め方、学びを続ける意味、ここにいる動機は様々ですが、同じ志を持っている方々と“横浜慶友会”という場を共有できることに感謝しています。

2024年「辰年」。龍のごとく上昇していきたいと思います。

2024年2月
復興を願つて

企画 正岡 純代

2024年は未曾有の大震災、能登半島地震で年が明けました。今年こそ災害のない1年にと願った矢先のことでした。被災し不自由な避難生活を強いられている方へ心からお悔やみ申し上げます。また無念のうちに命を奪われた方々に対しても、哀悼の意を捧げます。ご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご家族、関係者の皆様には心からのお悔やみをお送りいたします。

今、被災地では再び明るい日常を取り戻すべく行政、インフラ、医療、そして自衛隊各分野のプロフェッショナル達が日夜作業を続けています。

“日本は素人には住めない国だ。”と言った外国の方が居たそうです。安心してください。この国には、八百万の神以上、数千万のプロフェッショナルがいます。一日でも早く日常が取り戻せることを信じています。

さて、2月に入り2024年度第I回科目試験のレポート提出期限を月末に控えておりますが、皆様の勉強の進捗はいかがでしょうか？ 2月の定例会では2名の卒業生の方にミニ講演会をお願いしております。我々後輩にとって非常に有意義な話がお聞きできると思います。勉強の筆を一休みさせてぜひご参加ください。

2024 年3月

継続は力なり

文学部第 1 類 萩原 佳子

年1回発行される横浜慶友会の機関誌『埠頭』は、現在 65 号までを刊行。今年度の浜慶 HP の会員パスワードにもなっているように、次号 66 号の発刊に向けて、埠頭編集チームがゆっくりとではありますが、活動を開始いたしました。

途中廃刊の危機もあったと聞きますが、そうした危機をも乗り越えて 65 年、脈々と受け継がれてきたことを思うと感慨もひとしおです。その『埠頭』の編集に携わって、私自身も今年で 5 年目を迎えます。はじめは友人に誘われて何もわからないまま編集チームの一員となりましたが、今ではリーダーとなり、これまでの伝統を踏襲しつつ、会員の皆さんに喜んでいただけるような、よりよい誌面づくりを目指して試行錯誤を続けています。

最初はわからないことだらけでしたが、2 年目、3 年目…と続けていくなかで、浜慶スタッフの方々や会員の皆さんと多くの交流を持てたことは、誌面づくりのためだけでなく、日々の勉学や卒論に関する事など、多くのことを学ばせていただく良い機会となりました。そして、それは今も継続中です。

「継続は力なり」とはよく言ったもので、埠頭編集チームの一員として 5 年目、慶應通信生として 7 年目を迎えた今、物事は続けて実行することに意義があり、それが自分自身の力になるのだということを改めて実感しています。というのも、埠頭編集については、バタバタと時間に追われて動いていただけの一年目とは比べものにならないほど、編集作業や執筆者との交流を楽しみながら

誌面づくりができるようになりましたし、本業(?)の勉学についても、地道にコツコツ単位を積み上げて、ようやく卒論指導まで漕ぎ着くことができました。

何事も諦めないこと。通信生の場合はやめないこと。その先に必ずや卒業があると信じて、一歩一歩ゆっくりでも歩みを止めないことだと思っています。3月に卒業を迎える皆さま、ご卒業おめでとうございます。皆さまのあとに続くべく、これからも浜慶会員の皆さんとともに卒業を目指して歩みを進めていきたいと思います。

2024年4月 メディアセンター活用のすすめ

総合科目 経済学部 鈴木 陽子

4月に入学された皆さん、おめでとうございます。通信教育課程での学びという新たな挑戦にわくわくドキドキされていることだと思います。何からどう手をつけたらいいのかわからないという方もいらっしゃると思います。すでに入学されている方の中にも、思うように単位取得に繋がらないと悩んでいる方もいるのではと推察します。

総合科目の情報交換会では、総合の科目だけでなく、週末・夜間・夏期の各スクーリングやメディア授業についての話題にも触れ、臨機応変に効果的な学習に繋がるよう情報を交換しています。学習についての具体的な内容でなくとも、例えば、やる気の出し方や時間のやりくりなど、雑談的に情報を交換することもありますので、学部を問わずどうぞ一度参加してみてください！

卒業までの道のりは山あり谷あり。私自身、昨年度は「停滞」の年でした。

そこでモチベーションを保つため活用したのが「メディアセンター」です。学生証があれば入館でき、自習スペースも利用できます。もちろん蔵書も豊富です。先日旅したエジプトの関連本はどの書店よりも多く、大いに活用させてもらいました。私がよく利用する湘南藤沢キャンパスのメディアセンターはいつ行っても貸し切りのように空いています。なにより数多の書籍に囲まれているとなんとなくやる気が出てくるから不思議です。レポート作成の最中にわからないことに遭遇しても、その疑問に答えてくれる書籍をすぐ手に取れる贅沢。この環境を使わない手はないです。Wi-Fiも使えるメディアセンター。もし可能な環境でしたらメディアセンターを最大限活用して学習を進めてみてはいかがでしょうか。

2024年5月 新入会生のかた横浜慶友会へようこそ

法学部甲類 渡部 外彦

5月は新緑でそこに風を受けて清々しい季節である。近年は温暖化の影響がより進み、今までの良い風景が環境の変化で壊れそうでもある。その風景が変化するのを何とかもとに戻し、壊れることを避けたいと思う。困難なる環境改善は私たちのやるべきテーマであるようだ。

さて、本会にも多くの新入会生を迎えると新しい風を運んでくる。その風を受けながら、それぞれの方の卒業に向けての活動に少しでもお役に立ちたいと考える。思えば24年前仕事をしながら勉学を志し、仕事と家庭と勉学とすべてをやりぬきたいと始めたが忙しくなると勉強が一番後回しになる。それを避けるために「時間をいかに生み出すのか」からスタートして電車内や待ち時間

のホームのベンチで教科書を開き、記憶の定着や論述展開に苦労した。その初心は「学問を身に付け卒業するぞ」でした。その心をもって今も学部を増やして勉強していることが知識をもたらし、困難な問題にも向き合い解決し、人生を豊かにしていると思う。「初心忘れることなかれ」と新しい方にはメッセージとして送りたいと思う。

2024年6月

横浜慶友会活動へ参加しましょう

会計 経済学部 野本一昭

5月の横浜慶友会例会において、新入会員の方々の歓迎会及び卒業祝賀会が開催されました。横浜慶友会も新たなメンバーを迎えスタートを切ったところです。

昨年来リアルの活動が増えてきたとはいえ、以前のような定期的なリアルの活動・勉強会が少なくなってきたことは個人的には少し残念に思っています。COVID-19以降、オンラインでの活動が定着化してきました。忙しい時などに、PCなどの環境さえ整えば、自宅や外出先から慶友会活動などに参加できます。これは大変便利でよいことだと思いますが、一方、リアルの場でface to faceでの活動が減ってきてすることは、これはまた一つのデメリットではないかと考えています。

慶友会には本当にいろいろなバックグラウンドを持った方がいらっしゃいます。その多くの方が仕事をされながら勉強もされていると推察していますが、皆さん豊富な知識と経験を積まれている方々が多い、と私は常々感じて

います。そういう意味で、face to face で会話ができるリアルでの活動は、勉強に関するヒントなどを得るだけでなく、勉強以外でもいろいろな話や意見などを聞ける貴重な場だと思います。しかしながら、それはオンラインの参加ではなかなかできないことです。

通信教育の勉強は長丁場で、一人で取り組むのはなかなか難しいものがあります。新入会員の方々だけでなく入会年数が浅い方の中には、横浜慶友会に入ってみたものの以前とあまり状況は変わっていない、勉強やレポートの取っ掛かりがなかなか掴めないなど、迷っているような方がまだおられるかもしれません。もしそのような方がおられましたら、一度横浜慶友会のリアルの活動にも参加してみてください。きっと何かしら得るもの、感じることがあるかと思います。縁あって横浜慶友会メンバーになったので、みんなで卒業をめざして頑張りましょう。

2024 年 7 月
大学という森で迷わないために。
我々と一緒に歩きましょう。

文学部第 3 類 野見山 洋樹

大学という場所での学びは、自主性、そしてモチベーションの維持が求められます。ですが、通信制教育課程は、なかなか難しいのが現状かと思います。また

「どうやって、レポートを書いたらいいの？」
「参考文献の探し方は？」

「レポートの書き方は?」

「テスト対策って?」

このように、一人での学習は迷うことばかり。本来、楽しくて有意義な学びの森であるはずの大学で、道に迷うことも珍しくありません。横浜慶友会は、卒業生の輩出実績多数。また、メンバーも入学したばかりの方から、学習に習熟した方まで、実に様々。年齢や職業も様々で、多くの方を受け入れています。

もちろん、慶應義塾大学の精神である、お互いに教え合う精神が浸透した伝統ある通信教育課程の会の一つです。我々のことを一言でいうなら、皆それぞれが支え合って、大学の森の中を歩き、無理なく「卒業」という頂上を目指す会です。キャンパスでの勉強会参加が難しい方は、インターネット上の勉強会参加など、柔軟な対応も完備ずみです。

一人よりチームでの学びの場を。我が会の会員と共に歩けば、道に迷うことも少なくなるのではないかでしょうか。また、定期的な講師派遣も実施しており、大学で実際に教鞭を執っておられる講師派遣による直接指導を受けることができます。加えて、定期刊行物もお送りしています。つい距離を置いてしまいかちな、日々の学びを忘れず、他の方の努力している姿を知ることで、モチベーションを保つこともできます。

キャンパスでの勉強会の見学も歓迎しています。関心を持たれた方は、遠慮なく連絡してください。一緒に私たちと学びましょう。

危機管理における横浜慶友会の基本姿勢

2024 年度横浜慶友会会长 塚田 光博

横浜慶友会は、学生間の学習上の啓発を目的として自主的に結成している公認の学生団体です。本会会員は、慶應義塾大学の塾生としての自覚をもち、責任ある行動に努め、有意義な学生生活を送るように努めてください。

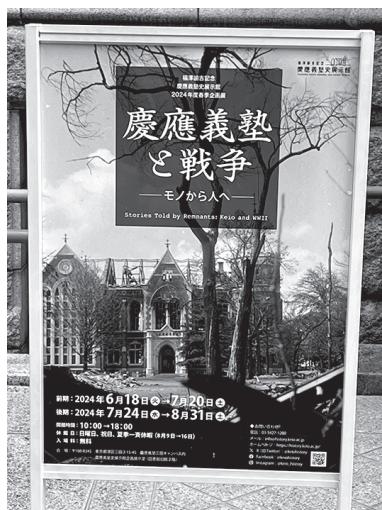
塾生ガイド・イントロダクション「学生生活上の注意喚起」には、第一に「協生環境推進憲章」（2019年9月20日制定）を遵守し、つねに「気品の泉源、智徳の模範」にふさわしい行動・言動をこころがけること、第二に「具体的な学生生活上の諸注意」が記載されています。本会会員は、これらを最低限の原則として、遵守してください。

学習活動においては、メール、SNS の使用やオンライン会議等の機会が多くあります。その際に他人を傷つけ、人権を侵害するような発言は、許されるものではないことを十分自覚してください。また「不適切な行為の禁止」、「危険な飲酒行為の禁止」、「性加害行為の禁止」の項目については、リアル活動が復活した現在、各種行事においては無論のこと、仲間内の会合においても、これら諸注意を厳守してください。また塾生ガイド・学生生活編「学生生活のサポート」の章には、「ハラスメント防止のガイドラインとハラスメント防止委員会」が記載されていますので、一読することをお勧めいたします。

横浜慶友会規約では、第 11 条（迷惑行為の禁止一本則）、第 11 条の 2（迷惑行為一情報漏洩の禁止）、第 11 条の 3（迷惑行為一情報目当て行為の禁

止)、第13条(個人情報の取り扱いについて)の各条において、危機管理に関する内容を定めております。本年度は幸いにも、これらの規定が適用されるトラブルの報告はされていませんが、相手の寛容さに許されている場合や、時間の浪費になるため問題を表面化させないということもありますので、一人一人が良識ある自覚をもって、行動するよう努めてください。

横浜慶友会は、年齢層やおかれている社会背景など、様々な多様性をもつ人たちの集まりです。この多様性を認め合い、お互いの人格を尊重し、協力しあう大切な仲間の集いとして学習活動に参加されるよう、お願いいいたします。



ウクライナ、ガザが悲惨な今

横浜慶友会規約

第1条（名称）

本会は慶應義塾大学通信教育部学生が自主的に結成する地域団体であり、名称を「横浜慶友会」と称する。略称は「浜慶（カタカナ、ローマ字表記も使用可）」とする。

第1条の2（所在地・事務所）

本会の所在地は原則として会長宅に置く。ただし、資金・口座管理は会長の委任を受けた会計が行い、口座管理上の事務所の所在地は会計宅に置く。

第2条（目的）

本会は会員相互の学習上の啓発を目的とし、各種行事を行う。

第3条（会員の対象）

本会は慶應義塾大学通信教育部の学生、および本会出身の卒業生で構成する。

第4条（会員の資格と審査が必要な場合）

本会は、定められた会費を納入した者を会員とし、会員証を授受する。11月の月間機関紙（P E N）発行日まで前年度の資格とし本会での権利を得、義務を負う。ただし第10条、第11条各項の要件に該当する者は、会員資格について運営スタッフの審査を受ける。会員は、規約を遵守しなければならない。行事により見学者等、会員外の参加を認めることがある。

第4条の2（届出事項の変更と退会）

会員は、学籍番号、学部、住所、氏名等に変更がある場合、および年度途中で退会する場合は、会長に届け出なければならない。指定期日迄に年会費が未納の場合も退会の意思とみなす。

第4条の3（会員証の発行）

本会は会員に対して会員であることを証明するために会員証を発行する。

第5条（会長および運営スタッフ等の設置）

本会は会の運営を円滑に行うため、会長および運営スタッフを置く。運営スタッフは第5条の2の運営単位とするが、相互に協力して本会の事業を運営する。また、必要により相談役（アシスタント待遇）を置くことが出来る。

第5条の2（運営スタッフの主な役割）

本会は次の通り役割を分担する。

- | | | |
|-------------|-----|--|
| 1. 会長 | 1名 | 会を代表し、これを統括する。 |
| 2. 副会長 | 1名 | 会長を補佐する。 |
| 3. 法学部リーダー | 1名 | 法学部勉強会を代表し、これを統括する。 |
| 4. 経済学部リーダー | 1名 | 経済学部勉強会を代表し、これを統括する。 |
| 5. 文学部リーダー | 1名 | 文学部勉強会を代表し、これを統括する。 |
| 6. 総務 | 3名 | 入会に関する広報と会場手配を行う。 |
| 7. 会計・会員管理 | 2名 | 会の財政と会員管理を行う。 |
| 8. 企画 | 2名 | 親睦行事、入学式勧誘、講演会の企画実行・記録、卒業生を祝う会を行う。 |
| 9. P E N 編集 | 4名 | 月間機関紙「P E N（ペン）」の編集・発行を行う。 |
| 10. W E B | 2名 | 横浜慶友会H P（ホームページ）及び各メーリングリスト（F B、ツイッター等を含む）の管理・運営、ニュースレター寄稿を行う。 |
| 11. 学習資料 | 4名 | アンケートなど会が収集する学習資料の整理・発行を行う。 |
| 12. 埠頭編集 | 3名 | 年間誌「埠頭」の編集・発行を行う。 |
| 13. 勉強会等 | 若干名 | 卒論、総合科目、教職、その他の科目履修に関連して、会員は任意に勉強会の企画・運営を行う。
スタッフおよびアシスタント、O B会は兼任することができる。 |

第5条の3（会長および運営スタッフの任期）

会長および運営スタッフの任期は11月1日から翌年10月末とし、会長の任期は原則2期2年迄とする。ただし、総会で承認を得た場合は、会長の任期を1年単位で延長することができる。

第5条の4（会長および運営スタッフの選出と任命）

会長および運営スタッフの選出は、定期総会で行う。会長の任命は、総会で承認を得なければならない。運営スタッフは、会長が推薦・提案し、総会で報告しなければならない。中途退任が出た場合は、アシスタントで補充し例会等で報告しなければならない。

第5条の5（アシスタント）

本会の運営に当たっては、スタッフのほかに運営単位ごとに会員の中から補助要員としてアシスタントを募ることが出来る。

第5条の6（OB会の設置）

本会では、本会出身卒業生を特別会員としてOB会を構成する。

第5条の6の1（OB会の役割、監査、選挙管理）

OB会は本会目的の達成のため、各行事に協力するとともに、会計および運営監査、選挙管理を行う。会計監査および選挙管理は年1回（10月）行う。任命に当たっては会長が推薦し、総会で承認を得なければならない。

第6条（総会）

会の最高議決機関である。原則として10月に定期総会を行う。

第6条の2（総会の手続きと成立）

総会の召集・議案提出は会長が行い、召集は「H P」または「P E N」、「ニュースレター」、その他文書で公示する。総会は、会員の5分の1以上の出席により成立する。ただし、会員は「H P」などを用いた電子的な委任宣言または委任状をもって出席に代えることができる。

第6条の3（総会の議決）

総会の議決は出席会員の過半数により成立する。

第6条の4（臨時総会）

会長は必要があると認めたときは、総会を臨時に召集することができる。

第7条（運営ミーティング）

運営ミーティングは、運営スタッフおよび一般会員で構成され、会の運営について協議する。ミーティングは会長が召集し、原則として月1回例会日に開催する。

第7条の2（紛争や問題の処理）

本会内で発生した紛争や問題の処理は、臨時ミーティングで協議し、法と本会規約に照らし合わせて処理をする。ミーティングの形態、出席対象はその都度事前に会長が指示する。必要によりオブザーバーを出席させることができる。

第7条の3（情報公開）

会長および運営スタッフは、本会内で発生した重要な問題への協議結果について例会を基本として、会員に情報公開しなければならない。ただし、プライバシーへの配慮と守秘義務を負う。

第8条（会費と収入・支出）

次の1.2項を会費とする。途中入会でも会費は規定に従い割引かない。次の各項をもって会計を運営する。

1. 正会員 年会費2,500円。ただし4月以降入会の会員は1,500円とする。
2. 特別会員（卒業生） 年会費1,000円
3. 寄付金、雑収入など、会費以外の収入。
4. 会合、行事に際し、別途参加費を徴収することができる。ただし本会の会計には取支を反映させない。
5. 本会の運営、各種行事等に必要な費用の支出を行う。適宜、事業・実施要領を作成する。

第8条の2（会計年度と予算）

本会の会計年度は、10月1日より翌年9月30日までとする。毎年簡易な予算案を作成し総会で報告する。

第8条の3（会計報告）

会計は、年度末に会計監査を行い、10月の定期総会において会計および監査報告を行わなければならぬ。

第8条の4（運営に関する報酬）

本会は、運営に携わるスタッフやアシスタント等に年会費相当額までの報酬を年一回支払うことが出来る。支払の有無、および支払い方法、その報酬額、対象については、ミーティングで年度毎に基準を見直す。会場予約や三田会など行事対象が強制的で指定日に限る場合は必要により交通費、会費等を支払うことが出来る。

第9条（行事）

本会は、その目的を達成するために次の行事を行う。毎年簡易な活動概要・活動案を作成し総会で報告する。

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1. 例会（月例会、夜間例会） | 5. 他の団体との交流 |
| 2. 学習会および研究会、合宿等 | 6. 講演会 |
| 3. レクリエーション、卒業生を祝う会 | 7. 各種学習アンケート |
| 4. P E N および埠頭の発行・W E B 運営 | 8. その他（これに該当しない情報交換会等） |

第10条（会員の権利および義務）

本会の諸行事への参加は全員の権利であり義務である。情報を得る以上、会員相互のコミュニケーションや情報交換は会員の義務であり権利である。会員は、本会主催の定例会に年1回以上出席しなければならない。

なお、定例会に一度も出席しない者は、第11条に準じて本会の権利を停止することがある。

第10条の2（会員証の提示）

会員は、例会および勉強会、情報交換会その他本会の行事の一部に参加する際には会員証を携帯し、これを掲示するものとする。一部行事については会員証を携帯していない場合は参加を断ることができる。一部行事の具体的な内容についてはミーティングで議論し、例会で報告するものとする。

第11条（迷惑行為の禁止一本則）

本会の名誉を著しく損ね、本会を商行為に利用するなど、本会の秩序や公序良俗に反するような迷惑行為を犯した者はミーティングで議案し、出席者の過半数の賛成により、退会または行事への参加停止にすることが出来る。なお停止の期間は最長1年間とする。また、学則違反やセクハラ防止ガイドラインに抵触する行為をした者も同様とする。

第11条の2（迷惑行為－情報の漏洩の禁止）

本会から提供する情報は、会員相互の協力で得られる貴重な情報である。よって、本会の承諾なしに本会が提供する情報を会員以外に漏洩させた事が発覚した者は、第11条に準じて処分する。

第11条の3（迷惑行為－情報目当て行為の禁止）

本会の行事に参加せず、本会または会員より得られる情報のみを目当てに在籍することが発覚した者は、第11条に準じて処分する。

第12条（会員への連絡方法）

本会から会員への連絡事項については、原則H Pで公開するP E Nおよび例会で行うが、期日までに連絡できない等緊急を要する場合にはメール通知システムによる連絡を持って全会員に通知したとみなすことができる。

第13条（個人情報の取り扱いについて）

会員から提供されたプライバシーに係わる個人情報の取り扱いについては運営スタッフ、勉強会スタッフ

で適切に管理して、本会からの連絡やお知らせ等の送付及び勉強会等の学習交流を目的とする場合に使用し、会員の許諾若しくは同意なしに第三者へ提供することはないものとする。

ただし、慶應義塾大学通信教育部より年1回提出を義務付けられている塾生会員名簿（学籍番号、氏名）の提出に関しては、個別に同意を得ることなく提出を行う。

第14条

本規約は総会において改正され、即時に効力を発生する。

附則（施行） 本規約は昭和40年4月1日より施行する。

第21次改正	平成12年10月22日	一部改正	第22次改正	平成13年10月28日	全面改正
第23次改正	平成14年10月27日	一部改正	第24次改正	平成15年10月26日	一部改正
第25次改正	平成16年10月24日	一部改正	第26次改正	平成17年10月23日	一部改正
第27次改正	平成18年10月22日	一部改正	第28次改正	平成19年10月28日	一部改正
第29次改正	平成20年11月2日	一部改正	第30次改正	平成21年10月25日	一部改正
第31次改正	平成22年10月24日	一部改正	第32次改正	平成24年10月28日	一部改正
第33次改正	平成27年10月31日	一部改正	第34次改正	平成28年10月23日	一部改正
第35次改正	平成29年10月28日	一部改正	第36次改訂	平成30年10月21日	一部改訂
第37次改正	令和2年10月17日	一部改正			

名称・所在地

名称：慶應義塾大学 通信教育課程 横浜慶友会 会長 塚田光博

所在地：(個人情報のため省略)

<編集後記>

『埠頭 66 号』が発刊の運びとなりました。

原稿を書いて下さった会員の皆様、OB の方々、ご協力下さったすべての方に感謝致します。ありがとうございました。また、講師派遣ならびに特別講演、特別寄稿して下さった岡原先生、秋山先生に、この場を借りてお礼を申し上げます。

- 『埠頭』の編集作業に携わって 5 年。毎年夏スクをはさんで 7 月～9 月が主な編集作業期間となります。今夏の暑さは尋常ではないと感じます。ご寄稿下さった卒業生、会員の皆様に感謝しつつ、今年も暑さに負けず無事『埠頭 66 号』を発行できることに安堵しています。（萩原）
- 埠頭を長年読むと、勉強会を復活させたりメニューを増やしたり、運営方法を変えたりと、試行錯誤され時代毎の課題を克服されている事を感じます。伝統に学びながら新しい試みを。卒業に向けて、今自分に必要なものを得るためにアイディアを募り実現していく活動は、一人では出来なくとも力を合わせれば楽しく出来るんだ!? と思う事しばしば。皆様もどなたかと一緒に、浜慶の運営に参加されませんか？（福田）
- 『埠頭 63 号』の編集チームに参加させてもらってから、今回で 4 回目になりました。役は、3 年程で交代して次の方にバトンタッチしていくのが良いと言われています。埠頭に少しでも興味のある新しい方の参加を是非お待ちしています！（古屋）

2024年
『埠頭 66 号』

2024年9月30日

発 行 横浜慶友会
編 集 横浜慶友会 埠頭編集担当
古屋裕子 萩原佳子（文学部）
福田恵子（法学部）
写真提供 佐藤修 塚田光博 萩原佳子 福田恵子
古屋裕子 渡部外彥
印 刷 ハラマチ印刷

無断での複写・転載を禁じます。

【写真】表紙：日吉記念館
表紙見返し：三田・東門
裏表紙見返し：三田・図書館旧館